

第2次刈谷市国際化・多文化共生推進計画策定
国際化・多文化共生のまちづくりのための
アンケート調査

報告書（素案）

令和5年2月

目次

第1章 調査の概要	1
1-1. 調査の目的等	1
1) 調査の目的	1
2) 分析の視点	1
1-2. 調査の方法・内容	2
1) 調査の対象と方法.....	2
2) 調査の実施期間.....	2
3) 回収率	2
4) 設問項目	3
5) 報告書の表記について.....	4
第2章 外国人市民アンケートの結果	5
2-1. 回答者の属性	5
1) 性別	5
2) 年齢	5
3) 国籍	6
4) 在留資格	6
5) 刈谷市／日本の在住年数.....	7
6) 住宅の種別	8
7) 仕事の雇われ方.....	8
2-2. 日本語能力	9
1) 聞くこと	9
2) 話すこと	9
3) 読むこと	10
4) 書くこと	10
5) 日本語で困った時.....	11
2-3. 情報入手・相談先	12
1) 必要な情報入手に関する施策評価.....	12
2) 行政の制度やサービスの認知度.....	13
3) 母国語でほしい情報	15
4) 外国人市民向けサービスや活動の認知度.....	16
5) 困りごとの相談先に関する環境評価	17
2-4. 日本人との交流	17
1) 日本人の友人・知人の有無.....	17
2) 日本人の友人・知人の関係.....	18
3) 地域の日本人との交流意向.....	19
4) 日本人とのコミュニケーションギャップの有無	20
5) 日本人とのコミュニケーションギャップの内容	21

2-5. 子育て・災害・医療福祉・労働	22
1) 子育てに関する施策評価.....	22
2) 同居の子ども.....	22
3) 子育てや教育で困ったこと.....	23
4) 地震への備え.....	24
5) 医療環境に関する施策評価.....	26
6) 地域福祉に関する施策評価.....	27
7) 働く会社における外国人社員に対する取組.....	28
2-6. 多文化共生のまちづくり	29
1) 住みやすさ評価.....	29
2) 日本での永住意向.....	30
3) 永住したい理由.....	31
4) 多文化共生に関する評価.....	32
5) コミュニティへの役立ち意向.....	33
6) 同国コミュニティへの関わる内容.....	34
7) 多文化共生のために日本人市民に必要なこと.....	35
8) 多文化共生のために外国人市民に必要なこと.....	37
9) 多文化共生のために刈谷市役所（行政）に必要なこと.....	39
10) 具体的提案の有無.....	41

第3章 日本人市民アンケートの結果..... **42**

3-1. 回答者の属性	42
1) 性別・年齢.....	42
2) 刈谷市の在住年数、住宅の種別.....	42
3-2. 外国人との関わり	43
1) 外国人市民の身近さ.....	43
2) 外国人市民との関わり.....	43
3) 関わった外国人市民との意思疎通の方法.....	44
4) 外国人市民からの相談経験.....	45
5) 相談の内容.....	45
6) 相談への対処方法.....	45
7) 外国人市民との交流意向.....	46
8) 外国人とのコミュニケーションギャップの有無.....	46
9) 外国人とのコミュニケーションギャップの内容.....	47
3-3. 外国人が増えることへの考え	48
1) 外国人住民が増えることへの期待.....	48
2) 外国人住民が増えることへの不安.....	49
3-4. 多文化共生のまちづくり	50
1) 多文化共生の言葉の認知度.....	50
2) 多文化共生に関する評価.....	51
3) 外国人市民向けサービスや活動の認知度.....	51
4) 多文化共生のために日本人市民に必要なこと.....	52
5) 多文化共生のために外国人市民に必要なこと.....	53
6) 多文化共生のために企業必要なこと.....	54

7) 多文化共生のために刈谷市役所（行政）に必要なこと	55
8) 外国人の支援者として行政に協力できること	56

3-5. 地球規模の共生	57
1) SDGs の認知度	57
2) SDGs の達成に向けた行動実行度	57
3) 多文化共生のための具体的提案、心温まるエピソードの有無	58

第4章 市職員・市各部署等アンケートの結果 60

4-1. 回答者の属性	60
1) 所属部署等	60
2) 性別	60
3) 年齢	60

4-2. 職務での外国人との関わりと課題	61
1) 外国人市民との関わりの有無	61
2) 関わった外国人市民の国籍	62
3) 関わった外国人市民との意思疎通の方法	63
4) やさしい日本語の認知度・使用度	64
5) 意思疎通における言葉の壁を感じる程度	65
6) 送付文書における言葉の壁を感じる程度	66
7) 伝達時に制度や習慣の壁を感じる程度	67
8) 自分自身の心の壁を感じる程度	68
9) 改善すべき課題と解決のための提案	69

4-3. 改善すべき課題と解決のための提案の内容	70
1) 分類	70
A) 制度の難解さや関わるスタンスに関するもの	70
B) 窓口等での会話言葉に関するもの	71
C) 文書の多言語化や外国人向け情報発信に関するもの	72

4-4. 市各部署等単位の回答	73
1) 外国人市民との関わりの内容	73
2) 令和4年4月からの問題点や課題	73
3) 今後取り組むとよいと考える手立てや対策	73

第1章 調査の概要

1-1. 調査の目的等

(1) 調査の目的

本市の外国人市民、日本人市民、市職員及び各部署等の国際化・多文化共生に関する意識や実態を把握し、今後の本市における国際化・多文化共生のまちづくりに資する課題や意向等の基礎データを得る。

(2) 分析の視点

本調査は、上記目的のほか、次の3つの視点をもって分析できるよう、できる限り設問項目の設定を行った。

分析の視点	説明
① 国際化・多文化共生の目的、現計画のビジョンの進捗状況を把握する	◇ 第2次計画でも大切な考え方として引き継ぐ方針である国際化・多文化共生の4つの目的※ ¹ 及び現計画のビジョン※ ² に関する現状がどうなっているのかを把握する。
② 現計画策定時の状況からの変化を把握する	◇ 現計画策定時に行った同じ設問で、11年前からの変化を調べ、点検・評価する。ただし、外国人市民は国籍の構成比の変化が著しいため、単純には比較できないことに留意する。
③ 外国人市民の永住化に伴う課題にフォーカスする	◇ 外国人市民の永住化に伴い、外国にルーツを持つ子どもの増加、外国人市民の高齢化が進み、それに応じた行政サービス（子育て・教育、福祉、防災等）について検討するための状況を把握する。

※1：国際化・多文化共生の4つの目的…多様性を成長につなげる／地球規模の共生をすすめる／すべての人の人権もまもる／共存・協働のまちをつくる

※2：現計画の主なビジョン（将来こうしたいまちの姿）

「地域」…誰もが、地域の住民に関心を持ち、それぞれの文化を大切にし、認めあい、助けあっている。

「教育の場」…すべての子どもが、等しく義務教育を受けられ、卒業後に向けた支援体制が整っている。

「公共施設・機会」…誰もが、言葉の壁なく、公共サービスをスムーズに受けられる。

「企業・職場」…誰もが、その能力を発揮し働く場や機会がある。

「地球規模」…貧困や環境など世界の共通の課題に対し、刈谷の持つ人的・経済的・技術的な支援や行動によって、人々の自立と共生に貢献している。

1-2. 調査の方法・内容

(1) 調査の対象と方法

各対象の調査数、調査方法などは、下表のとおり行った。

対象	調査数	母集団数	抽出方法	調査方法	備考
外国人市民	1,000人	5,139人 2022.11.1 現在	住民登録基本台帳から国籍別層化無作為抽出	郵送調査 Web 調査 併用	18歳以上を対象 郵送調査票はやさしい日本語版と外国語版を同封 (タガログ語、ベトナム語、ポルトガル語、中国語、英語)
日本人市民	1,000人	147,397人 2022.11.1 現在	住民登録基本台帳から無作為抽出	郵送調査 Web 調査 併用	18歳以上を対象
市職員 市各部署等	全数 全課等	1,356人 55部署等 2023.1.1 現在	全数調査	庁内 LAN による調査	職員個人への調査 市各部署等への調査

※Web 調査は、郵送調査文書に Web 回答用の QRコードを印刷し、日本人市民は日本語で、外国人市民には上記6言語から選んで回答できる形で実施した。

(2) 調査の実施期間

外国人市民、日本人市民の調査は、2022年12月中旬から下旬に行った。

市職員及び市各部署等の調査は、2023年1月中旬に行った。

(3) 回収率

各調査の回収率は、以下のとおりであった。

対象	発送数	未達数	送達数	郵送回答	Web回答	回答数	回収率	
外国人市民	1,000人	25人	975人	151人	67人	219人	22.5%	
国籍別	フィリピン	252人	1人	250人	43人	8人	51人	20.3%
	ベトナム	209人	3人	206人	28人	18人	46人	22.3%
	ブラジル	172人	11人	161人	20人	11人	31人	19.3%
	中国	157人	5人	152人	29人	17人	46人	30.3%
	その他の国籍	210人	5人	205人	31人	13人	45人	22.0%
日本人市民	1,000人	11人	989人	310人	108人	418人	42.3%	
市職員	1,356人	—	1,356人	—	—	1,308人	96.5%	

(4) 設問項目

各調査の設問の区分と設問項目は、下表のとおり行った。

① 外国人市民

区分	設問項目
A 属性など	性別／年齢／国籍／在留資格／刈谷市在住年数／日本在住年数／住宅の種別／仕事の雇われ方／日本での永住意向／永住したい理由
B 日本語能力	日本語能力(①聞く／②話す／③読む／④書く)／日本語で困った時
C 情報入手・相談先	必要な情報入手に関する施策評価／行政の制度やサービスの認知度／母国語でほしい情報／外国人市民向けサービスや活動の認知度／困りごとの相談先に関する環境評価
D 日本人との交流	日本人の友人・知人の有無／その関係／地域の日本人との交流意向／日本人とのコミュニケーションギャップの有無／ギャップの内容
E 子育て・災害・医療福祉・労働	子育てに関する施策評価／同居子ども／子育てや教育で困ったこと／地震への備え／医療環境に関する施策評価／地域福祉に関する施策評価／働く会社における外国人社員に対する取組
F 多文化共生のまちづくり	住みやすさ評価／多文化共生に関する評価／コミュニティへの役立ち意向／同国コミュニティへの関わる内容／多文化共生のために日本人市民に必要なこと／外国人市民に必要なこと／刈谷市役所(行政)に必要なこと／具体的提案

② 日本人市民

A 属性など	性別／年齢／刈谷市在住年数／住宅の種別
B 外国人との関わり	外国人市民の身近さ／外国人市民との関わり／意思疎通の方法／外国人市民からの相談経験／相談の内容／対処方法／外国人市民との交流意向／外国人とのコミュニケーションギャップの有無／ギャップの内容
C 外国人増への考え	外国人住民が増えることへの期待／不安
D 外国人と日本人の意識と認知度	多文化共生に関する評価／コミュニティへの役立ち意向／市民に向けた制度・サービスの認知度／外国人向けのサービスや活動の認知度／地震への備え
E 多文化共生のまちづくり	多文化共生の言葉の認知度／多文化共生のために日本人市民に必要なこと／外国人市民に必要なこと／企業に必要なこと／刈谷市役所(行政)に必要なこと／外国人の支援者として行政に協力できること
F 地球規模の共生	SDGsの認知度／SDGsの達成に向けた行動実行度／具体的提案・やりたいこと、心温まるエピソード

③ 市職員及び各部署等

市職員	A 属性など	所属(部・課等)／性別／年齢
	B 職務での外国人との関わりと課題	外国人市民との関わりの有無／関わった外国人市民の国籍／意思疎通の方法／やさしい日本語の認知度・使用度／意思疎通における言葉の壁を感じる程度／送付文書における言葉の壁を感じる程度／伝達時に制度や習慣の壁を感じる程度／自分自身の心の壁を感じる程度／改善すべき課題と解決のための提案
各部署等	外国人との関わりと課題、解決への手立て	外国人市民との関わりの内容／令和4年4月からの問題点や課題／今後取り組むとよいと考える手立てや対策

(5) 報告書の表記について

- ◇集計表の中における「割合」は、回答者数を母数にした比率を表している。nは回答者の実人数を表している。
- ◇回答者数は、本報告書では無回答を除く数としている。そのため、表中には「無回答」という選択肢は表記されず、無回答者を除いた「割合」となっている。
- ◇枝設問で前の設問において回答者を限定している場合には、回答者数は限定する該当者のみの人数となっている。
- ◇クロス集計で無回答がある場合には、クロス集計の各回答者の合計と全体の合計が一致しない。
- ◇表中において、2段で表している数値は、上段が回答者数、下段が割合（回答者数を母数にした比率）を表している。
- ◇表示した比率は、基本的に小数点以下第2位で四捨五入しているため、表示した比率の合計が100.0%にならない場合がある。ただし、クロス集計表において、nが100人未満となる場合は、小数点以下第1位で四捨五入している。
- ◇複数回答の割合の合計は100%を超える。
- ◇グラフ中の要素を表す数値は、すべて「割合」を示しており、%の表示を省いている場合もある。
- ◇日本人市民アンケートの設問のうち、調査区分「D外国人と日本人の意識、認知度の違いを調べるためにお聞きます。」の設問は、外国人市民の回答と日本人市民の回答結果を比較するために設けているため、「第2章外国人市民アンケートの結果」の方で取り扱っている。ただし、「問12 多文化共生に関する評価」、「問15 外国人向けのサービスや活動の認知度」については、「第3章日本人市民アンケートの結果」でも取り扱っている。

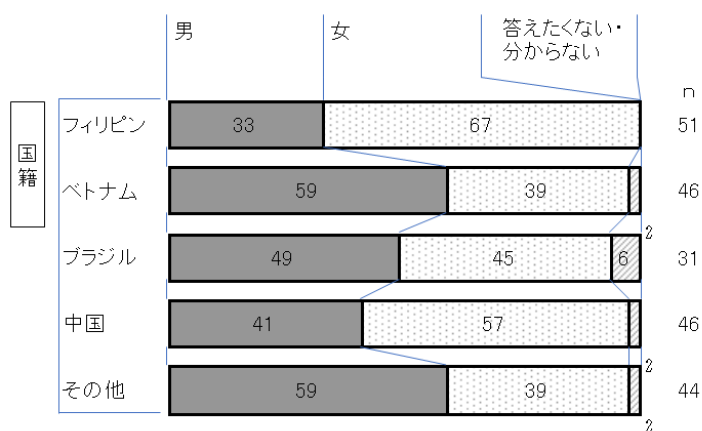
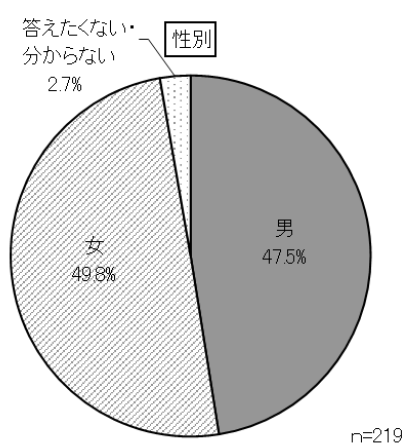
第2章 外国人市民アンケートの結果

2-1. 回答者の属性

(1) 性別

◇性別は、男性・女性が、ほぼ半々の割合となっている。

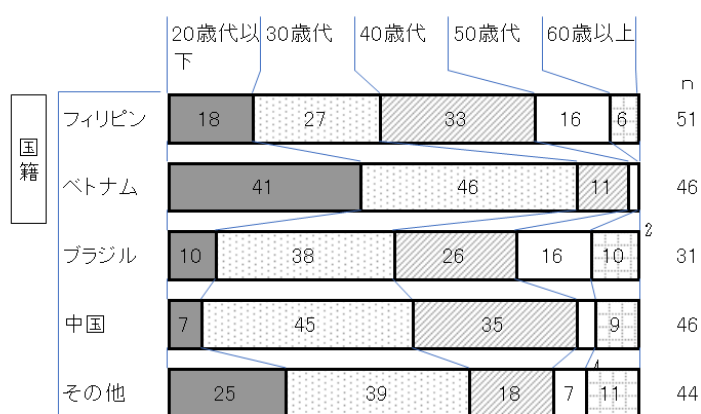
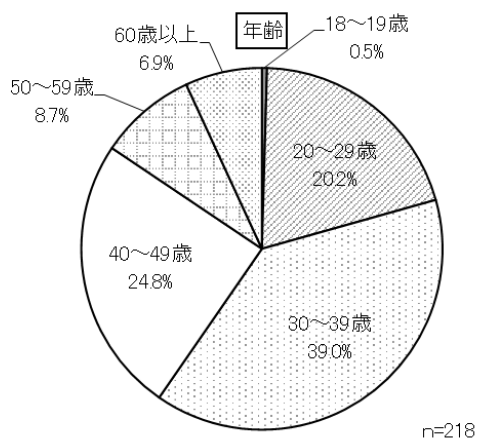
◇【国籍別】…ベトナム、その他は男性が多く、フィリピン、中国は女性が多い。



(2) 年齢

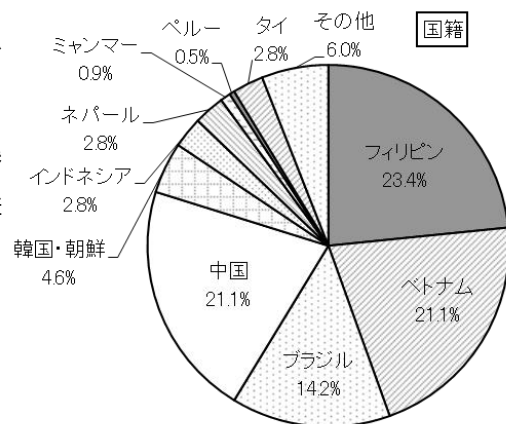
◇年齢は、30歳代が39.0%と最も多く、次いで40歳代24.8%、20歳代20.2%と、比較的若い世代が多くを占めている。

◇【国籍別】…ベトナム、その他はより若い世代の割合が高く、フィリピン、ブラジルは50歳以上の割合が相対的に高い。



(3) 国籍

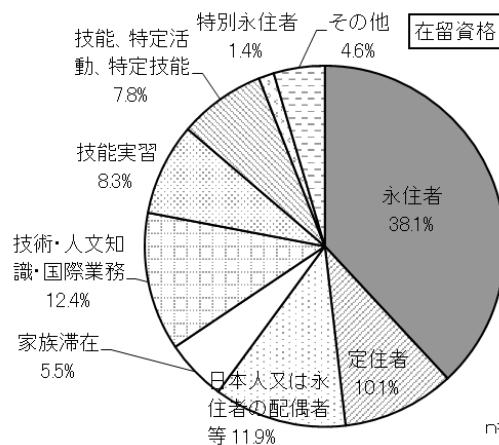
- ◇国籍は、フィリピンが 23.4%と最も多く、次いでベトナム 21.1%、中国 21.1%、ブラジル 14.2%などとなっている。
- ◇これらの構成比は、刈谷市在住の外国人市民の構成比（母集団）と比べて、やや中国の割合が高いものの、概ね同様な構成となっている。



n=218

(4) 在留資格

- ◇在留資格は、永住者が 38.1%と最も多く、技術・人文知識・国際業務 12.4%、日本人又は永住者の配偶者等 11.9%、技能実習 8.3%などとなっている。
- ◇【国籍別】…ベトナムは他の国籍とは異なり、技術・人文知識・国際業務が最も多くなっているなど、国籍によって来日・在留の背景が異なることから、それに伴い在留資格の構成比の傾向が異なっている。



n=218

国籍別

	合計	在留資格									
		永住者	定住者	日本人又は永住者の配偶者等	家族滞在	技術・人文知識・国際業務	技能実習	技能、特定活動、特定技能	特別永住者	その他	
全体	218 100%	83 38.1%	22 10.1%	26 11.9%	12 5.5%	27 12.4%	18 8.3%	17 7.8%	3 1.4%	10 4.6%	
主要国籍	フィリピン	51 100%	25 49%	8 16%	8 16%	1 2%	2 4%	5 10%	2 4%	0 0%	0 0%
	ベトナム	46 100%	5 11%	0 0%	3 7%	6 13%	12 26%	8 17%	9 20%	0 0%	3 7%
	ブラジル	31 100%	19 61%	11 35%	1 3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
	中国	46 100%	19 41%	1 2%	7 15%	3 7%	8 17%	1 2%	2 4%	0 0%	5 11%
	その他	44 100%	15 34%	2 5%	7 16%	2 5%	5 11%	4 9%	4 9%	3 7%	2 5%

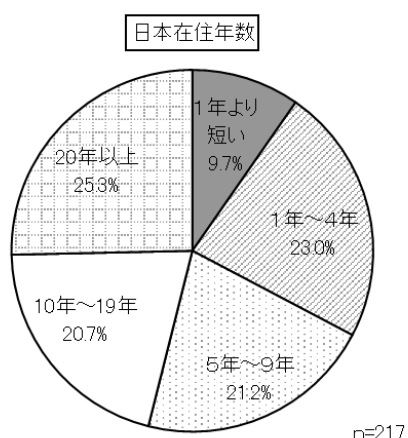
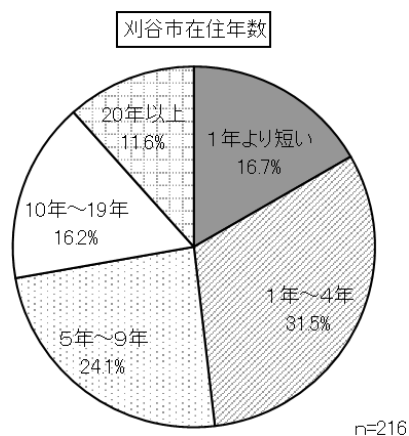
(5) 刈谷市／日本の在住年数

◇刈谷市の在住年数は、1～4年が31.5%と最も多く、次いで5～9年24.1%、1年未満16.7%、10～19年16.2%などとなっている。

◇日本の在住年数は、20年以上が25.3%と最も多く、次いで1～4年23.0%、5～9年21.2%などとなっている。

◇日本の在住年数について、刈谷市の在住年数より長い選択肢を選んだ割合は36.5%であり、少なくともその割合は他都市から転入してきたといえる。

◇【国籍別】…ベトナムで、刈谷市の在住年数が、1年より短いと1～4年の合計割合が69%を占め、他の国籍と比べて在住年数が短い。フィリピン、ブラジルは在住年数が長く、他都市から転入の割合も高い。

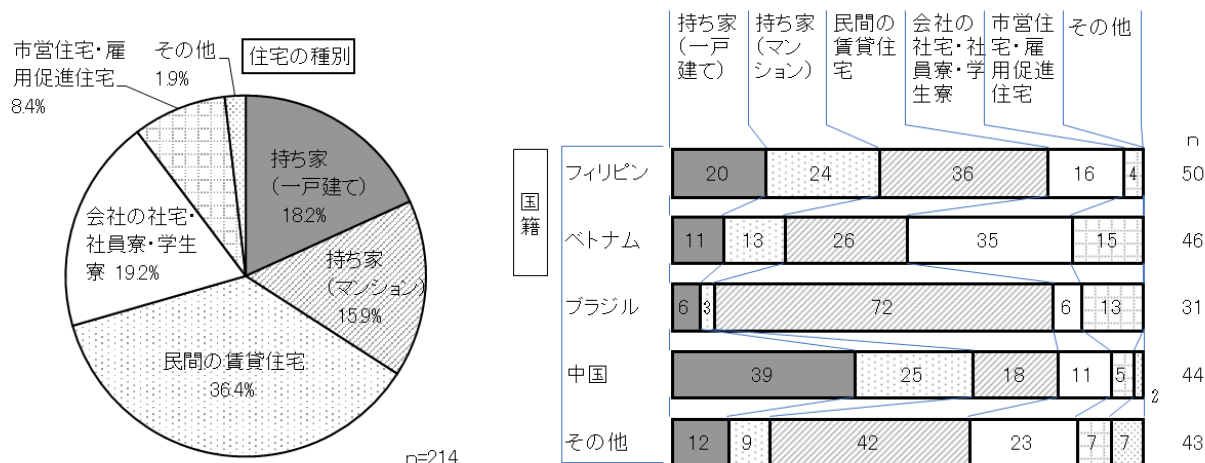


国籍	刈谷市在住年数					日本在住年数				
	1年より短い	1年～4年	5年～9年	10年～19年	20年以上	1年より短い	1年～4年	5年～9年	10年～19年	20年以上
フィリピン	8	24	32	18	18	6	10	20	33	31
ベトナム	22	47	24	7		13	48	28	9	
ブラジル	6	30	29	16	19	3	26	16	55	
中国	11	36	22	24	7	7	24	20	36	13
その他	34	23	11	16	16	20	25	14	7	34

(6) 住宅の種別

◇住宅の種別は、民間の賃貸住宅が 36.4%と最も多く、次いで、会社の社宅・社員寮・学生寮が 19.2%、持ち家（一戸建て）18.2%などとなっている。

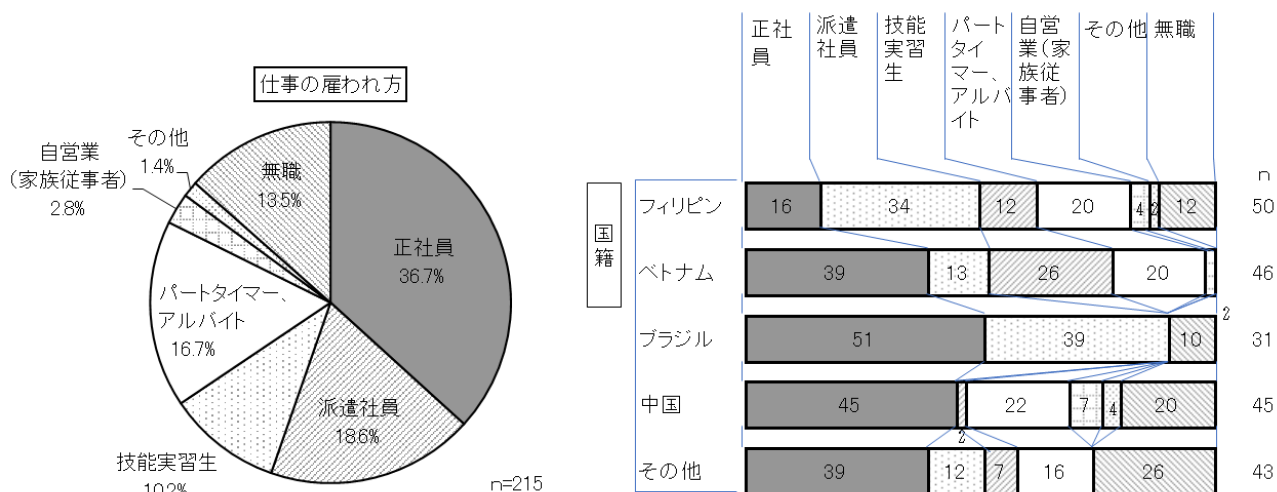
◇【国籍別】…中国は 39%が持ち家（一戸建て）、ブラジルは 72%が民間の賃貸住宅、ベトナムは 35%が会社の社宅・社員寮・学生寮が最多となっていることが特徴的である。



(7) 仕事の雇われ方

◇仕事の雇われ方は、正社員が 36.7%と最も多く、次いで、派遣社員 18.6%、パートタイマー・アルバイト 16.7%、技能実習生 10.2%となっている。

◇【国籍別】…フィリピンは正社員が少なく派遣社員が多い、ベトナムは技能実習生が比較的多く、ブラジルは 51%が正社員であることが特徴的である。



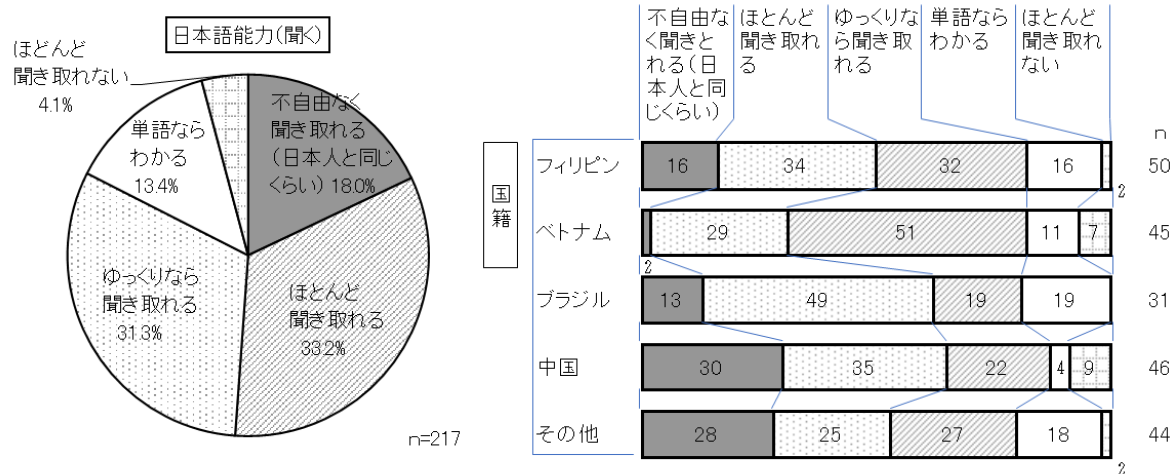
2-2. 日本語能力

(1) 聞くこと

設問… あなたは、どの程度、日本語ができますか？ ①聞く [1つだけチェック]

◇「聞くこと」について、「ゆっくりなら聞き取れる」以上の日本語能力の割合が82.5%となっている。

◇【国籍別】…「不自由なく聞き取れる」「ほとんど聞き取れる」の割合は、ベトナムが低く、中国が高い。

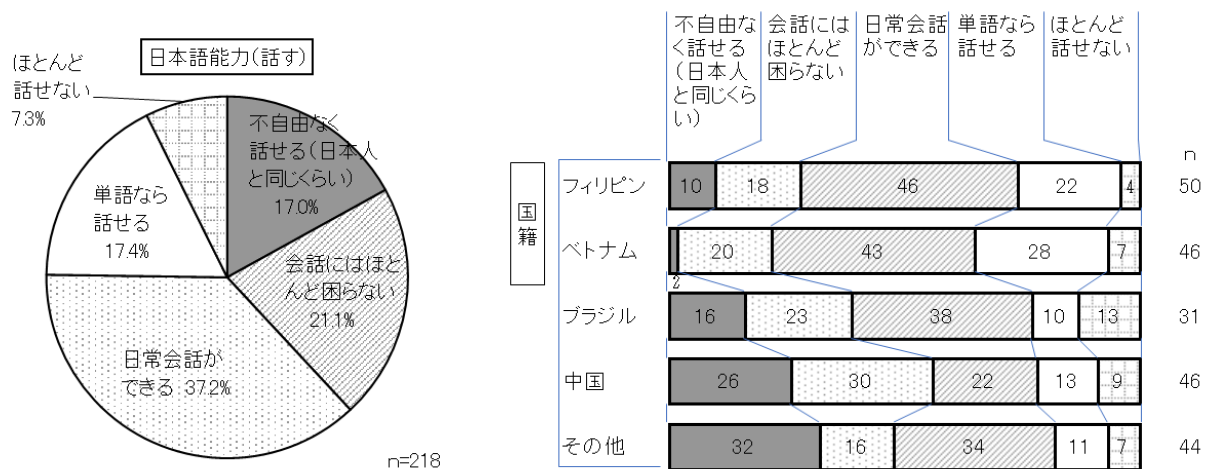


(2) 話すこと

設問… あなたは、どの程度、日本語ができますか？ ②話す [1つだけチェック]

◇「話すこと」について、「日常会話ができる」以上の日本語能力の割合が75.3%となっている。「聞くこと」より、7.2%その割合が低く、聞くことより話すこと的能力が低い傾向にある。

◇【国籍別】…「日常会話ができる」以上の割合は、ベトナムが低く、その他が高い。

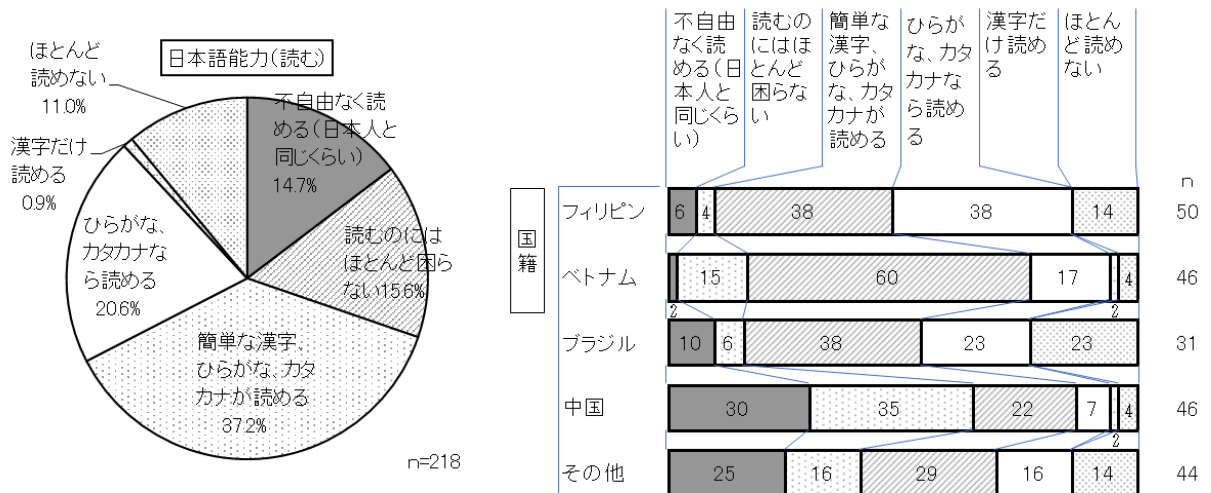


(3) 読むこと

設問… あなたは、どの程度、日本語ができますか？ ③読む [1つだけチェック]

◇「読むこと」について、「簡単な漢字、ひらがな、カタカナが読める」以上の日本語能力の割合が 67.4%となっている。

◇【国籍別】…「簡単な漢字、ひらがな、カタカナが読める」以上の割合は、フィリピンとブラジルが低く、中国が高い。



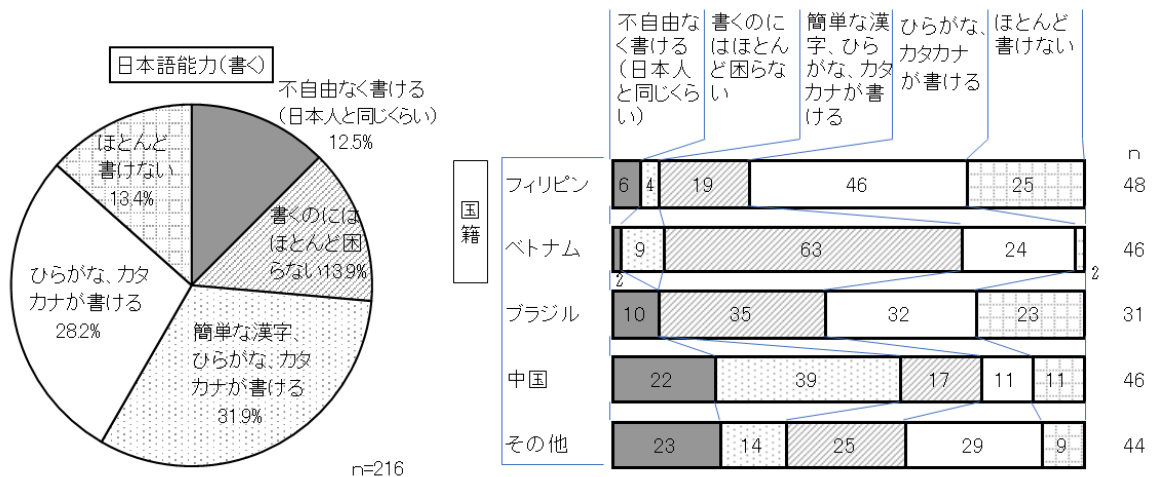
(4) 書くこと

設問… あなたは、どの程度、日本語ができますか？ ④書く [1つだけチェック]

◇「書くこと」について、「簡単な漢字、ひらがな、カタカナが書ける」以上の日本語能力の割合が 58.3%となっている。「読むこと」より、9.1%その割合が低く、読むことより書くことの方が能力が低い傾向にある。

◇「聞くこと/話すこと=会話」よりも「読むこと/書くこと」の方が、能力的に低い傾向となっている。

◇【国籍別】…「簡単な漢字、ひらがな、カタカナが書ける」以上の割合は、フィリピンとブラジルが低く、中国とベトナムが高い。



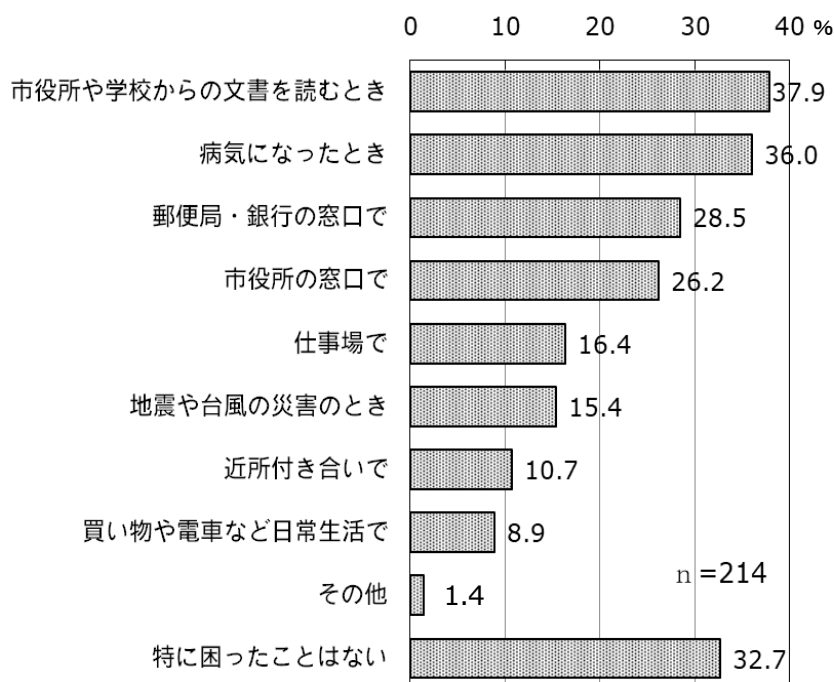
(5) 日本語で困った時

設問… あなたが最近、日本語で特に困った時は、どんな時ですか？ [5つまでチェック]

◇「日本語で特に困った時」は、「市役所や学校からの文書を読むとき」が 37.9%と最も高く、次いで「病気になったとき」36.0%、「郵便局・銀行の窓口で」28.5%、「市役所の窓口で」26.2%となっている。

◇一方、「特に困ったことはない」も 32.7%を占めている。

◇【国籍別】…多くの選択肢で、ベトナムが他の国籍と比べ困る割合が高くなっている。例えば「市役所や学校からの文書を読むとき」51%（13%増）、「病気になったとき」58%（22%増）となっている。一方、中国は「特に困ったことがない」が52%と困る割合が低くなっている。



国籍別

	合計	日本語で困った時(複数回答)										
		病気になったとき	市役所の窓口で	郵便局・銀行の窓口で	仕事場で	近所付き合いで	地震や台風の災害のとき	市役所や学校からの文書を読むとき	買い物や電車など日常生活で	その他	特に困ったことはない	
全体	214 100%	77 36.0%	56 26.2%	61 28.5%	35 16.4%	23 10.7%	33 15.4%	81 37.9%	19 8.9%	3 1.4%	70 32.7%	
主要国籍	フィリピン	48 100%	19 40%	10 21%	16 33%	11 23%	4 8%	10 21%	23 48%	5 10%	1 2%	12 25%
	ベトナム	45 100%	26 58%	20 44%	15 33%	13 29%	12 27%	9 20%	23 51%	1 2%	0 0%	5 11%
	ブラジル	30 100%	11 37%	3 10%	8 27%	4 13%	4 13%	6 20%	9 30%	4 13%	0 0%	11 37%
	中国	46 100%	12 26%	9 20%	8 17%	2 4%	2 4%	4 9%	9 20%	1 2%	2 4%	24 52%
	その他	44 100%	9 20%	14 32%	14 32%	5 11%	1 2%	4 9%	16 36%	8 18%	0 0%	18 41%

2-3. 情報入手・相談先

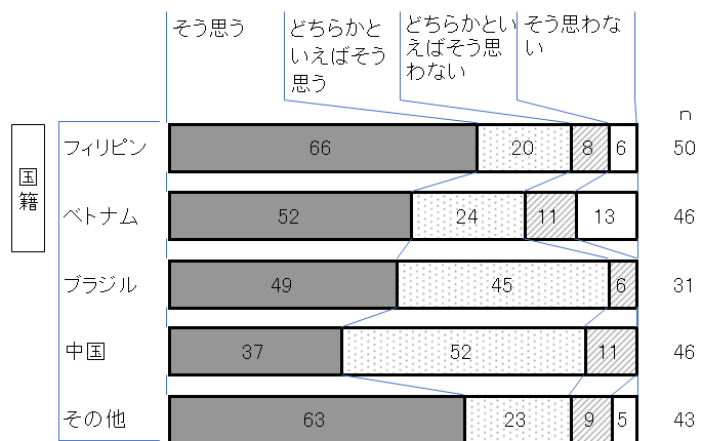
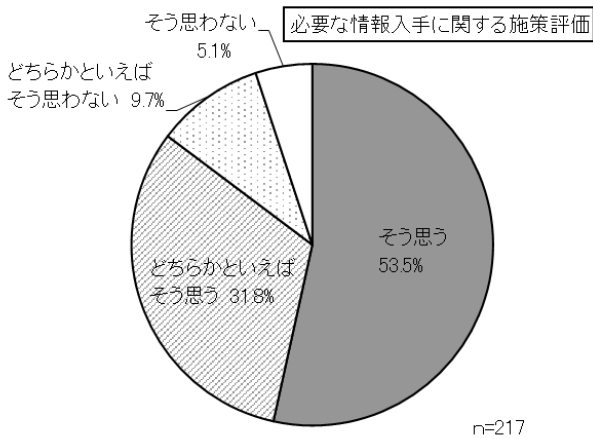
(1) 必要な情報入手に関する施策評価

設問… 刈谷市では、生活に必要な情報を得ることができますか？ [1つだけチェック]

◇「必要な情報入手に関する施策評価」は、肯定的な評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）の割合が85.3%と否定的な評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）の割合を大きく上回っている。

◇【国籍別】…肯定的な評価の割合は、ブラジルが94%と高く、ベトナムが76%と比較的低い。

◇【日本人市民との比較】…令和4年市民アンケートでの同じ質問では、肯定的な評価の割合が73.2%であり、日本人市民よりも外国人市民の方が高くなっている。特に「そう思う」の割合は43.2%高くなっている。



日本人市民との比較

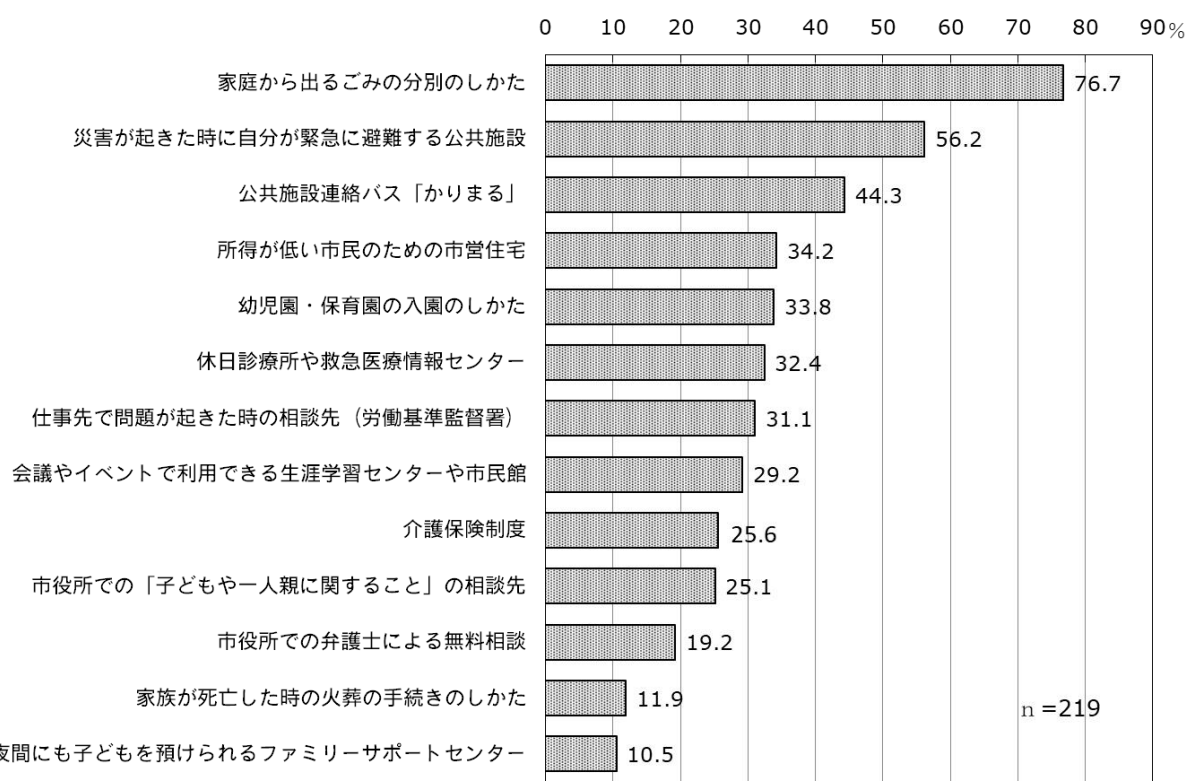
No.	選択肢	回答者数	割合	R4市調査割合
1	そう思う	116	53.5%	10.3%
2	どちらかといえばそう思う	69	31.8%	62.9%
3	どちらかといえばそう思わない	21	9.7%	22.4%
4	そう思わない	11	5.1%	4.4%
	全体	217	100.0%	100.0%

(2) 行政の制度やサービスの認知度

設問… あなたは次の行政の制度やサービスがあること、またはその利用方法を知っていますか？ [ある程度は知っているものすべてにチェック]

◇「行政の制度やサービスの認知度」は、①「家庭から出るごみの分別のしかた」が76.7%と最も高く、次いで②「災害が起きた時に自分が緊急に避難する公共施設」56.2%、③「公共施設連絡バス「かりまる」」44.3%などとなっている。すべての外国人の生活に関わる制度やサービスの認知度が比較的高い。

◇一方、「夜間にも子どもを預けられるファミリーサポートセンター」10.5%、「家族が死亡した時の火葬の手続きのしかた」11.9%、「市役所での弁護士による無料相談」19.2%など、特定の受益者に対する制度やサービスで、認知度が比較的低い。



◇【国籍別】…認知度上位3つの制度やサービスで見ると、認知度はブラジルが低く、中国が高い傾向がみられる。

国籍別

	合計	行政の制度やサービスの認知度(複数回答)													
		災害時避難場所	無料弁護士相談	死亡時の手続き	介護保険制度	子ども・子育て相談先	ファミリーサポートセンター	幼稚園・保育園の入園のしかた	仕事問題相談先(労働基準監督署)	低所得者市営住宅	公共施設連絡バス「かりまる」	生涯学習センターや市民館	家庭から出るごみの分別のしかた	休日診療所や救急医療情報センター	
全体	219 100%	123 56.2%	42 19.2%	26 11.9%	56 25.6%	55 25.1%	23 10.5%	74 33.8%	68 31.1%	75 34.2%	97 44.3%	64 29.2%	168 76.7%	71 32.4%	
主要国籍	フィリピン	51 100%	27 53%	12 24%	7 14%	17 33%	16 31%	7 14%	14 27%	26 51%	15 29%	18 35%	16 31%	35 69%	15 29%
	ベトナム	46 100%	20 43%	4 9%	2 4%	6 13%	5 11%	3 7%	14 30%	15 33%	17 37%	13 28%	7 15%	38 83%	13 28%
	ブラジル	31 100%	12 39%	7 23%	4 13%	9 29%	7 23%	3 10%	12 39%	5 16%	14 45%	14 45%	8 26%	19 61%	6 19%
	中国	46 100%	35 76%	7 15%	2 4%	6 13%	13 28%	6 13%	17 37%	9 20%	17 37%	28 61%	18 39%	41 89%	20 43%
	その他	45 100%	29 64%	12 27%	11 24%	18 40%	14 31%	4 9%	17 38%	13 29%	12 27%	24 53%	15 33%	34 76%	17 38%

◇【日本人市民との比較】…日本人市民アンケートでの結果と比較すると、「公共施設連絡バス「かりまる」」で、認知度が日本人市民 81.1%に対して外国人市民が 44.3%と差が 36.8%と最も大きくなっている。次いで、「休日や夜間の急病の際に連絡する休日診療所や救急医療情報センター」29.3%差、「災害が起きた時に自分が緊急に避難する公共施設」22.1%差、「家族が死亡した時の火葬の手続きのしかた」21.9%差である。

◇一方、「仕事先で問題が起きた時の相談先(労働基準監督署)」では、外国人市民の方の認知度が7.8%高くなっているなど、回答者の属性やニーズによって認知度は異なることに留意する必要がある。

日本人市民との比較

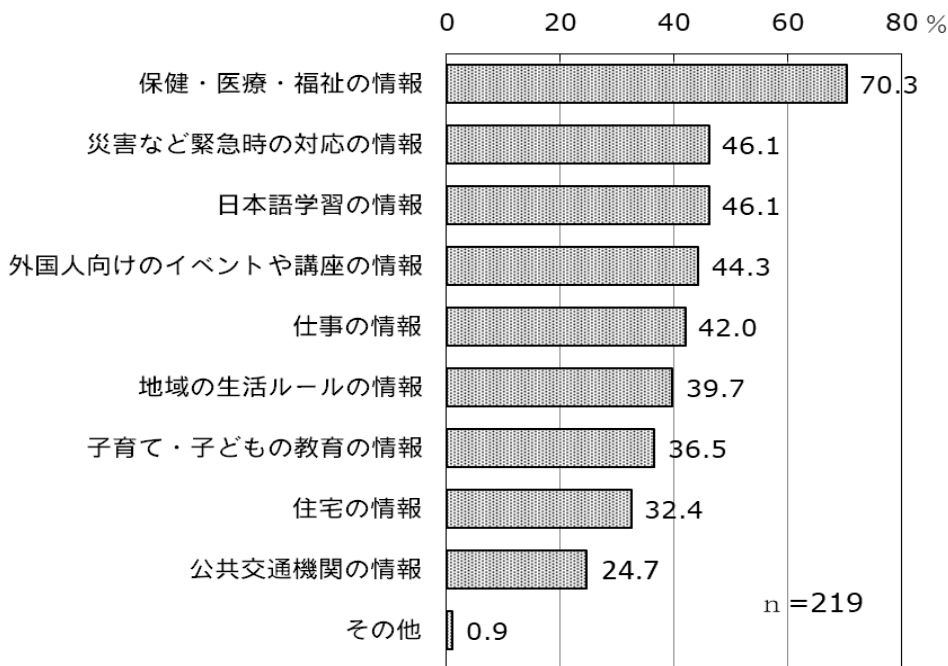
No.	選択肢	外国人市民回答者数	外国人市民割合	日本人市民回答者数	日本人市民割合	割合の差(日本-外国)
1	災害が起きた時に自分が緊急に避難する公共施設	123	56.2%	327	78.2%	22.1%
2	市役所での弁護士による無料相談	42	19.2%	137	32.8%	13.6%
3	家族が死亡した時の火葬の手続きのしかた	26	11.9%	141	33.7%	21.9%
4	介護保険制度	56	25.6%	183	43.8%	18.2%
5	市役所での「子どもに関すること」や「一人親に関すること」の相談先	55	25.1%	87	20.8%	-4.3%
6	夜間にも子どもを預けられるファミリーサポートセンター	23	10.5%	44	10.5%	0.0%
7	幼稚園・保育園の入園のしかた	74	33.8%	152	36.4%	2.6%
8	仕事先で問題が起きた時の相談先(労働基準監督署)	68	31.1%	97	23.2%	-7.8%
9	所得が低い市民のための市営住宅	75	34.2%	153	36.6%	2.4%
10	公共施設連絡バス「かりまる」	97	44.3%	339	81.1%	36.8%
11	会議やイベントで利用できる生涯学習センターや市民館	64	29.2%	212	50.7%	21.5%
12	家庭から出るごみの分別のしかた	168	76.7%	350	83.7%	7.0%
13	休日や夜間の急病の際に連絡する休日診療所や救急医療情報センター	71	32.4%	258	61.7%	29.3%

(3) 母国語でほしい情報

設問… あなたが充実してほしい、母国語での情報は何か？ [いくつでもチェック]

◇「母国語でほしい情報」は、①「保健・医療・福祉の情報」が70.3%と最も多く、次いで②「災害など緊急時の対応の情報」46.1%と③「日本語学習の情報」46.1%、④「外国人向けのイベントや講座の情報」44.3%などとなっている。

◇【国籍別】…ニーズの高い上位4つの情報でみると、以下のとおりブラジルとベトナムで、母国語での情報提供のニーズがより高くなっている。



国籍別

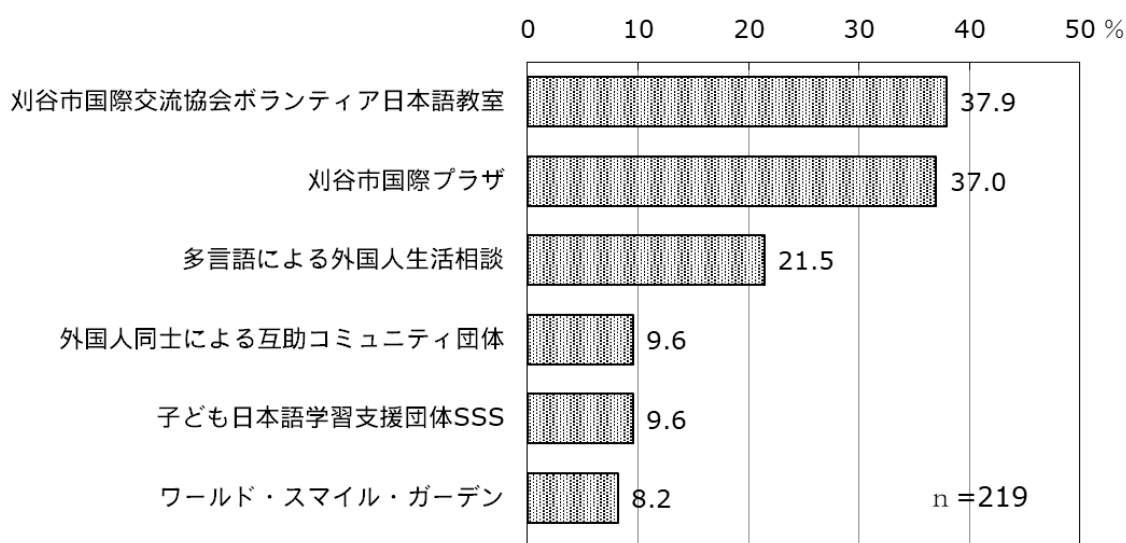
	合計	母国語でほしい情報(複数回答)										
		保健・医療・福祉の情報	子育て・子どもの教育の情報	仕事の情報	公共交通機関の情報	地域の生活ルールの情報	災害など緊急時の対応の情報	日本語学習の情報	外国人向けのイベントや講座の情報	住宅の情報	その他	
全体	219 100%	154 70.3%	80 36.5%	92 42.0%	54 24.7%	87 39.7%	101 46.1%	101 46.1%	97 44.3%	71 32.4%	2 0.9%	
主要国籍	フィリピン	50 100%	35 70%	21 42%	25 50%	13 26%	20 40%	23 46%	26 52%	19 38%	19 38%	1 2%
	ベトナム	46 100%	38 83%	24 52%	34 74%	23 50%	33 72%	34 74%	33 72%	31 67%	21 46%	0 0%
	ブラジル	27 100%	26 96%	8 30%	6 22%	3 11%	11 41%	13 48%	11 41%	7 26%	13 48%	1 4%
	中国	43 100%	28 65%	13 30%	8 19%	3 7%	10 23%	15 35%	10 23%	21 49%	6 14%	0 0%
	その他	35 100%	27 77%	14 40%	19 54%	11 31%	13 37%	16 46%	21 60%	19 54%	12 34%	0 0%

(4) 外国人市民向けサービスや活動の認知度

設問… あなたは次の外国人市民向けのサービスや市民活動を知っていますか？ [いくつでもチェック]

◇ 「外国人市民向けサービスや活動の認知度」は、「刈谷市国際交流協会ボランティア日本語教室」が 37.9%と最も高く、次いで「刈谷市国際プラザ」37.0%、「多言語による外国人生活相談」21.5%などとなっている。

◇ 【国籍別】… 「刈谷市国際交流協会ボランティア日本語教室」の認知度は、ベトナムと中国で高く、フィリピンとブラジルで低い。「刈谷市国際プラザ」の認知度は、フィリピンとその他で高く、ブラジルとベトナムで低い。「多言語による外国人生活相談」の認知度は、フィリピンと中国で高く、ベトナムとその他で低い。



国籍別

	合計	外国人市民向けのサービスや活動の認知度(複数回答)						
		刈谷市国際プラザ	多言語による外国人生活相談	国際交流協会ボランティア日本語教室	ワールド・スマイル・ガーデン	外国人同士による互助コミュニティ団体	子ども日本語学習支援団体SSS	
全体	219 100%	81 37.0%	47 21.5%	83 37.9%	18 8.2%	21 9.6%	21 9.6%	
主要国籍	フィリピン	51 100%	24 47%	18 35%	11 22%	5 10%	7 14%	4 8%
	ベトナム	46 100%	13 28%	4 9%	24 52%	4 9%	11 24%	5 11%
	ブラジル	31 100%	6 19%	7 23%	7 23%	2 6%	1 3%	3 10%
	中国	46 100%	19 41%	12 26%	23 50%	3 7%	2 4%	4 9%
	その他	45 100%	19 42%	6 13%	18 40%	4 9%	0 0%	5 11%

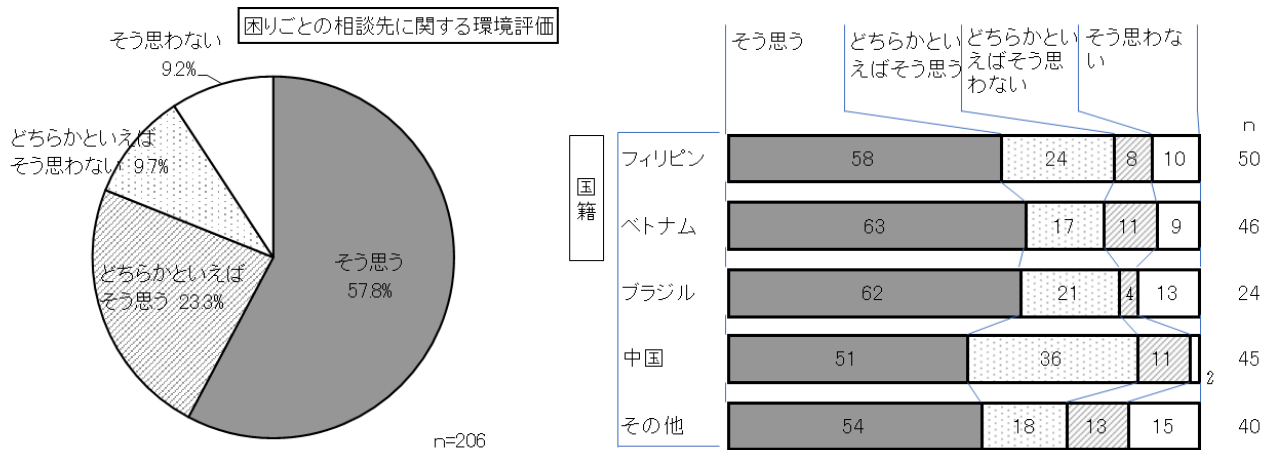
(5) 困りごとの相談先に関する環境評価

設問… 困りごとを気軽に話しあえる人や場所が身近にありますか？ [1つだけチェック]

◇「困りごとの相談先に関する環境評価」は、肯定的な評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）の割合が81.1%と否定的な評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）の割合を大きく上回っている。

◇【国籍別】…肯定的な評価の割合は、中国が87%と高く、その他が72%と比較的低い。

◇【日本人市民との比較】…令和4年市民アンケートでの同じ質問では、肯定的な評価の割合が65.7%であり、日本人市民よりも外国人市民の方が高くなっている。特に「そう思う」の割合は33.4%高くなっている。



日本人市民との比較

No.	選択肢	回答者数	割合	R4市調査割合
1	そう思う	119	57.8%	24.4%
2	どちらかといえばそう思う	48	23.3%	41.3%
3	どちらかといえばそう思わない	20	9.7%	23.8%
4	そう思わない	19	9.2%	10.6%
	全体	206	100.0%	100.0%

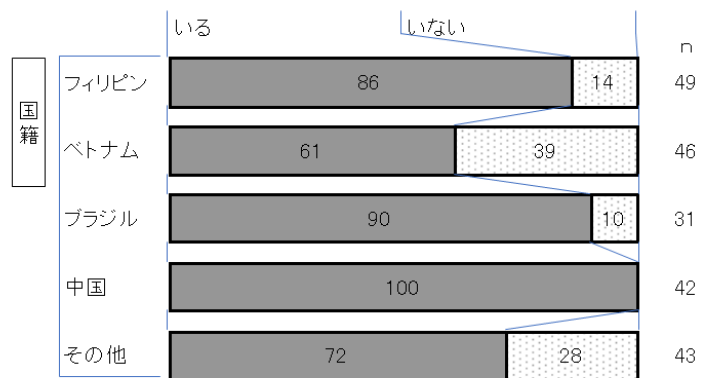
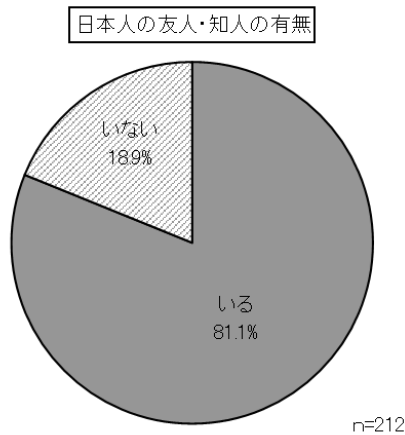
2-4. 日本人との交流

(1) 日本人の友人・知人の有無

設問… あなたは、日本人の友人・知人がいますか？ [1つだけチェック]

◇「日本人の友人・知人の有無」は、「いる」が81.1%、「いない」が18.9%となっている。

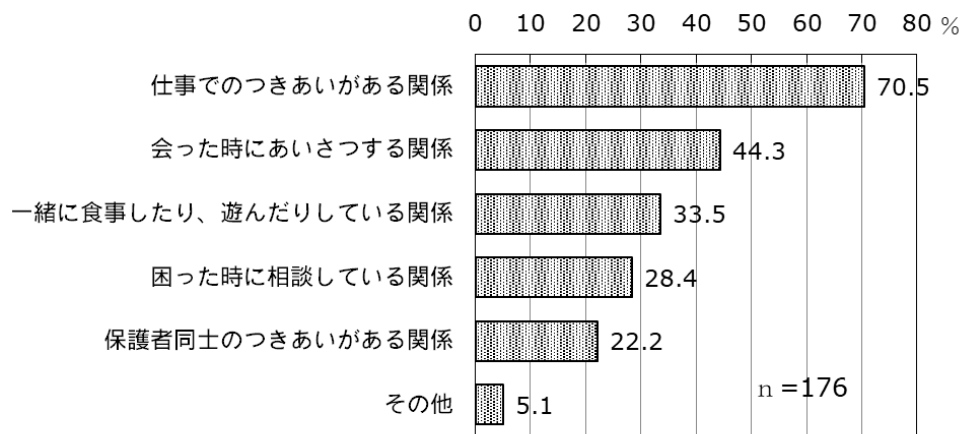
◇【国籍別】…「いる」の割合は、中国が100%、次いでブラジル90%、フィリピン86%となっていることに対して、ベトナムは61%と比較的低くなっている。



(2) 日本人の友人・知人の関係

設問… [前問で1の回答者のみ] それはどんな人ですか? [いくつでもチェック]

◇「日本人の友人・知人の関係」は、「仕事でのつきあいがある関係」が70.5%と最も高く、次いで「会った時にあいさつする関係」が44.3%、「一緒に食事したり、遊んだりしている関係」33.5%などとなっている。



◇【国籍別】…各関係で一番割合が高い国籍は、「仕事でのつきあいがある関係」82%と「会った時にあいさつする関係」64%ではブラジルが、「一緒に食事したり、遊んだりしている関係」42%と「保護者同士のつきあいがある関係」37%では中国が、「困った時に相談している関係」33%ではフィリピンとなっている。

国籍別		合計	日本人の友人・知人の属性(複数回答)					
			会った時にあいさつする関係	仕事でのつきあいがある関係	保護者同士のつきあいがある関係	困った時に相談している関係	一緒に食事や遊ぶ関係	その他
全体	176	78	124	39	50	59	9	
	100%	44.3%	70.5%	22.2%	28.4%	33.5%	5.1%	
主要国籍	フィリピン	43	22	30	10	14	10	2
		100%	51%	70%	23%	33%	23%	5%
	ベトナム	30	12	22	3	8	9	0
		100%	40%	73%	10%	27%	30%	0%
	ブラジル	28	18	23	5	5	6	1
		100%	64%	82%	18%	18%	21%	4%
中国	43	11	30	16	13	18	3	
	100%	26%	70%	37%	30%	42%	7%	
その他	31	15	19	5	9	16	3	
	100%	48%	61%	16%	29%	52%	10%	

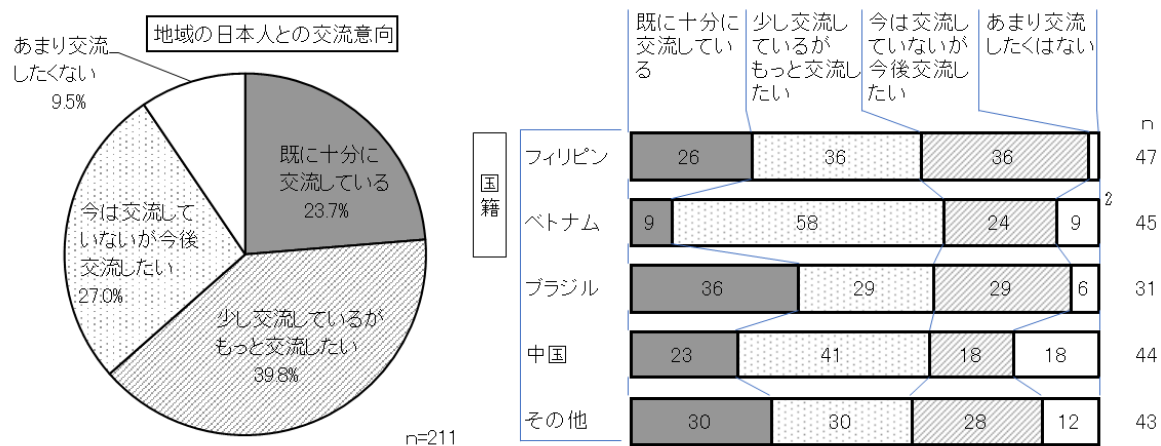
(3) 地域の日本人との交流意向

設問… あなたは、自分が住んでいる地域・近所の日本人と交流したいですか？ [1つだけチェック]

◇「地域の日本人との交流意向」は、「既に十分に交流している」が23.7%、「少し交流しているがもっと交流したい」が39.8%、「今は交流していないが今後交流したい」が27.0%であり、交流に対して肯定的な割合は合わせて90.5%となっている。

◇【国籍別】…交流に対して肯定的な割合は、フィリピンが98%と最も高く、次いでブラジル94%、ベトナム91%となっている。

◇【日本人市民との比較】…日本人市民アンケートでの結果と比較すると、日本人市民の交流に対して肯定的な割合が52.5%であることから、外国人市民の方が日本人市民より、相手（日本人市民）と交流したいという気持ちがあるといえる。



日本人市民との比較

No.	選択肢	外国人市民 回答者数	外国人市民 割合	日本人市民 回答者数	日本人市民 割合
1	既に十分に交流している	50	23.7%	24	5.9%
2	少し交流しているがもっと交流したい	84	39.8%	22	5.4%
3	今は交流していないが今後交流したい	57	27.0%	168	41.2%
4	あまり交流したくない	20	9.5%	194	47.5%
	全体	211	100.0%	408	100.0%

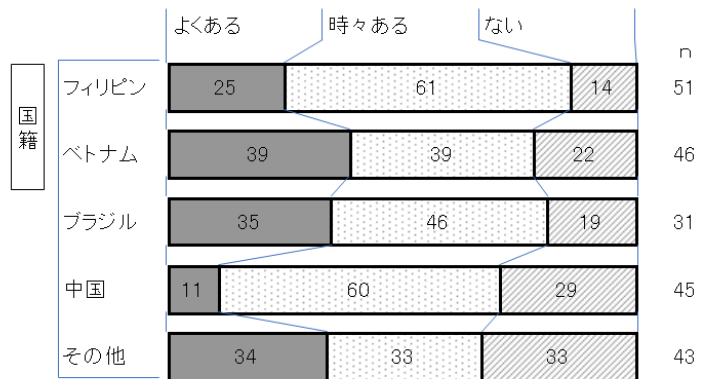
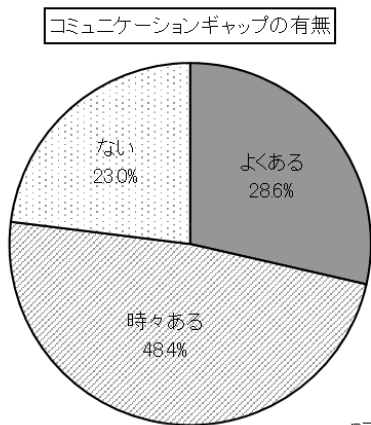
(4) 日本人とのコミュニケーションギャップの有無

設問… あなたは、日本人と関わるときに、コミュニケーションギャップを感じることはありますか？ [1つだけチェック]

◇ 「日本人とのコミュニケーションギャップの有無」は、「よくある」が 28.6%、「時々ある」が 48.4%であり、コミュニケーションに何らかのギャップを感じている割合は合わせて 77.0%となっている。

◇ 【国籍別】…コミュニケーションにギャップを感じている割合は、フィリピンが 86%と最も高く、次いでブラジル 81%、ベトナム 78%となっている。

◇ 【日本人市民との比較】…日本人市民アンケートでの結果では、コミュニケーションにギャップを感じている割合が 62.6%であることから、外国人市民の方が日本人市民より、相手（日本人市民）に対してギャップを感じている割合が高くなっている。



日本人市民との比較

No.	選択肢	外国人市民 回答者数	外国人市民 割合	日本人市民 回答者数	日本人市民 割合
1	よくある	62	28.6%	76	19.0%
2	時々ある	105	48.4%	174	43.6%
3	ない	50	23.0%	149	37.3%
	全体	217	100.0%	399	100.0%

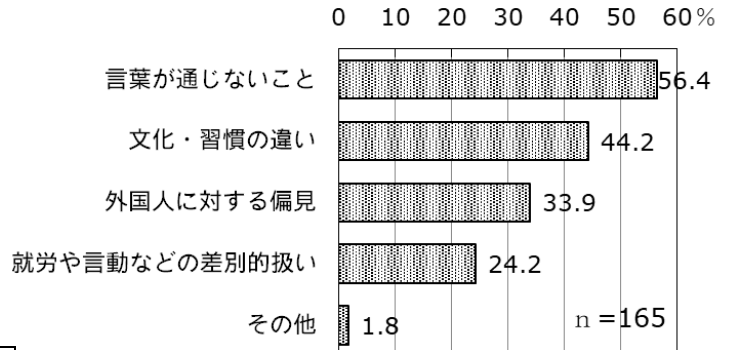
(5) 日本人とのコミュニケーションギャップの内容

設問…

[前問で1, 2の回答者のみ] 具体的に感じるコミュニケーションギャップはどんなことですか？

[いくつでもチェック]

◇ギャップを感じている回答者が感じる「日本人とのコミュニケーションギャップの内容」は、「言葉が通じないこと」が56.4%と最も多く、次いで「文化・習慣の違いで理解し合えないこと」が44.2%、「外国人に対する偏見」が33.9%などとなっている。



国籍別

◇【国籍別】…ギャップの内容で割合が高い国籍は、「言葉が通じないこと」では、その他71%、ベトナム69%、「文化・習慣の違いで理解し合えないこと」ではフィリピンと中国が55%、「外国人に対する偏見」ではベトナム44%、ブラジル43%となっている。

	合計	コミュニケーションギャップの内容(複数回答)					
		言葉が通じないこと	文化・習慣の違いによる理解齟齬	外国人に対する偏見	就労や言動などの差別的扱い	その他	
全体	165 100%	93 56.4%	73 44.2%	56 33.9%	40 24.2%	3 1.8%	
主要国籍	フィリピン	44 100%	22 50%	24 55%	11 25%	12 27%	1 2%
	ベトナム	36 100%	25 69%	18 50%	16 44%	10 28%	0 0%
	ブラジル	23 100%	13 57%	3 13%	10 43%	5 22%	2 9%
	中国	33 100%	12 36%	18 55%	9 27%	9 27%	0 0%
	その他	28 100%	20 71%	10 36%	10 36%	4 14%	0 0%

◇【日本人市民との比較】…日本人市民アンケートでの結果と比較すると、ギャップを感じている回答者が感じる「相手とのコミュニケーションギャップの内容」の各選択肢ともに、ほぼ同程度の割合となっており、外国人市民も日本人市民も、同じようなギャップを感じているといえる。ただし、「偏見」についてのギャップは、偏見を受けている側と偏見を持っている側の違いがあることに留意する必要がある。

日本人市民との比較

No.	選択肢	外国人市民 回答者数	外国人市民 割合	日本人市民 回答者数	日本人市民 割合
1	言葉が通じないこと	93	56.4%	172	68.8%
2	文化・習慣の違いで理解し合えないこと	73	44.2%	102	40.8%
3	外国人に対する偏見(外国人) / どんな人かわからない不安や偏見の気持ち(日本人)	56	33.9%	87	34.8%
4	就労や言動などの差別的扱い	40	24.2%	—	24.2%
5	その他	3	1.8%	5	2.0%

2-5. 子育て・災害・医療福祉・労働

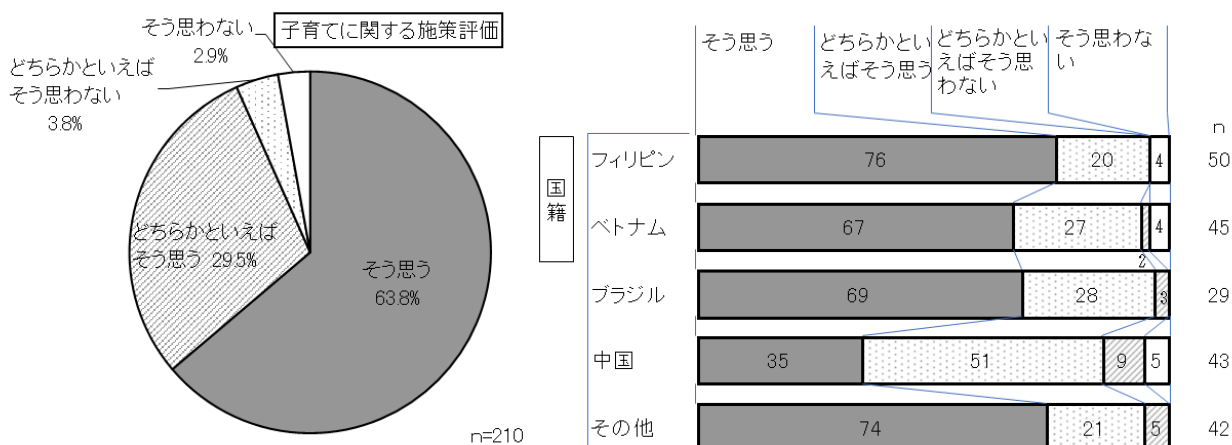
(1) 子育てに関する施策評価

設問… 刈谷市は、子どもを生み・育てやすいと思いますか？ [1つだけチェック]

◇「子育てに関する施策評価」は、肯定的な評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）の割合が93.3%と肯定的な評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）の割合を大きく上回っている。

◇【国籍別】…肯定的な評価の割合は、ブラジルが97%と高く、中国が86%と比較的低い。

◇【日本人市民との比較】…令和4年市民アンケートでの同じ質問では、肯定的な評価の割合が87.2%であり、日本人市民よりも外国人市民の方が高くなっている。特に「そう思う」の割合は35.7%高くなっている。



日本人市民との比較

No.	選択肢	回答者数	割合	R4市調査割合
1	そう思う	134	63.8%	28.1%
2	どちらかといえばそう思う	62	29.5%	59.1%
3	どちらかといえばそう思わない	8	3.8%	10.6%
4	そう思わない	6	2.9%	2.2%
	全体	210	100.0%	100.0%

(2) 同居の子ども

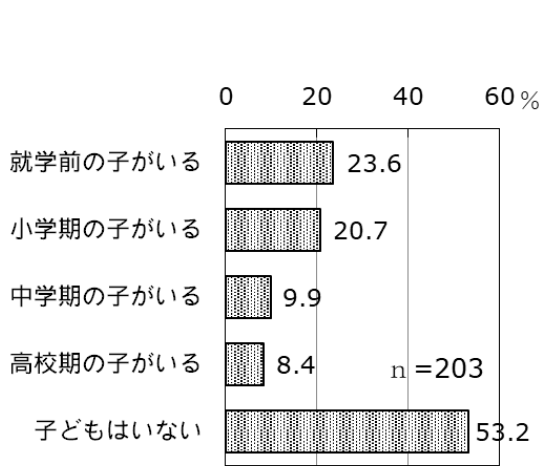
設問… あなたの家で同居している子どもはいますか？ [いくつでもチェック]

◇「同居の子ども」は、「いない」が53.2%、「いる」が46.8%となっている。

◇子どもの各年代別には、「就学前（0～5歳）の子どもがいる」が23.6%と最も多く、次いで「小学期（6～11歳）の子どもがいる」が20.7%、「中学期（12～15歳）の子どもがいる」が9.9%、「高校期（16～18歳）の子どもがいる」が2.2%となっている。

歳)の子どもがいる」が8.4%となっており、小学期以下の子どもが多く、中学期以上の子どもは小学期以下の子どもの約半数以下程度となっている。

◇【国籍別】…「子どもがいる」の割合が高いのは中国 67%、ブラジル 50%となっており、各年代別にも同様な傾向となっている。



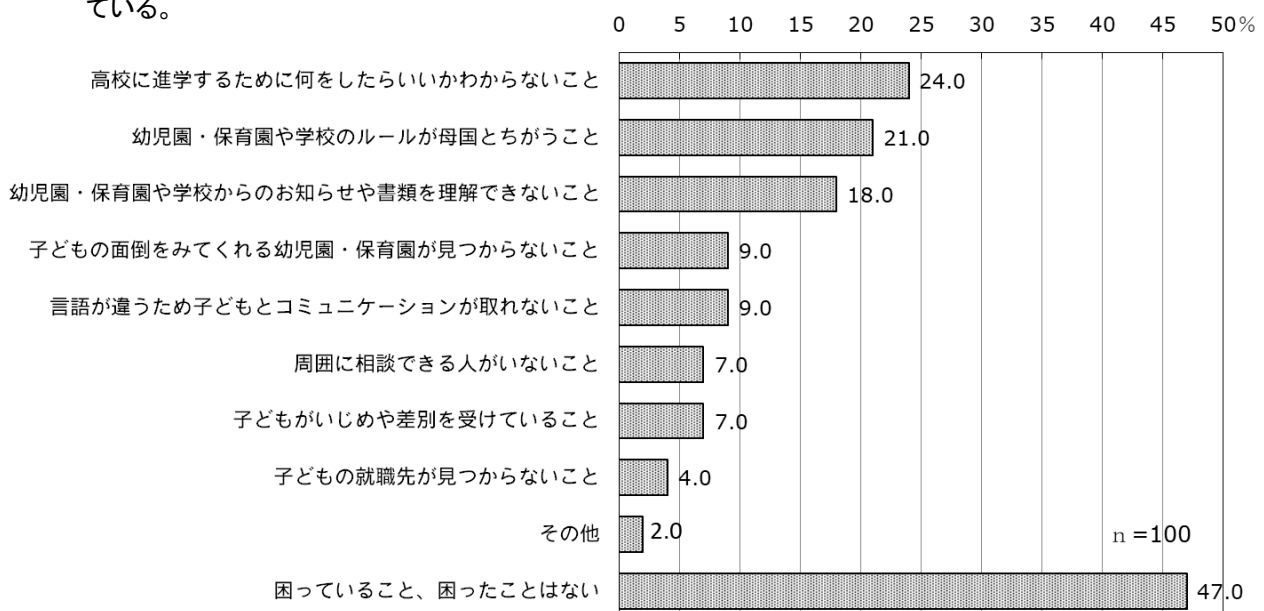
国籍別

	合計	同居の子ども(複数回答)					
		就学前 0-5歳の 子どもが いる	小学期 6-11歳 の子ども がいる	中学期 12-15歳 の子ども がいる	高校期 16-18歳 の子ども がいる	子どもは いない	
全体	203 100%	48 23.6%	42 20.7%	20 9.9%	17 8.4%	108 53.2%	
主要 国籍	フィリピン	46 100%	7 15%	10 22%	5 11%	6 13%	25 54%
	ベトナム	45 100%	10 22%	6 13%	2 4%	0 0%	29 64%
	ブラジル	30 100%	7 23%	9 30%	5 17%	5 17%	15 50%
	中国	42 100%	13 31%	13 31%	6 14%	2 5%	14 33%
	その他	39 100%	11 28%	4 10%	2 5%	4 10%	24 62%

(3) 子育てや教育で困ったこと

設問… [前問で1~4の回答者のみ] 子育てや子どもの教育に関して、困っていること、困った経験をしたことはありますか? [いくつでもチェック]

◇子どもがいる回答者が考える「子育てや教育で困っていることや困った経験」は、「高校に進学するために何をしたらいいかわからないこと」が24.0%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園や学校のルールが母国とちがうこと」21.0%、「幼稚園・保育園や学校からのお知らせや書類を理解できないこと」18.0%などとなっている。



◇【国籍別】…「困っていること、困ったことはない」の割合は、その他73%、中国57%、フィリピン53%となっていることに対して、ベトナムとブラジルはそれぞれ24%、26%と比較的に少なく、子どもに関して困った経験や現在困っていることが何らかあるとしている。具体的には「高校に進学するために何をしたらいいかわからないこと」の割合は、ベトナムが47%と高い。「幼稚園・保育園や学校のルールが母国とちがうこと」と「幼稚園・保育園や学校からのお知らせや書類を理解できないこと」の割合は、ブラジル、ベトナム、フィリピンが21%から32%と比較的高くなっている。

国籍別

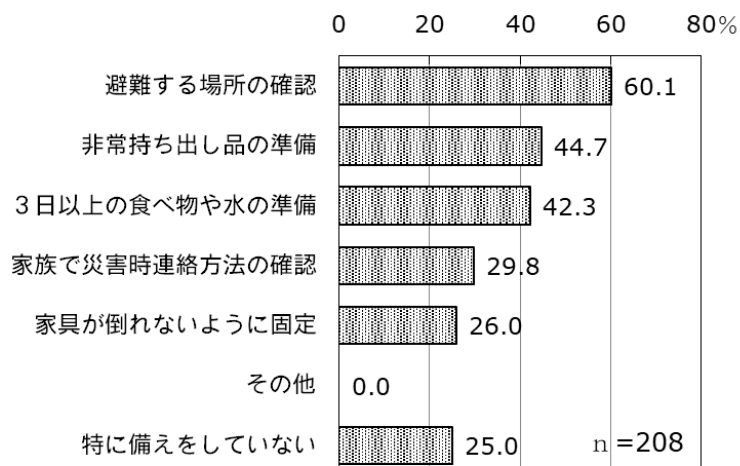
	合計	子育てや教育で困ったこと(複数回答)									
		幼稚園・保育園が見つからないこと	保育園や学校の文書が理解不能	母国と違う保育園や学校のルール	高校に進学するための情報不足	子どもの就職先が見つからないこと	周囲に相談できる人がいないこと	子どもとの使用言語の違い	いじめや差別を受けていること	その他	困っていること、困ったことはない
全体	100 100%	9 9.0%	18 18.0%	21 21.0%	24 24.0%	4 4.0%	7 7.0%	9 9.0%	7 7.0%	2 2.0%	47 47.0%
主要国籍	フィリピン	2 11%	4 21%	5 26%	4 21%	1 5%	2 11%	3 16%	2 11%	0 0%	10 53%
	ベトナム	3 18%	4 24%	5 29%	8 47%	1 6%	2 12%	1 6%	0 0%	1 6%	4 24%
	ブラジル	1 5%	6 32%	5 26%	4 21%	2 11%	1 5%	1 5%	1 5%	1 5%	5 26%
	中国	1 3%	2 7%	3 10%	8 27%	0 0%	1 3%	3 10%	4 13%	0 0%	17 57%
	その他	2 13%	2 13%	3 20%	0 0%	0 0%	1 7%	1 7%	0 0%	0 0%	11 73%

(4) 地震への備え

設問… あなたの家では、地震などに対して、どのような備えをしていますか？ [いくつでもチェック]

◇4人に1人が「特に（地震への）備えをしていない」（25.0%）としている。

◇「地震への備え」としては、具体的には「避難する場所の確認」が60.1%と最も高く、次いで「非常持ち出し品の準備」が44.7%、「3日以上の食べ物や水の準備」が42.3%などとなっている。



◇【国籍別】…「特に備えをしていない」の割合が最も多いのがブラジルで48%、最も少ないのがフィリピンで10%となっている。

国籍別

	合計	地震への備え(複数回答)							
		非常持ち出し品の準備	3日以上食べ物や水の準備	避難する場所の確認	家具が倒れないように固定	家族で災害時連絡方法の確認	その他	特に備えをしていない	
全体	208 100%	93 44.7%	88 42.3%	125 60.1%	54 26.0%	62 29.8%	0 0.0%	52 25.0%	
主要国籍	フィリピン	49 100%	29 59%	29 59%	36 73%	14 29%	20 41%	0 0%	5 10%
	ベトナム	45 100%	23 51%	20 44%	25 56%	14 31%	15 33%	0 0%	13 29%
	ブラジル	29 100%	3 10%	3 10%	12 41%	2 7%	8 28%	0 0%	14 48%
	中国	46 100%	21 46%	21 46%	32 70%	13 28%	8 17%	0 0%	10 22%
	その他	39 100%	17 44%	15 38%	20 51%	11 28%	11 28%	0 0%	10 26%

◇【日本人市民との比較】…日本人市民アンケートでの結果では、「特に備えをしていない」の割合は21.1%と、外国人市民の方が日本人市民より、備えをしていない割合が若干高くなっている。備えの各選択肢の割合は、外国人市民と日本人市民に大きな違いはない。

◇【現計画策定時(2010年)との比較】…同様な質問をした2010年アンケートの「特に備えをしていない」の割合は38.4%であったことから、外国人市民の構成は変わっても、外国人全体でみた地震への備えは、進んできているといえる。

日本人市民との比較 **現計画策定時(2010年)との比較**

No.	選択肢	外国人市民 回答者数	外国人市民 割合	日本人市民 回答者数	日本人市民 割合	2010年割合
1	非常持ち出し品の準備	93	44.7%	183	44.3%	14.8%
2	3日以上食べ物や水の準備	88	42.3%	154	37.3%	14.4%
3	避難する場所の確認	125	60.1%	260	63.0%	31.9%
4	家具が倒れないように固定	54	26.0%	138	33.4%	9.3%
5	家族で災害時連絡方法の確認	62	29.8%	88	21.3%	20.4%
6	その他	0	0.0%	1	0.2%	4.2%
7	特に備えをしていない	52	25.0%	87	21.1%	38.4%

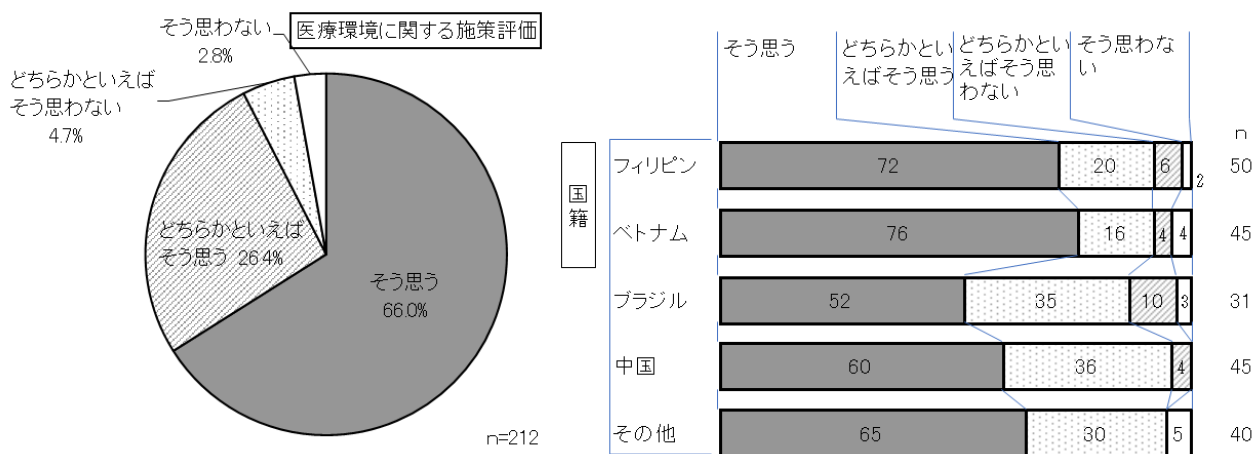
(5) 医療環境に関する施策評価

設問… 刈谷市は、安心して医療を受けられる環境が整っていると思いますか？ [1つだけチェック]

◇「医療環境に関する施策評価」は、肯定的な評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）の割合が92.5%と否定的な評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）の割合を大きく上回っている。

◇【国籍別】…肯定的な評価の割合は、中国が96%と高く、ブラジルが87%と比較的低い。

◇【日本人市民との比較】…令和4年市民アンケートでの同じ質問では、肯定的な評価の割合が89.2%であり、日本人市民よりも外国人市民の方が、評価が高くなっている。特に「そう思う」の割合は32.0%高くなっている。



日本人市民との比較

No.	選択肢	回答者数	割合	R4市調査割合
1	そう思う	140	66.0%	34.0%
2	どちらかといえばそう思う	56	26.4%	55.2%
3	どちらかといえばそう思わない	10	4.7%	8.5%
4	そう思わない	6	2.8%	2.3%
	全体	212	100.0%	100.0%

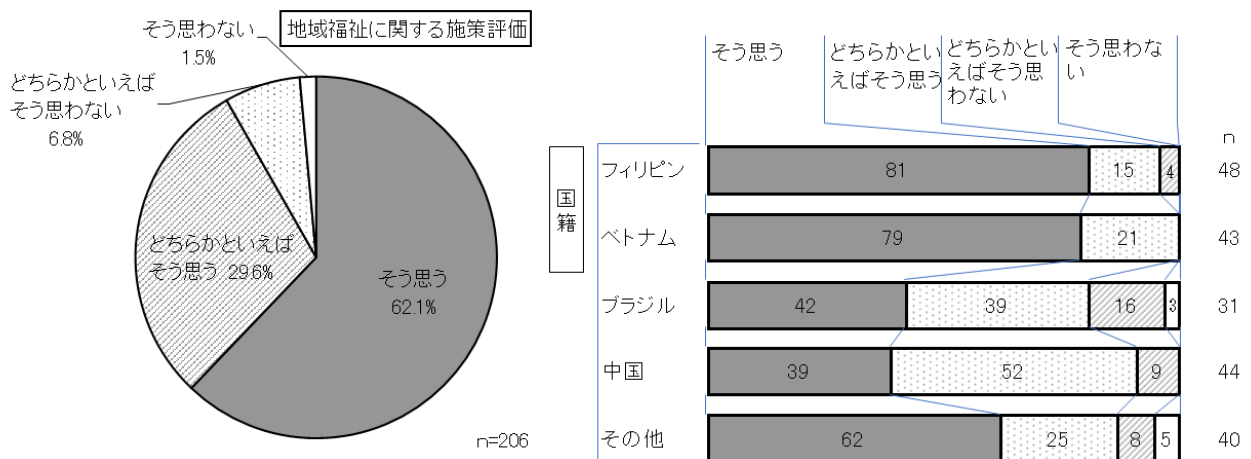
(6) 地域福祉に関する施策評価

設問… 刈谷市は、地域の支えあいにより高齢者や障害者も安心して暮らせると思いますか？ [1つだけチェック]

◇「地域福祉に関する施策評価」は、肯定的な評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）の割合が91.7%と否定的な評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）の割合を大きく上回っている。

◇【国籍別】…肯定的な評価の割合は、ベトナムが100%と高く、ブラジルが81%と比較的低い。

◇【日本人市民との比較】…令和4年市民アンケートでの同じ質問では、肯定的な評価の割合が73.2%であり、日本人市民よりも外国人市民の方が、評価が高くなっている。特に「そう思う」の割合は47.0%高くなっている。



日本人市民との比較

No.	選択肢	回答者数	割合	R4市調査割合
1	そう思う	128	62.1%	15.1%
2	どちらかといえばそう思う	61	29.6%	58.1%
3	どちらかといえばそう思わない	14	6.8%	23.3%
4	そう思わない	3	1.5%	3.5%
	全体	206	100.0%	100.0%

(7) 働く会社における外国人社員に対する取組

設問… あなたが働く会社は、外国人社員のためにどんなことを行っていますか？ [いくつでもチェック]

◇「働く会社における外国人社員に対する取組」は、「職場で外国人社員のことを理解してもらう機会の提供」が26.8%と最も高く、次いで「日本で暮らすための生活サポート」が25.1%、「日本語学習や社内のコミュニケーション支援」18.1%、「外国人社員向けのスキルアップ研修の実施」17.0%などとなっている。一方で「特になにもしていない」の割合が46.2%と半数近くを占めている。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	職場で外国人社員のことを理解してもらう機会の提供	45	26.3%
2	日本で暮らすための生活サポート	43	25.1%
3	日本語学習や社内のコミュニケーション支援	31	18.1%
4	外国人社員向けのスキルアップ研修の実施	29	17.0%
5	外国人社員が地域の活動に参加することの促進	14	8.2%
6	その他	8	4.7%
7	特になにもしていない	79	46.2%
8	会社で働いていない	35	
	全体	206	100.0%

※「会社で働いてない」を除外して割合を算出している。

◇【国籍別】…「特になにもしていない」の割合で見ると、フィリピンが23%と低く、ブラジルが64%と高くなっている。特に、フィリピンでは「職場で外国人社員のことを理解してもらう機会の提供」が51%、「日本で暮らすための生活サポート」が30%と比較的高くなっている。

国籍別		働く会社における外国人社員に対する取組（複数回答）								
		合計	日本語学習や社内のコミュニケーション支援	日本で暮らすための生活サポート	外国人社員向けのスキルアップ研修の実施	外国人社員が地域の活動に参加することの促進	職場で外国人社員のことを理解してもらう機会の提供	その他	特になにもしていない	会社で働いていない
	全体	171 100%	31 18.1%	43 25.1%	29 17.0%	14 8.2%	45 26.3%	8 4.7%	79 46.2%	35
主要国籍	フィリピン	43 100%	12 28%	13 30%	10 23%	7 16%	22 51%	1 2%	10 23%	6
	ベトナム	44 100%	10 23%	13 30%	8 18%	5 11%	10 23%	0 0%	23 52%	1
	ブラジル	25 100%	1 4%	2 8%	0 0%	1 4%	4 16%	3 12%	16 64%	5
	中国	32 100%	4 13%	6 19%	4 13%	0 0%	5 16%	1 3%	19 59%	12
	その他	26 100%	4 15%	8 31%	7 27%	1 4%	4 15%	3 12%	11 42%	11

※「会社で働いてない」を除外して割合を算出している。

2-6. 多文化共生のまちづくり

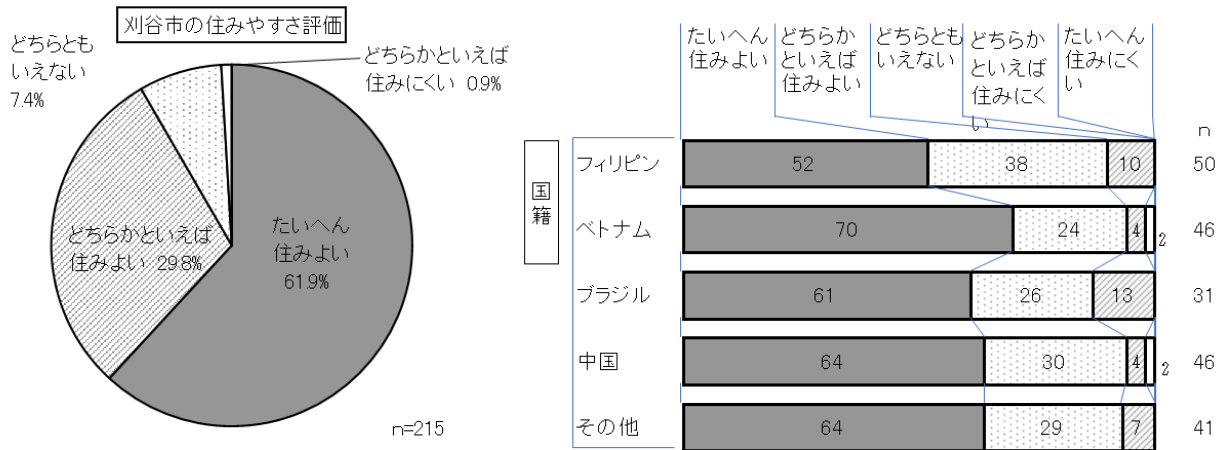
(1) 住みやすさ評価

設問… 総合的にみて、刈谷市は住みよいところだと感じますか？ [1つだけチェック]

◇「住みやすさ評価」は、肯定的な評価（「たいへん住みよい」＋「どちらかといえば住みよい」）の割合が91.7%と肯定的な評価（「たいへん住みにくい」＋「どちらかといえば住みにくい」）の割合を大きく上回っている。

◇【国籍別】…肯定的な評価の割合は、中国が94%と高く、ブラジルが87%と比較的低い。

◇【日本人市民との比較】…令和4年市民アンケートでの同じ質問では、肯定的な評価の割合が86.2%であり、日本人市民よりも外国人市民の方が、評価が高くなっている。特に「たいへん住みよい」の割合は29.7%高くなっている。



日本人市民との比較

No.	選択肢	回答者数	割合	R4市調査割合
1	たいへん住みよい	133	61.9%	32.2%
2	どちらかといえば住みよい	64	29.8%	54.0%
3	どちらともいえない	16	7.4%	11.2%
4	どちらかといえば住みにくい	2	0.9%	2.1%
5	たいへん住みにくい	0	0.0%	0.5%
	全体	215	100.0%	100.0%

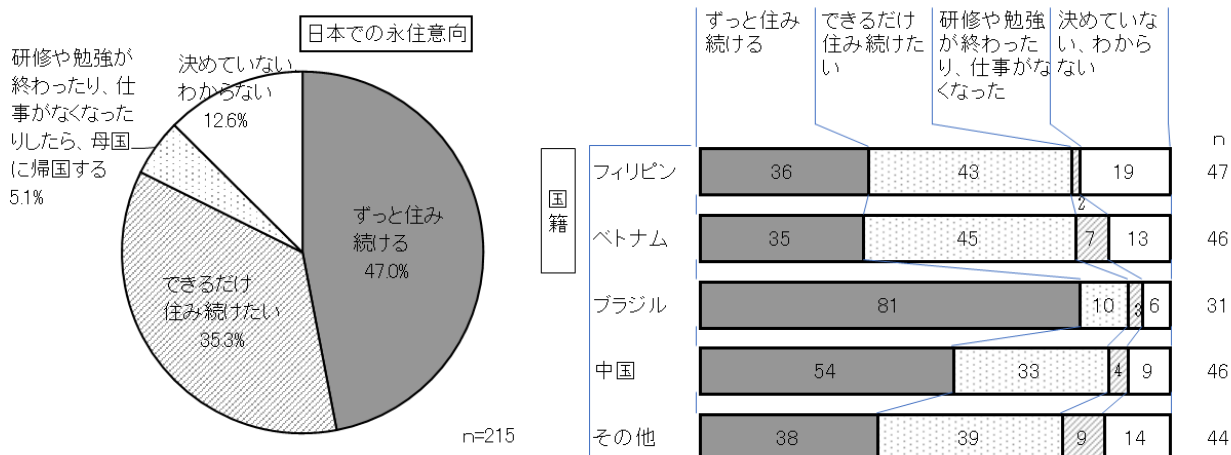
(2) 日本での永住意向

設問… あなたは日本で永く住み続けますか？ [1つだけチェック]

◇「日本での永住意向」は、肯定的な意向（「ずっと住み続ける」+「できるだけ住み続けたい」）の割合が82.3%と否定的な意向の割合（「研修や勉強が終わったり、仕事がなくなったりしたら、母国に帰国する」5.1%）を大きく上回っている。

◇【国籍別】…肯定的な意向の割合は、ブラジルが91%と高く、その他が77%と比較的低い。特に、ブラジルでは「ずっと住み続ける」が81%と他の国籍と比べて高い割合となっている。

◇【現計画策定時(2010年)との比較】…同様な質問をした2010年アンケートでは肯定的意向の割合が62.1%であったことと比べると、今回(2022年)のアンケートは「住み続ける・住み続けたい」という肯定的意向の割合が20.2%増えている。



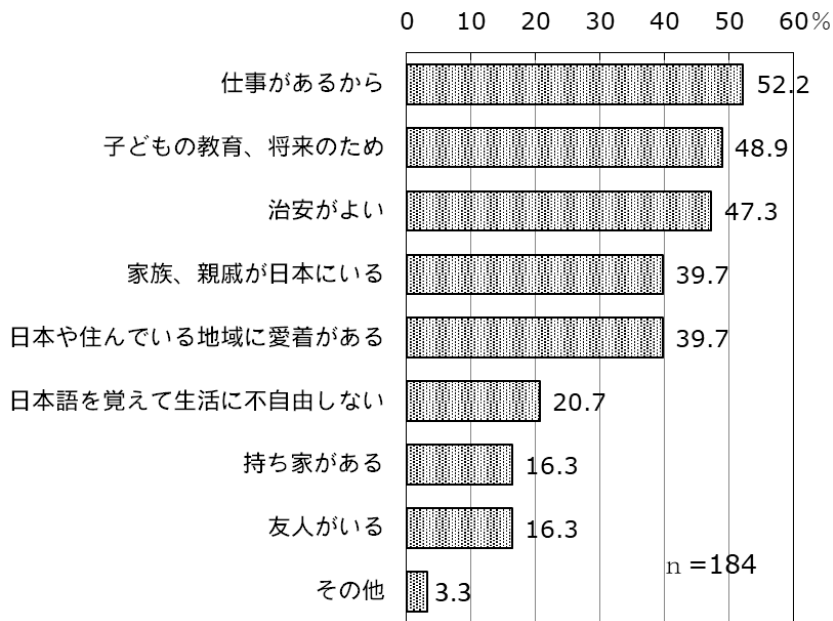
現計画策定時(2010年)との比較

No.	選択肢	回答者数	割合	2010年割合
1	ずっと住み続ける	101	47.0%	22.7%
2	できるだけ住み続けたい	76	35.3%	39.4%
3	研修や勉強が終わったり、仕事がなくなったりしたら、母国に帰国する	11	5.1%	25.9%
4	決めていない、わからない	27	12.6%	12.0%
	全体	215	100.0%	100.0%

(3) 永住したい理由

設問… [前問で1, 2に回答者のみ] 住み続けたい理由は何ですか? [いくつでもチェック]

- ◇ 「住み続けたい理由」は、「仕事があるから」が52.2%と最も多く、次いで「子どもの教育、将来のため」が48.9%、「治安がよい」47.3%、「家族、親戚が日本にいる」39.7%、「日本や住んでいる地域に愛着がある」39.7%などとなっている。
- ◇ 【国籍別】…各理由で一番割合が高い国籍は、「仕事があるから」と「子どもの教育、将来のため」では、ベトナムがそれぞれ68%と59%、「日本や住んでいる地域に愛着がある」では、ブラジルが54%、「治安がよい」と「家族、親戚が日本にいる」では、フィリピンが54%と53%となっている。



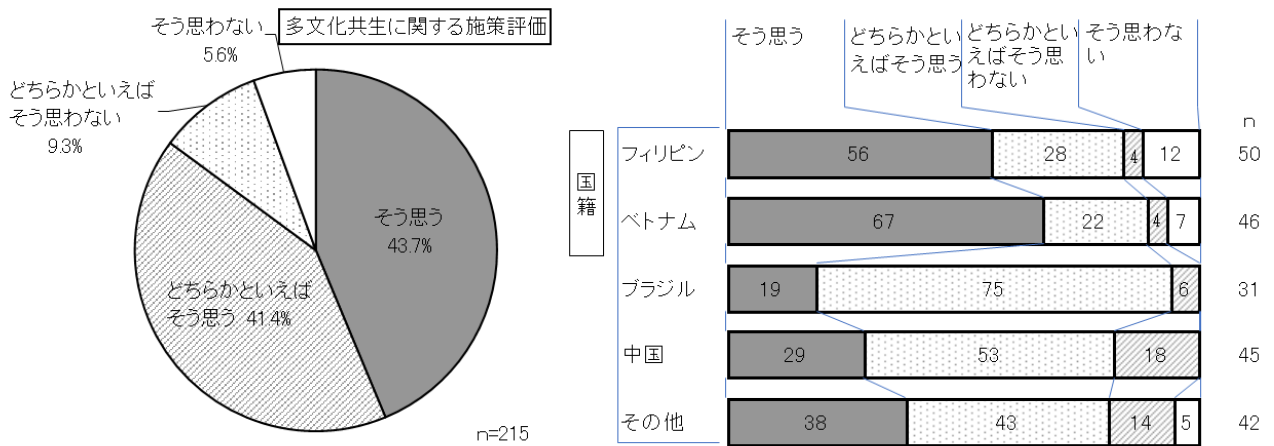
国籍別

	合計	永住したい理由(複数回答)									
		仕事があるから	子どもの教育、将来のため	家族、親戚が日本にいる	持ち家がある	友人がいる	治安がよい	日本や住んでいる地域に愛着がある	日本語を覚えて生活に不自由しない	その他	
全体	184 100%	96 52.2%	90 48.9%	73 39.7%	30 16.3%	30 16.3%	87 47.3%	73 39.7%	38 20.7%	6 3.3%	
主要国籍	フィリピン	40 100%	23 58%	22 55%	21 53%	7 18%	12 30%	22 55%	15 38%	12 30%	0 0%
	ベトナム	37 100%	25 68%	22 59%	7 19%	3 8%	6 16%	19 51%	14 38%	5 14%	0 0%
	ブラジル	28 100%	8 29%	11 39%	11 39%	2 7%	4 14%	15 54%	15 54%	1 4%	3 11%
	中国	43 100%	21 49%	24 56%	18 42%	14 33%	7 16%	19 44%	16 37%	13 30%	0 0%
	その他	35 100%	18 51%	11 31%	16 46%	4 11%	1 3%	12 34%	13 37%	7 20%	3 9%

(4) 多文化共生に関する評価

設問… 刈谷市に住む外国人と日本人は、異なる文化や習慣を互いに認め合いながら暮らしていると思いますか？ [1つだけチェック]

- ◇ 「多文化共生に関する評価」は、肯定的な評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が85.1%と否定的な評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）を大きく上回っている。
- ◇ 【国籍別】…肯定的な評価は、ブラジルが94%と高く、中国が82%・その他81%と比較的低い。
- ◇ 【日本人市民との比較】…日本人市民アンケートでの同じ質問では、肯定的な評価が70.6%であり、日本人市民よりも外国人市民の方が、評価が高くなっている。なお、令和4年市民アンケートでの同じ質問では、肯定的な評価が63.9%と、日本人市民アンケート結果より肯定的な評価は低い結果となっている。



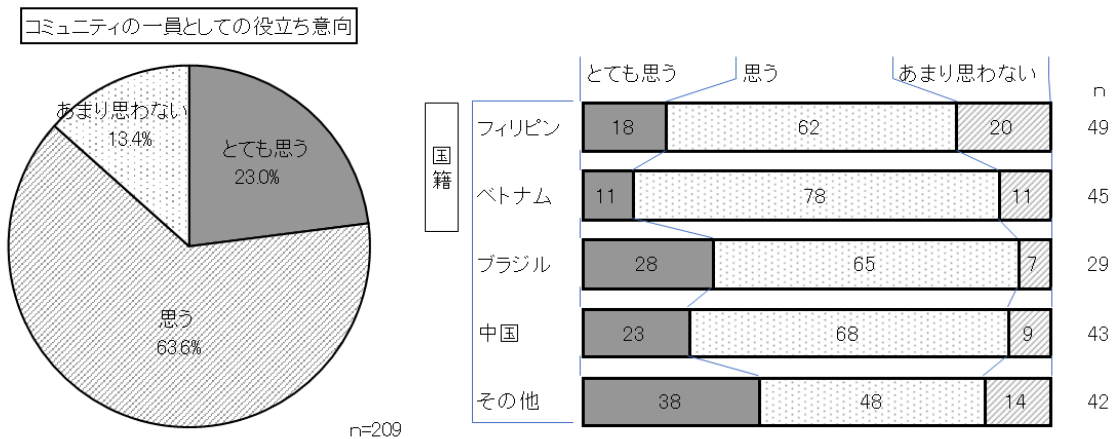
日本人市民との比較

No.	選択肢	外国人市民 回答者数	外国人市民 割合	日本人市民 回答者数	日本人市民 割合	R4市調査 割合
1	そう思う	94	43.7%	48	11.9%	5.7%
2	どちらかといえばそう思う	89	41.4%	237	58.7%	57.2%
3	どちらかといえばそう思わない	20	9.3%	83	20.5%	31.6%
4	そう思わない	12	5.6%	36	8.9%	5.5%
	全体	215	100.0%	404	100.0%	100.0%

(5) コミュニティへの役立ち意向

設問… 地域に暮らすコミュニティの一員として、何か役に立ちたいと思いますか？
[1つだけチェック]

- ◇「コミュニティへの役立ち意向」は、肯定的な意向（「とても思う」＋「思う」）が86.6%と否定的な意向（「そう思わない」）を大きく上回っている。
- ◇【国籍別】…肯定的な意向は、ブラジルが93%と高く、フィリピンが80%と比較的低い。
- ◇【日本人市民との比較】…日本人市民アンケートでの結果では、肯定的な意向の割合が48.5%であることから、外国人市民の方が日本人市民より、コミュニティへの役立ち意向が高くなっている。
- ◇【現計画策定時（2010年）との比較】…選択肢の構成が異なるため参考程度であるが、同様な質問をした2010年アンケートの否定的意向の割合25.5%と比較して、今回（2022年）のアンケートは13.4%であり、否定的な意見は減少しており、コミュニティへの役立ち意向がより高くなっているといえる。



日本人市民との比較 現計画策定時（2010年）との比較

No.	選択肢	外国人市民 回答者数	外国人市民 割合	日本人市民 回答者数	日本人市民 割合	2010年割合
1	とても思う	48	23.0%	18	4.4%	選択肢なし
2	思う	133	63.6%	180	44.1%	52.8%
3	あまり思わない	28	13.4%	210	51.5%	25.5%
	全体	209	100.0%	408	100.0%	100.0%

↑
わからない17.6%

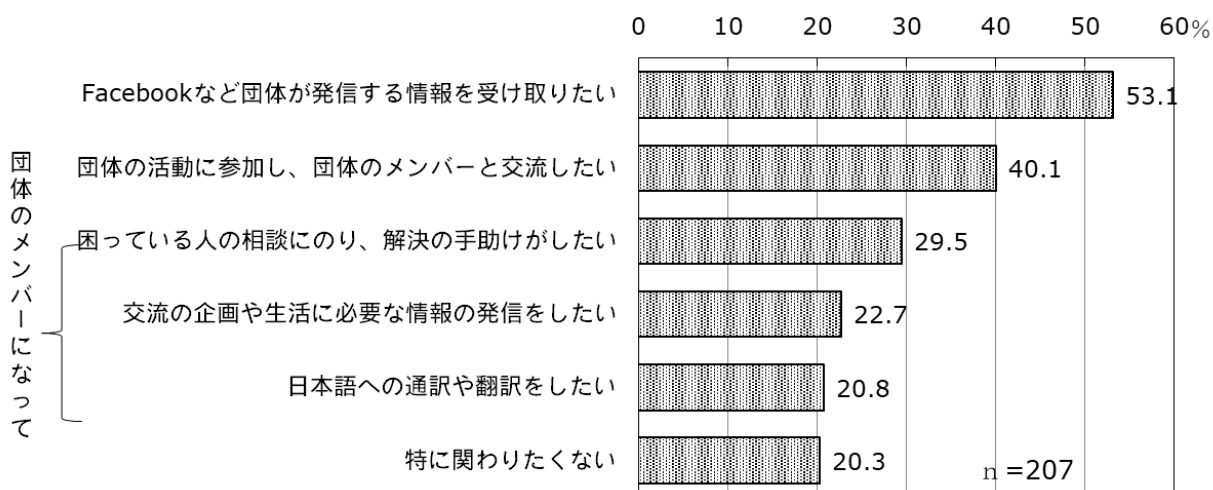
(6) 同国コミュニティへの関わる内容

設問… 同じ出身国の人たちで交流したり、助け合ったりする団体あったら、どのように関わりたいですか？ [いくつでもチェック]

◇「同国コミュニティへの関わる内容」としては、「Facebook など団体が発信する情報を受け取りたい」が53.1%と最も多く、次いで「団体の活動に参加し、団体のメンバーと交流したい」が40.1%の割合が高い。

◇より主体的に団体のメンバーになって行う関わり方としては、「団体のメンバーになって、困っている人の相談にのり、解決の手助けがしたい」が29.5%となっている。

◇【国籍別】…「特に関わりたくない」という割合は、ブラジルが32%と高く、ベトナムが11%、フィリピンが15%と低くなっている。「団体のメンバーになって、困っている人の相談にのり、解決の手助けがしたい」の割合は、ベトナムが44%、中国が36%と高く、ブラジル14%、フィリピン19%と低くなっている。



国籍別

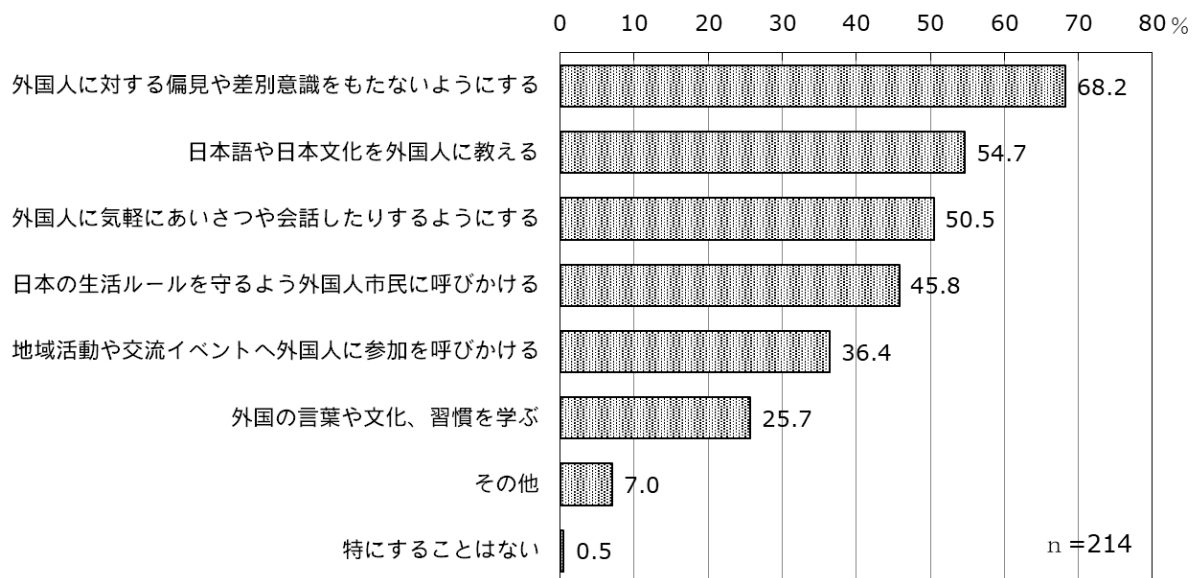
	合計	同国人コミュニティへの関わる内容(複数回答)						
		Facebookなど団体が発信する情報を受け取りたい	団体の活動に参加し、団体のメンバーと交流したい	メンバーになって、交流の企画や生活に必要な情報の発信をしたい	メンバーになって、日本語への通訳や翻訳をしたい	メンバーになって、困っている人の相談にのり、解決の手助けがしたい	特に関わりたくない	
全体	207 100%	110 53.1%	83 40.1%	47 22.7%	43 20.8%	61 29.5%	42 20.3%	
主要国籍	フィリピン	48 100%	31 65%	15 31%	5 10%	3 6%	9 19%	7 15%
	ベトナム	45 100%	34 76%	25 56%	17 38%	14 31%	20 44%	5 11%
	ブラジル	28 100%	15 54%	7 25%	3 11%	4 14%	4 14%	9 32%
	中国	44 100%	10 23%	16 36%	15 34%	10 23%	16 36%	10 23%
	その他	42 100%	20 48%	20 48%	7 17%	12 29%	12 29%	11 26%

(7) 多文化共生のために日本人市民に必要なこと

設問… 日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、日本人市民に特に必要だと思うことは何ですか？ [4つまでチェック]

◇「多文化共生のために日本人市民に必要なこと」は、「外国人に対する偏見や差別意識をもたないようにする」が68.2%と最も多く、次いで「日本語や日本文化を外国人に教える」が54.7%、「外国人に対して、気軽にあいさつしたり、会話したりするようにする」50.5%、「日本で生活するルールを守るように外国人市民に呼びかける」45.8%などとなっている。

◇【国籍別】…上位3つの必要なことでみると、「外国人に対する偏見や差別意識をもたないようにする」ではブラジルが84%、「日本語や日本文化を外国人に教える」ではベトナムが72%、「外国人に対して、気軽にあいさつしたり、会話したりするようにする」ではフィリピンが57%と最も高くなっている。



国籍別

	合計	多文化共生のために日本人市民に必要なこと(複数回答)								
		外国人に対する偏見や差別意識をもたないようにする	外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	日本語や日本文化を外国人に教える	日本で生活するルールを守るように外国人市民に呼びかける	外国人に対して、気軽にあいさつしたり、会話したりするようにする	地域を良くする活動や交流イベントに外国人が参加するよう呼びかける	その他	特にすることはない	
全体	214 100%	146 68.2%	55 25.7%	117 54.7%	98 45.8%	108 50.5%	78 36.4%	15 7.0%	1 0.5%	
主要国籍	フィリピン	49 100%	36 73%	18 37%	26 53%	27 55%	28 57%	15 31%	0 0%	0 0%
	ベトナム	46 100%	36 78%	9 20%	33 72%	23 50%	24 52%	19 41%	1 2%	0 0%
	ブラジル	31 100%	26 84%	1 3%	14 45%	18 58%	16 52%	7 23%	1 3%	1 3%
	中国	45 100%	28 62%	15 33%	19 42%	12 27%	19 42%	22 49%	7 16%	0 0%
	その他	42 100%	20 48%	12 29%	25 60%	18 43%	21 50%	15 36%	5 12%	0 0%

◇【日本人市民との比較】…日本人市民アンケートでの結果と比較して、外国人市民の方の割合が多い選択肢は、「日本語や日本文化を外国人に教える」が23.2%の差、「地域を良くする活動や交流イベントに外国人が参加するよう呼びかける」が15.5%の差となっている。

◇逆に、日本人市民の方の割合が多い選択肢は、「外国の言葉や文化、習慣を学ぶ」が16.5%の差、「外国人に対する偏見や差別意識をもたないようにする」が7.1%の差となっている。

日本人市民との比較

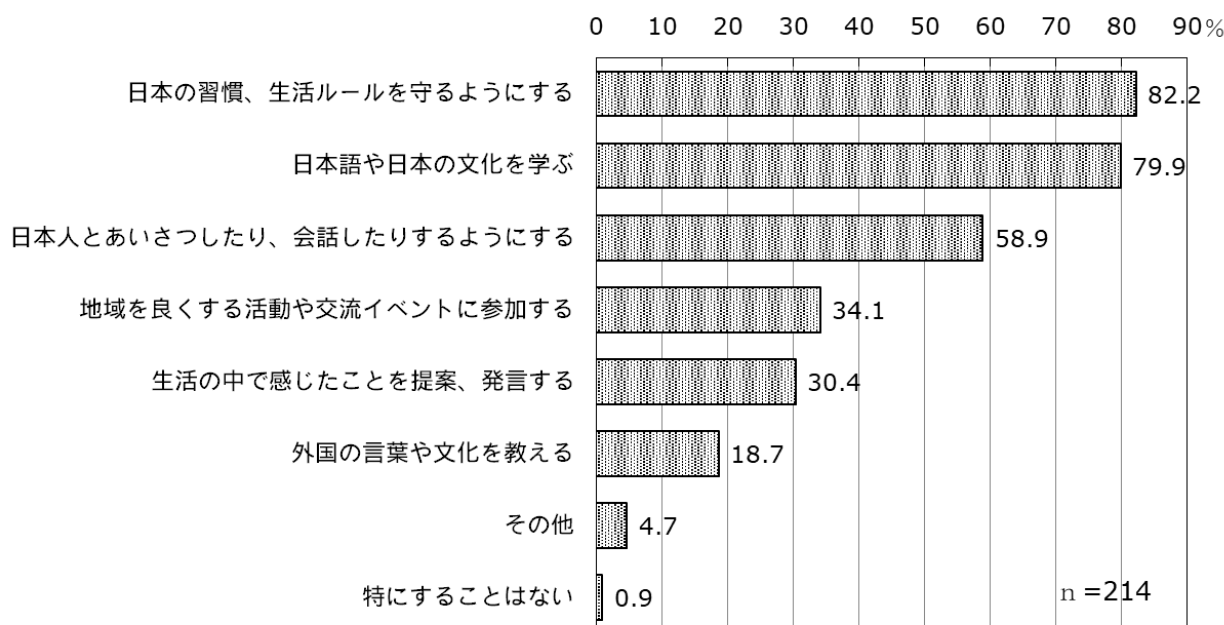
No.	選択肢	外国人市民 回答者数	外国人市民 割合	日本人市民 回答者数	日本人市民 割合	割合の差 (外国-日本)
1	外国人に対する偏見や差別意識をもたないようにする	146	68.2%	309	75.4%	-7.1%
2	外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	55	25.7%	173	42.2%	-16.5%
3	日本語や日本文化を外国人に教える	117	54.7%	129	31.5%	23.2%
4	日本で生活するルールを守るように外国人市民に呼びかける	98	45.8%	195	47.6%	-1.8%
5	外国人に対して、気軽にあいさつしたり、会話したりするようにする	108	50.5%	202	49.3%	1.2%
6	地域を良くする活動や交流イベントに外国人が参加するよう呼びかける	78	36.4%	86	21.0%	15.5%
7	その他	15	7.0%	4	1.0%	6.0%
8	特にすることはない	1	0.5%	32	7.8%	-7.3%

(8) 多文化共生のために外国人市民に必要なこと

設問… 日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、外国人市民に特に必要だと思うことは何ですか？ [4つまでチェック]

◇「多文化共生のために外国人市民に必要なこと」は、「日本の習慣、生活ルールを守るようにする」が82.2%と最も多く、次いで「日本語や日本の文化を学ぶ」が79.9%、「日本人とあいさつしたり、会話したりするようになる」58.9%などとなっている。

◇【国籍別】…上位3つの必要なこととみると、「日本の習慣、生活ルールを守るようにする」ではブラジルが90%、「日本語や日本の文化を学ぶ」ではベトナムが87%、「日本人とあいさつしたり、会話したりするようになる」ではフィリピンが78%と最も高くなっている。



国籍別

	合計	多文化共生のために外国人市民に必要なこと(複数回答)								
		日本の習慣、生活ルールを守るようにする	日本語や日本の文化を学ぶ	外国の言葉や文化を教える	生活の中で感じたことを提案、発言する	日本人とあいさつしたり、会話したりするようになる	地域を良くする活動や交流イベントに参加する	その他	特にすることはない	
全体	214 100%	176 82.2%	171 79.9%	40 18.7%	65 30.4%	126 58.9%	73 34.1%	10 4.7%	2 0.9%	
主要国籍	フィリピン	50 100%	42 84%	39 78%	12 24%	18 36%	39 78%	10 20%	1 2%	0 0%
	ベトナム	46 100%	40 87%	40 87%	11 24%	12 26%	26 57%	23 50%	1 2%	0 0%
	ブラジル	31 100%	28 90%	24 77%	4 13%	6 19%	18 58%	11 35%	1 3%	1 3%
	中国	45 100%	37 82%	36 80%	6 13%	15 33%	25 56%	18 40%	2 4%	0 0%
	その他	41 100%	29 71%	32 78%	7 17%	14 34%	18 44%	11 27%	4 10%	1 2%

◇【日本人市民との比較】…日本人市民アンケートでの結果と比較して、外国人市民の方の割合が多い選択肢は、「日本語や日本の文化を学ぶ」が18.5%の差、「日本人とあいさつしたり、会話したりするようにする」が7.7%の差となっている。

◇逆に、日本人市民の方の割合が多い選択肢は、「生活の中で感じたことを提案、発言する」であるが、その差はわずかである。

日本人市民との比較

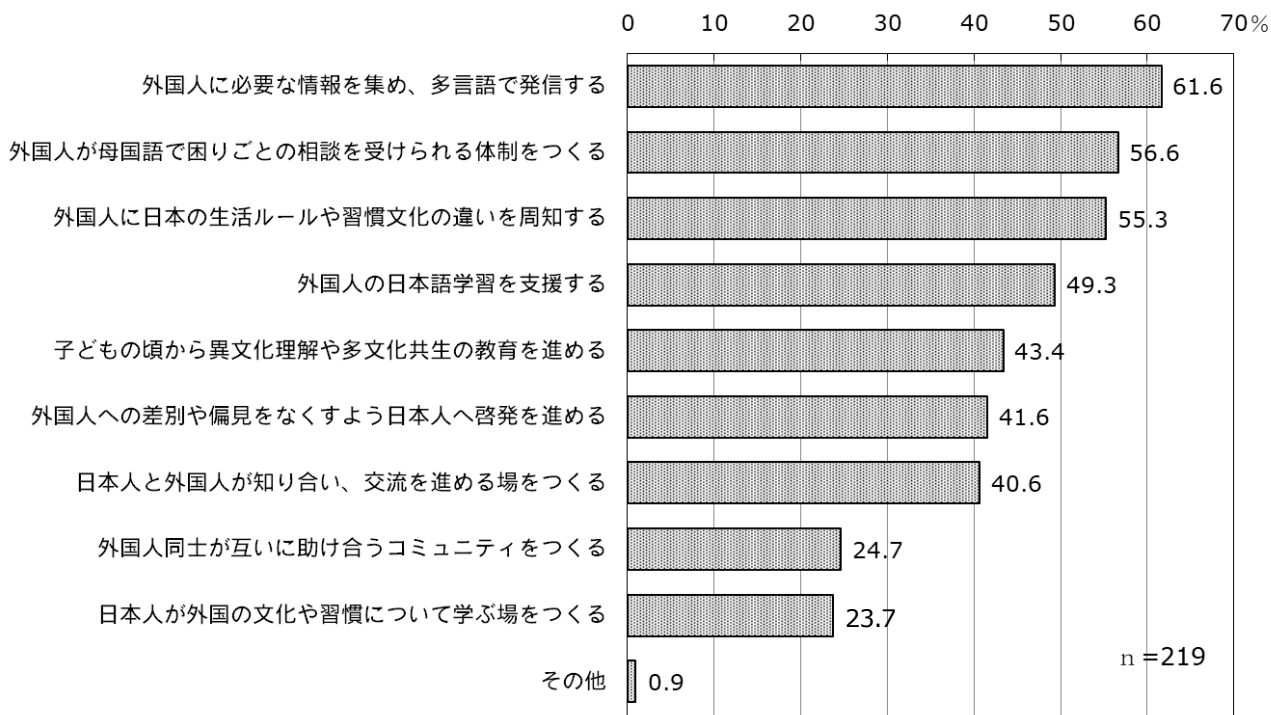
No.	選択肢	外国人市民 回答者数	外国人市民 割合	日本人市民 回答者数	日本人市民 割合	割合の差 (外国－日本)
1	日本の習慣、生活ルールを守るようにする	176	82.2%	331	80.3%	1.9%
2	日本語や日本の文化を学ぶ	171	79.9%	253	61.4%	18.5%
3	外国の言葉や文化を教える	40	18.7%	71	17.2%	1.5%
4	生活の中で感じたことを提案、発言する	65	30.4%	127	30.8%	-0.5%
5	日本人とあいさつしたり、会話したりするようにする	126	58.9%	211	51.2%	7.7%
6	地域を良くする活動や交流イベントに参加する	73	34.1%	125	30.3%	3.8%
7	その他	10	4.7%	3	0.7%	3.9%
8	特にすることはない	2	0.9%	19	4.6%	-3.7%

(9) 多文化共生のために刈谷市役所（行政）に必要なこと

設問…

日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、刈谷市役所（行政）が特に実施する必要があることは何だと思いますか？
[5つまでチェック]

- ◇ 「多文化共生のために刈谷市役所（行政）に必要なこと」は、「外国人に必要な情報を集め、多言語で発信する」が61.6%と最も多く、次いで「外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる」が56.6%、「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」55.3%などとなっている。
- ◇ **【国籍別】** …一番刈谷市役所に求めている内容は、フィリピンとブラジルが「外国人に必要な情報を集め、多言語で発信する」68%・67%、ベトナムが「外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる」83%、中国が「日本人、外国人双方に、子どもの頃から異文化理解や多文化共生の教育を進める」67%となっている。
- ◇ **【日本人市民との比較】** …日本人市民アンケートでの結果と比較して、外国人市民の方の割合が多い選択肢は、「外国人に必要な情報を集め、多言語で発信する」が22.9%の差、「外国人への差別や偏見をなくすように、日本人へ意識啓発を進める」が11.2%の差、「日本人と外国人が知り合い、交流を進める場をつくる」10.7%の差となっている。
- ◇ 逆に、日本人市民の方の割合が多い選択肢は、「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が4.1%の差となっている。



国籍別

		多文化共生のために刈谷市役所に必要なこと(複数回答)										
		外国人に必要な情報を集め多言語で発信する	外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる	外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	外国人の日本語学習を支援する	日本人が外国の文化や習慣について学ぶ場をつくる	日本人と外国人が知り合い交流を進める場をつくる	外国人同士が互いに助け合うコミュニティをつくる	外国人への差別や偏見をなくすように、日本人へ意識啓発を進める	日本人、外国人双方に、子どもの頃から異文化理解や多文化共生の教育を進める	その他	
全体	210 100%	135 64.3%	124 59.0%	121 57.6%	108 51.4%	52 24.8%	89 42.4%	54 25.7%	91 43.3%	95 45.2%	2 1.0%	
主要国籍	フィリピン	50 100%	34 68%	31 62%	32 64%	23 46%	11 22%	19 38%	12 24%	30 60%	19 38%	1 2%
	ベトナム	46 100%	36 78%	38 83%	25 54%	31 67%	9 20%	15 33%	15 33%	17 37%	17 37%	0 0%
	ブラジル	30 100%	20 67%	9 30%	16 53%	9 30%	8 27%	15 50%	5 17%	17 57%	14 47%	0 0%
	中国	43 100%	20 47%	23 53%	23 53%	22 51%	15 35%	21 49%	12 28%	16 37%	29 67%	0 0%
	その他	41 100%	25 61%	23 56%	25 61%	23 56%	9 22%	19 46%	10 24%	11 27%	16 39%	1 2%

日本人市民との比較

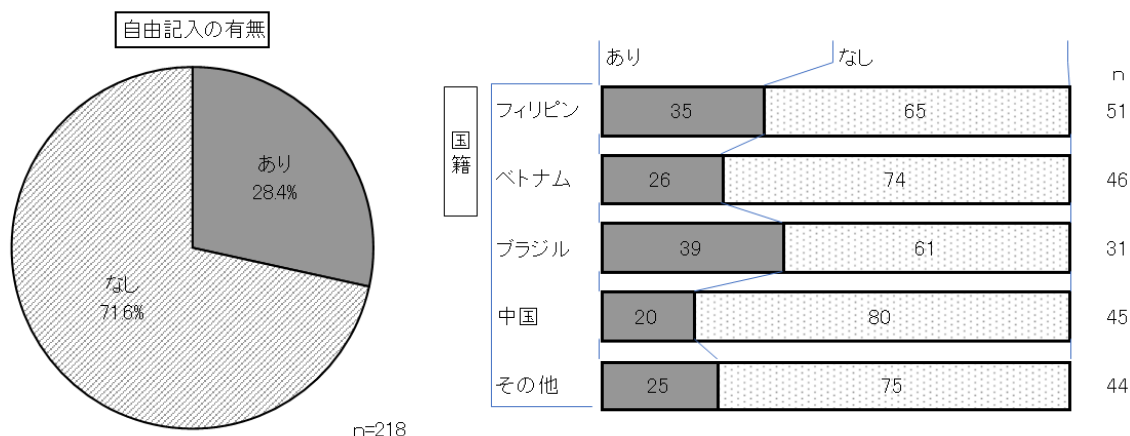
No.	選択肢	外国人市民回答者数	外国人市民割合	日本人市民回答者数	日本人市民割合	割合の差(外国-日本)
1	外国人に必要な情報を集め、多言語で発信する	135	61.6%	162	38.8%	22.9%
2	外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる	124	56.6%	229	54.8%	1.8%
3	外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	121	55.3%	248	59.3%	-4.1%
4	外国人の日本語学習を支援する	108	49.3%	190	45.5%	3.9%
5	日本人が外国の文化や習慣について学ぶ場をつくる	52	23.7%	95	22.7%	1.0%
6	日本人と外国人が知り合い、交流を進める場をつくる	89	40.6%	125	29.9%	10.7%
7	外国人同士が互いに助け合うコミュニティをつくる	54	24.7%	68	16.3%	8.4%
8	外国人への差別や偏見をなくすように、日本人へ意識啓発を進める	91	41.6%	127	30.4%	11.2%
9	日本人、外国人双方に、子どもの頃から異文化理解や多文化共生の教育を進める	95	43.4%	150	35.9%	7.5%
10	その他	2	0.9%	7	1.7%	-0.8%

(10) 具体的提案の有無

設問… 刈谷市を多文化共生のまちにするために、あなたの具体的な提案、あるいはやりたいこと、貢献できそうなことがありましたら、ご記入ください。[自由記入]

◇自由記述の「具体的提案の有無」は、「ある」が28.4%である。

◇【国籍別】…「ある」の割合は、ブラジルが39%（12件）と最も高く、次いでフィリピン35%（18件）、ベトナム26%（12件）、中国20%（9件）、その他25%（11件）である。



具体的内容 ※日本語で記載されたもののみ。外国語は翻訳中。内容を取捨選択して整理予定。

- ◇（時間はあれば）ボランティア参加できる。街の清掃、イベントのお手伝いなど。
- ◇今後も国際文化交流のボランティア活動があれば、私は積極的に参加したい。国籍は関係なく、安心、安全に暮らせるような街にしていただけるととても嬉しい。
- ◇年に1度、刈谷市で様々な国籍の人と一緒に食べ物と音楽でイベントを開催。
- ◇国際プラザはいいところで、外国人たちは交流できる機会がある。自分の国の特別なものを紹介する文化交流の機会があれば日本人たちと心ももっとつながれそう。
- ◇子どもたちが多文化にふれあうイベントを作ってほしい。
- ◇国によって言語や文化が違い、伝えたいことがよく勘違いされてしまう。例えば日本人同士でも地域の方言や年齢層の違いで全然通じない場面もよくある。会社内でも電話だけで全然説明できない場面もよくある。言葉ではなく図などを活用しながら伝えれば良いと考えている。非常に効率が向上できると思う。
- ◇ルールとマナーのことを教えてほしい。まち、道のことを詳しく教えてもらいたい。
- ◇イベント開催と広報をしてほしい。
- ◇毎日、日本語が勉強できる場所がほしい。
- ◇外国人のための日本語学習や仕事紹介のサポートをしてほしい。
- ◇日本での外国人の生活を助けてほしい。外国人に対して、時々間違った考え方の人がいるので、それを直してほしい。日本語をゆっくり話してもらえればわかるので、ゆっくり話してほしい。専門的な言葉はほとんどよくわからない。
- ◇外国人も刈谷市民なのであえて特別扱いせず、できるだけ日本人と同じように扱うことで市に帰属意識が生まれるのではないかと感じた。外国人が刈谷市に住みやすくする市政は必要だが、行き過ぎた保護は日本人からの反感を買ってしまうと思った。

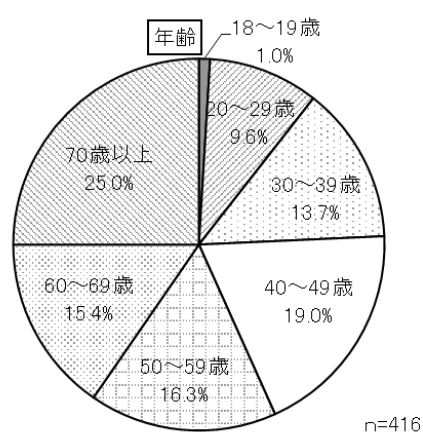
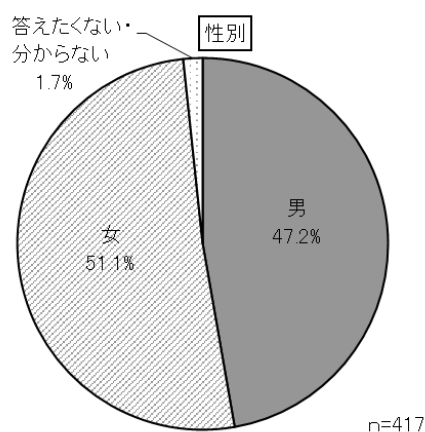
第3章 日本人市民アンケートの結果

3-1. 回答者の属性

(1) 性別・年齢

◇性別は、女性が51.1%、男性が47.2%と、やや女性が多い。

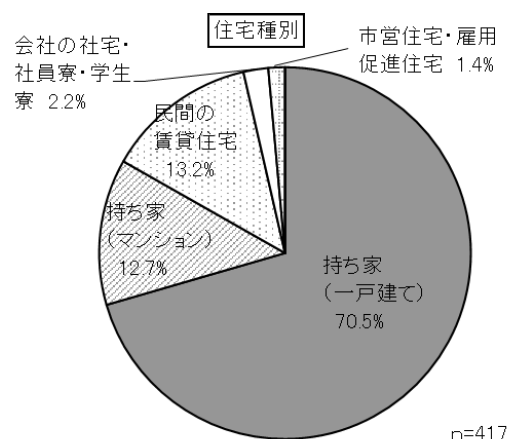
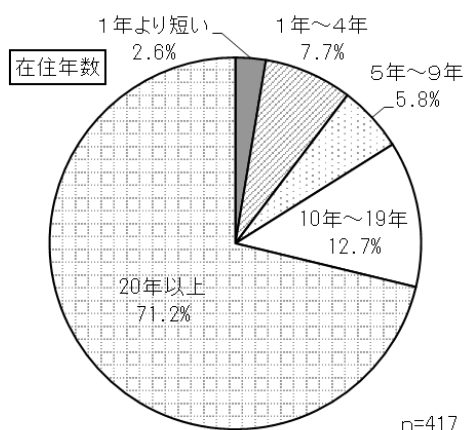
◇年齢は、70歳代が25.0%と最も多く、次いで40歳代19.0%、50歳代16.3%と、比較的高齢世代が多くを占めている。



(2) 刈谷市の在住年数、住宅の種別

◇刈谷市の在住年数は、20年以上が71.2%と大半を占め、次いで10~19年12.7%、1~4年7.7%などとなっている。

◇住宅の種別は、持ち家（一戸建て）が70.5%と大半を占め、次いで、民間の賃貸住宅13.2%、持ち家（マンション）12.7%などとなっている。



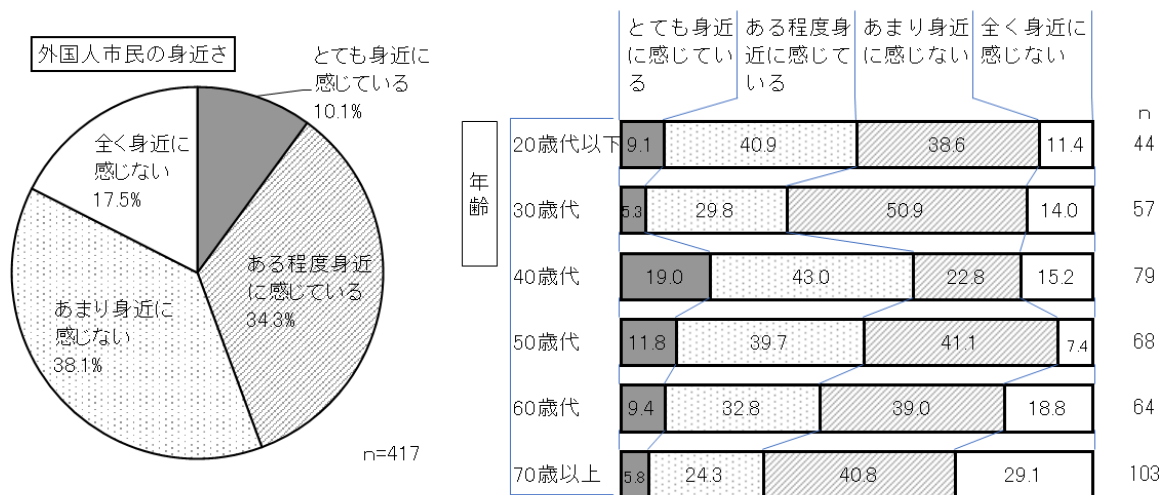
3-2. 外国人との関わり

(1) 外国人市民の身近さ

設問… あなたは、普段生活をしていて、外国人市民の存在を身近に感じますか。[〇は1つ]

◇「外国人市民の身近さ」は、肯定的な感情（「とても身近に感じている」＋「ある程度身近に感じている」）の割合が 44.4%、否定的な感情（「全く身近に感じない」＋「あまり身近に感じない」）の割合が 55.6%となっており、否定的な感情の割合の方が高くなっている。

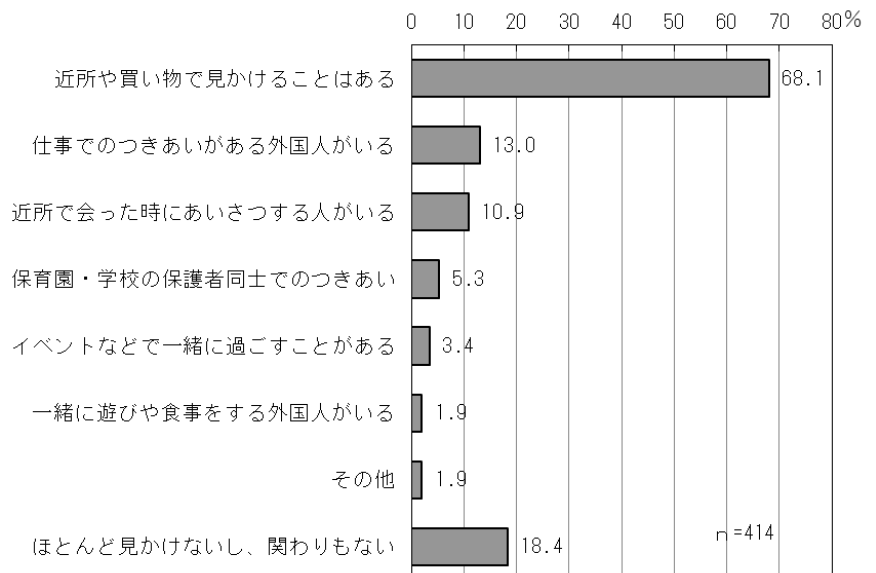
◇【年齢別】…肯定的な評価の割合は、40歳代の62.0%をピークに、年齢が上がるにつれて下がり、70歳以上で30.1%と最も低くなっている。また、30歳代でも35.1%と低くなっている。



(2) 外国人市民との関わり

設問… あなたは、市内の外国人市民とどのような関わりがありますか。[〇はいくつでも]

◇「外国人市民との関わり」は、「近所や買い物で見かけることはある」が68.1%と最も高く、次いで「ほとんど見かけないし、関わりもない」が18.4%、「仕事でのつきあいがある外国人がいる」13.0%、「近所の外国人で、会ったときにあいさつする人がいる」10.9%などとなっている。



◇【年齢別】…「ほとんど見かけないし、関わりもない」の割合が、70歳以上で35%と他の年代よりも高くなっている。「保育園・学校の送迎時や行事での保護者同士でのつきあいがある外国人がいる」の割合が、その年代の子どもが家庭にいる30歳代、40歳代で、他の年代よりも高くなっている。

年齢別

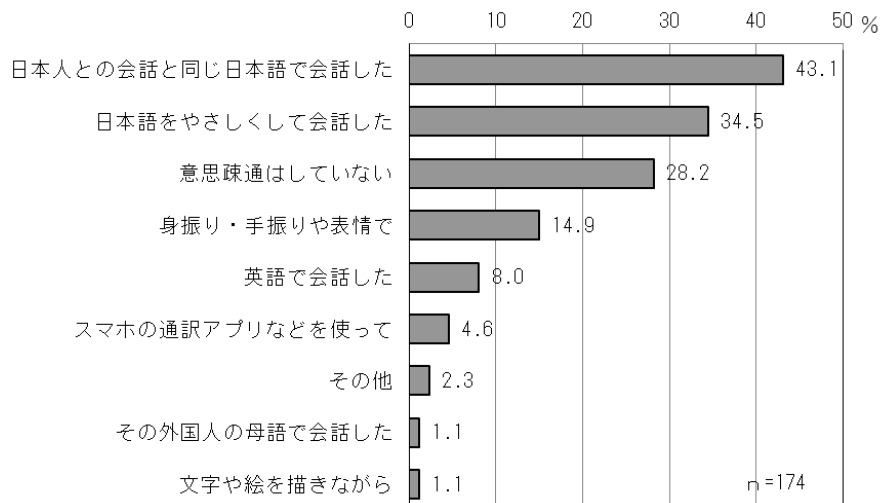
	合計	外国人市民との関わり								
		近所や買い物で外国人を見かけることはある	近所の外国人で、会ったときにあいさつする人がいる	仕事でのつきあいがある外国人がいる	保育園・学校の送迎時や行事での保護者同士でのつきあいがある外国人がいる	一緒に遊びや食事をする外国人がいる	外国人との交流イベントやボランティアという機会に一緒に過ごすことがある	その他	ほとんど見かけないし、関わりもない	
全体	414	282	45	54	22	8	14	8	76	
	100%	68.1%	10.9%	13.0%	5.3%	1.9%	3.4%	1.9%	18.4%	
年齢	20歳代以下	44	26	1	9	1	3	2	4	10
		100%	59%	2%	20%	2%	7%	5%	9%	23%
	30歳代	57	43	3	7	8	2	2	1	5
		100%	75%	5%	12%	14%	4%	4%	2%	9%
	40歳代	79	58	9	13	12	0	1	0	7
		100%	73%	11%	16%	15%	0%	1%	0%	9%
	50歳代	67	53	11	12	1	0	1	1	8
	100%	79%	16%	18%	1%	0%	1%	1%	12%	
60歳代	64	41	7	10	0	3	6	1	10	
	100%	64%	11%	16%	0%	5%	9%	2%	16%	
70歳以上	101	60	14	3	0	0	2	1	35	
	100%	59%	14%	3%	0%	0%	2%	1%	35%	

(3) 関わった外国人市民との意思疎通の方法

設問…

「前問で2～7の回答者のみ」その際、外国人市民との意思疎通を、どのようにしましたか。[0はいくつでも]

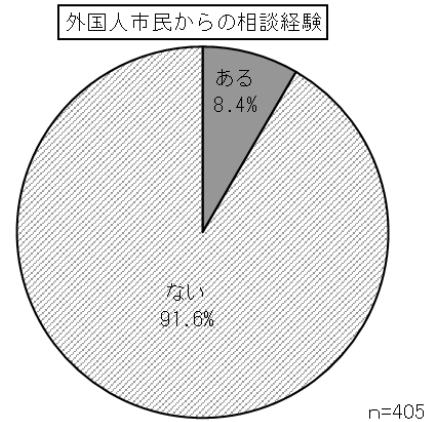
◇「関わった外国人市民との意思疎通の方法」は、「日本人との会話と同じ日本語で会話をした」が43.1%と最も高く、次いで「日本語をやさしくして会話をした」が34.5%、「意思疎通はしていない」28.2%、「身振り・手振りや表情で」14.9%などとなっている。



(4) 外国人市民からの相談経験

設問… あなたは、知り合いの外国人市民から相談を受けたことはありますか。[〇は1つ]

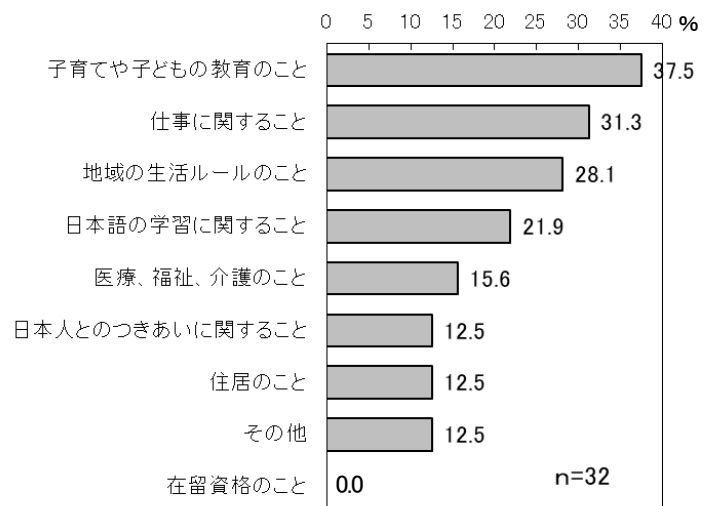
◇「外国人市民からの相談経験」は、「ある」が8.4%となっている。



(5) 相談の内容

設問… [前問で1の回答者のみ] 受けた相談は、どのような内容でしたか。[〇はいくつでも]

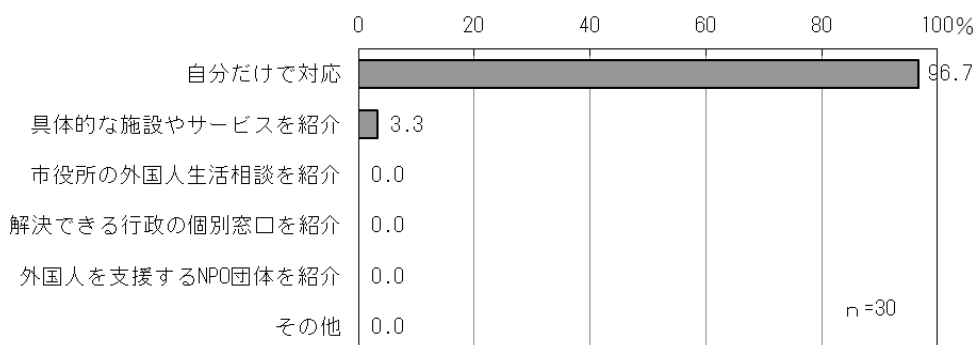
◇「受けた相談の内容」は、「子育てや子どもの教育のこと」が37.5%と最も多く、次いで「仕事に関すること」が31.3%、「地域の生活ルールのこと」28.1%、「日本語の学習に関すること」21.9%などとなっている。



(6) 相談への対処方法

設問… [前々問で1の回答者のみ] あなたは、その相談に対してどのように対応しましたか。[〇はいくつでも]

◇「相談への対処方法」は、ほとんどすべてが「自分だけで対応」(96.7%)となっている。

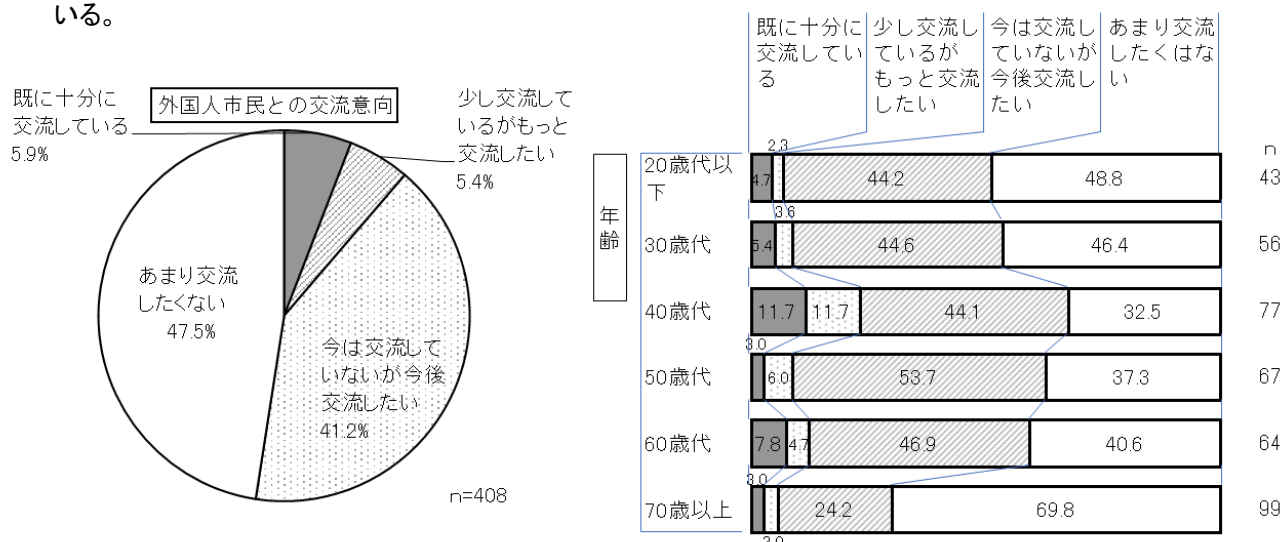


(7) 外国人市民との交流意向

設問… あなたは、自分が住んでいる地域の外国人と交流したいですか。[○は1つ]

◇「外国人市民との交流意向」は、「既に十分に交流している」が5.9%、「少し交流しているがもっと交流したい」が5.4%、「今は交流していないが今後交流したい」が41.2%であり、交流に対して肯定的な割合は合わせて52.5%となっている。

◇【年齢別】…肯定的な評価の割合は、40歳代が67.5%と最も高く、70歳以上で30.3%と最も低くなっている。

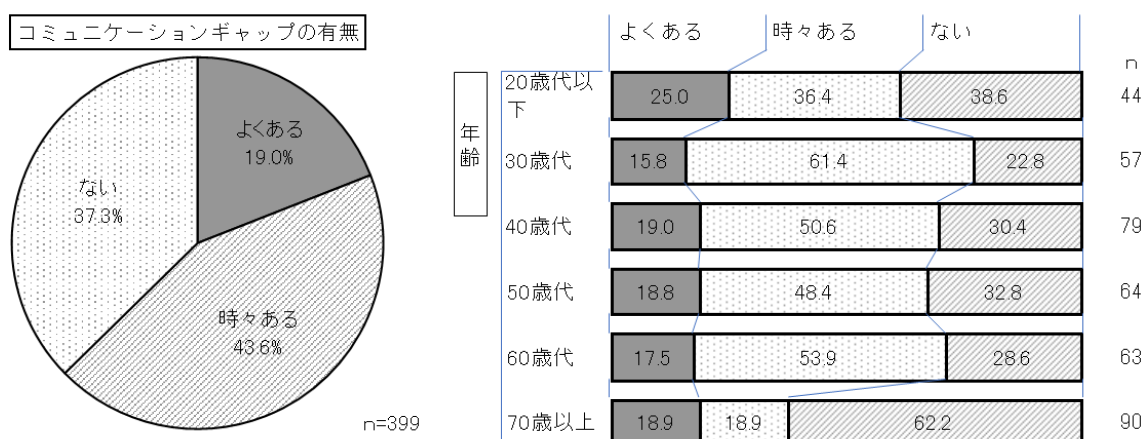


(8) 外国人とのコミュニケーションギャップの有無

設問… あなたは、外国人と関わるときに、コミュニケーションギャップ（抵抗感や違和感）を覚えたことはありますか。[○は1つ]

◇「外国人とのコミュニケーションギャップの有無」は、「よくある」と「時々ある」を合わせた割合が62.7%となっている。

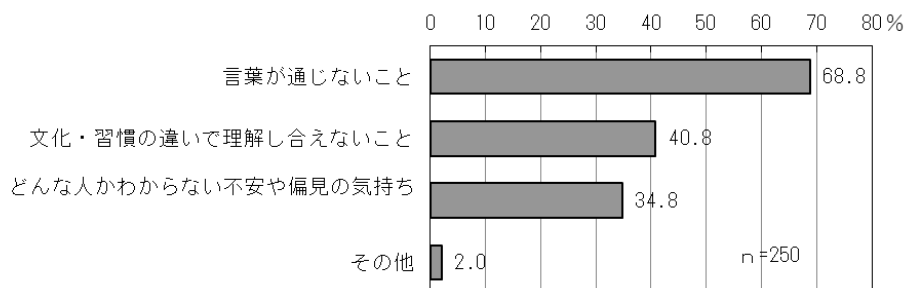
◇【年齢別】…「ある」の割合は、30歳代が77.2%と最も高く、70歳以上で37.8%と最も低くなっている。



(9) 外国人とのコミュニケーションギャップの内容

設問… [前問で1, 2の回答者のみ] そのギャップ（違和感や抵抗感）は、どのようなものでしたか。
[〇はいくつでも]

◇「外国人とのコミュニケーションギャップの内容」は、「言葉が通じないこと」が68.8%と最も多く、次いで「文化・習慣の違いで理解し合えないこと」が40.8%、「どんな人かわからない不安や偏見の気持ち」34.8%、などとなっている。



◇【年齢別】…「言葉が通じないこと」では、50歳代79%、40歳代77%と他の年代よりも高くなっている。「文化・習慣の違いで理解し合えないこと」では、60歳代が47%と比較的高くなっている。「どんな人かわからない不安や偏見の気持ち」では、20歳代以下と70歳以上がともに41%と比較的高くなっている。

年齢別

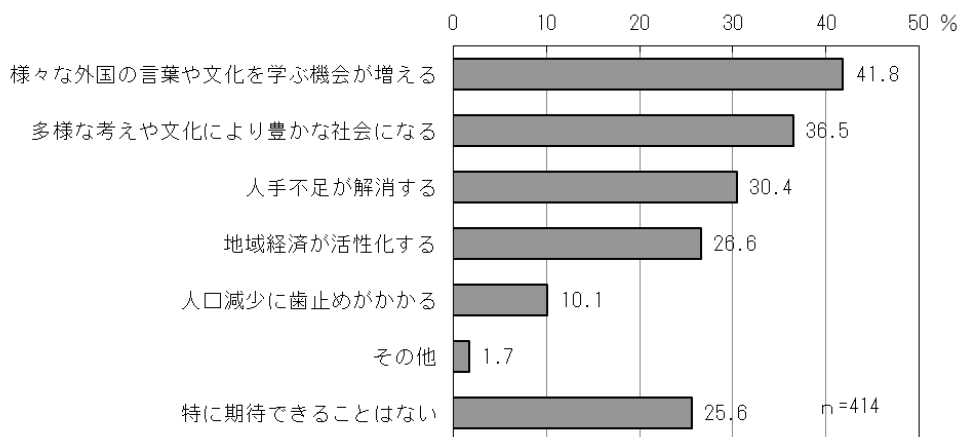
		コミュニケーションギャップの内容				
		合計	言葉が通じないこと	文化・習慣の違いで理解し合えないこと	どんな人かわからない不安や偏見の気持ち	その他
全体	250	172	102	87	5	
	100%	68.8%	40.8%	34.8%	2.0%	
年齢	20歳代以下	27	17	12	11	1
		100%	63%	44%	41%	4%
	30歳代	45	31	20	13	0
		100%	69%	44%	29%	0%
	40歳代	56	43	21	18	3
		100%	77%	38%	32%	5%
	50歳代	43	34	18	15	0
	100%	79%	42%	35%	0%	
60歳代	43	27	20	15	0	
	100%	63%	47%	35%	0%	
70歳以上	34	20	10	14	1	
	100%	59%	29%	41%	3%	

3-3. 外国人が増えることへの考え

(1) 外国人住民が増えることへの期待

設問… あなたが住んでいる地域で、外国人の住民が増えた場合に、期待できる！と思うことは何ですか。
 [〇は3つまで]

◇「外国人住民が増えることへの期待」は、「様々な外国の言葉や文化を学ぶ機会が増える」が41.8%と最も多く、次いで「多様な考えや文化により豊かな社会になる」が36.5%、「人手不足が解消する」30.4%などとなっている。「特に期待できることはない」は25.6%となっている。



◇【年齢別】…「様々な外国の言葉や文化を学ぶ機会が増える」では40歳代が61%、「多様な考えや文化により豊かな社会になる」では20歳代以下が43%、「人手不足が解消する」では50歳代が41%と高くなっている。「特に期待できることはない」では70歳以上が47%と他の世代よりも高くなっている。

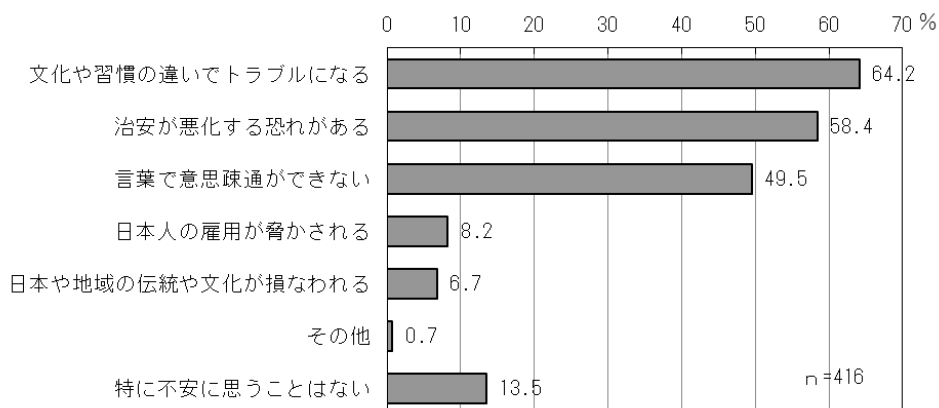
年齢別

	合計	外国人住民が増えることへの期待							
		人手不足が解消する	地域経済が活性化する	人口減少に歯止めがかかる	多様な考えや文化により豊かな社会になる	様々な外国の言葉や文化を学ぶ機会が増える	その他	特に期待できることはない	
全体	414 100%	126 30.4%	110 26.6%	42 10.1%	151 36.5%	173 41.8%	7 1.7%	106 25.6%	
年齢	20歳代以下	44 100%	15 34%	13 30%	6 14%	19 43%	21 48%	0 0%	7 16%
	30歳代	57 100%	17 30%	17 30%	5 9%	21 37%	28 49%	1 2%	7 12%
	40歳代	79 100%	16 20%	19 24%	6 8%	31 39%	48 61%	0 0%	15 19%
	50歳代	68 100%	28 41%	20 29%	5 7%	28 41%	28 41%	0 0%	16 24%
	60歳代	64 100%	25 39%	20 31%	7 11%	25 39%	26 41%	2 3%	12 19%
	70歳以上	100 100%	25 25%	21 21%	13 13%	27 27%	22 22%	4 4%	47 47%

(2) 外国人住民が増えることへの不安

設問… あなたが住んでいる地域で、外国人の住民が増えた場合に、不安に思うことは何ですか。[〇は3つまで]

◇「外国人住民が増えることへの不安」は、「文化や習慣の違いでトラブルになる」が64.2%と最も多く、次いで「治安が悪化する恐れがある」が58.4%、「言葉で意思疎通ができない」49.5%などとなっている。「特に不安に思うことはない」は13.5%となっている。



◇【年齢別】…「文化や習慣の違いでトラブルになる」では20歳代以下が75%、「治安が悪化する恐れがある」では40歳代が67%、「言葉で意思疎通ができない」では70歳以上が59%と、それぞれ最も高くなっている。「特に不安に思うことはない」では70歳以上が21%と他の世代よりも高くなっている。

年齢別

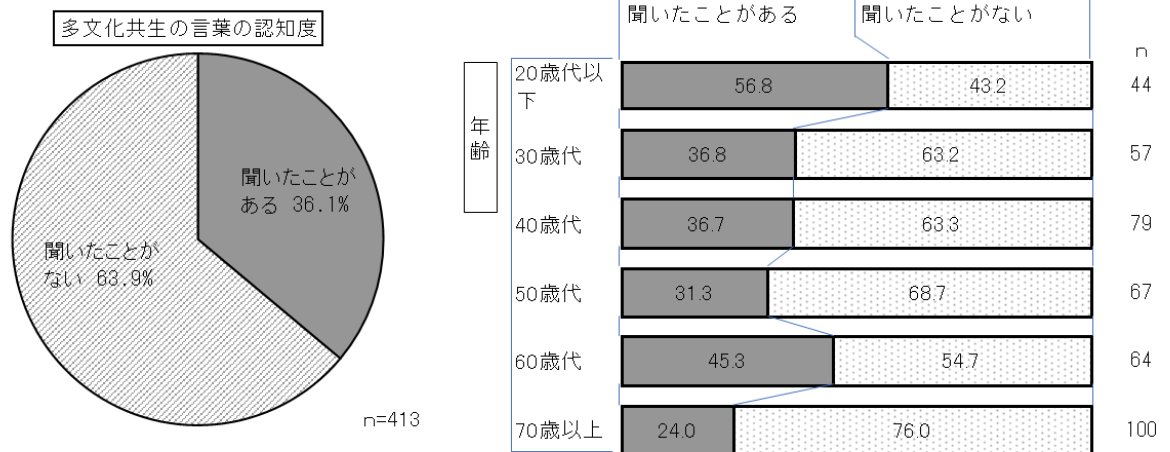
	合計	外国人住民が増えることへの不安							
		言葉で意思疎通ができない	文化や習慣の違いでトラブルになる	治安が悪化する恐れがある	日本人の雇用が脅かされる	日本や地域の伝統や文化が損なわれる	その他	特に不安に思うことはない	
全体	416 100%	206 49.5%	267 64.2%	243 58.4%	34 8.2%	28 6.7%	3 0.7%	56 13.5%	
年齢	20歳代以下	44 100%	16 36%	33 75%	28 64%	3 7%	4 9%	0 0%	4 9%
	30歳代	57 100%	28 49%	39 68%	33 58%	11 19%	2 4%	0 0%	8 14%
	40歳代	79 100%	33 42%	58 73%	53 67%	9 11%	3 4%	0 0%	4 5%
	50歳代	68 100%	39 57%	41 60%	40 59%	2 3%	5 7%	1 1%	7 10%
	60歳代	64 100%	30 47%	45 70%	31 48%	3 5%	6 9%	0 0%	12 19%
	70歳以上	102 100%	60 59%	50 49%	56 55%	6 6%	8 8%	2 2%	21 21%

3-4. 多文化共生のまちづくり

(1) 多文化共生の言葉の認知度

設問… あなたは、本調査以前に「多文化共生」の言葉を聞いたことがありますか。[○は1つ]

- ◇「多文化共生の言葉の認知度」は、「聞いたことがある」が 36.1%、「聞いたことがない」が 63.9%となっている。
- ◇【年齢別】…「聞いたことがある」の割合は、20歳代が 56.8%と最も高く、70歳以上で 24.0%と最も低くなっている。
- ◇【現計画策定時（2010年）との比較】…同様な質問をした 2010年アンケートの「聞いたことがある」の割合は 33.1%であることから認知度がほとんど高まっていない。



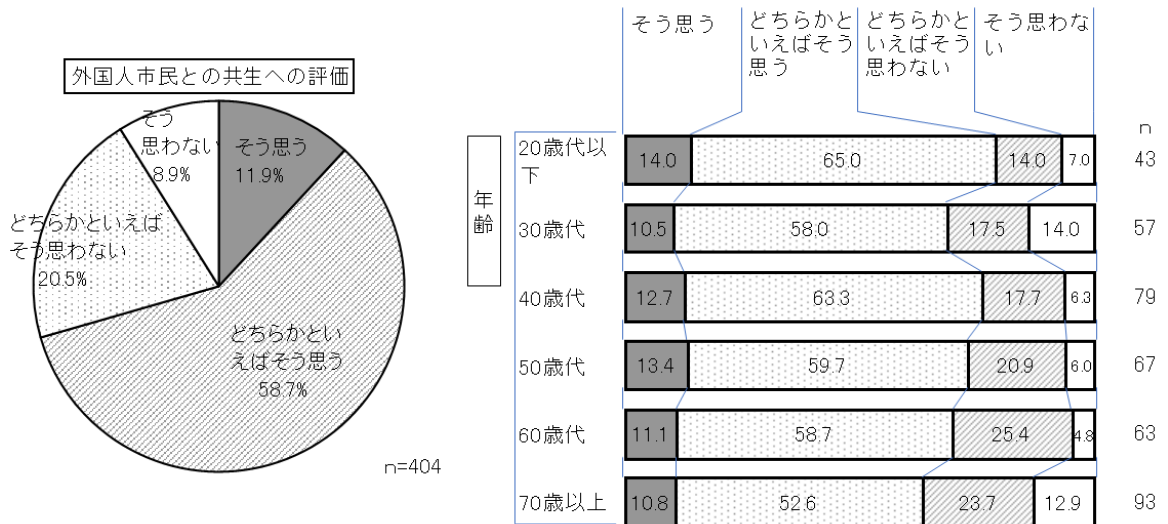
現計画策定時（2010年）との比較

No.	選択肢	回答者数	割合	2010年割合
1	聞いたことがある	149	36.1%	33.1%
2	聞いたことがない	264	63.9%	66.9%
	全体	413	100.0%	100.0%

(2) 多文化共生に関する評価

設問… 刈谷市に住む外国人と日本人は、異なる文化や習慣を互いに認め合いながら暮らしていると思いますか。[〇は1つ]

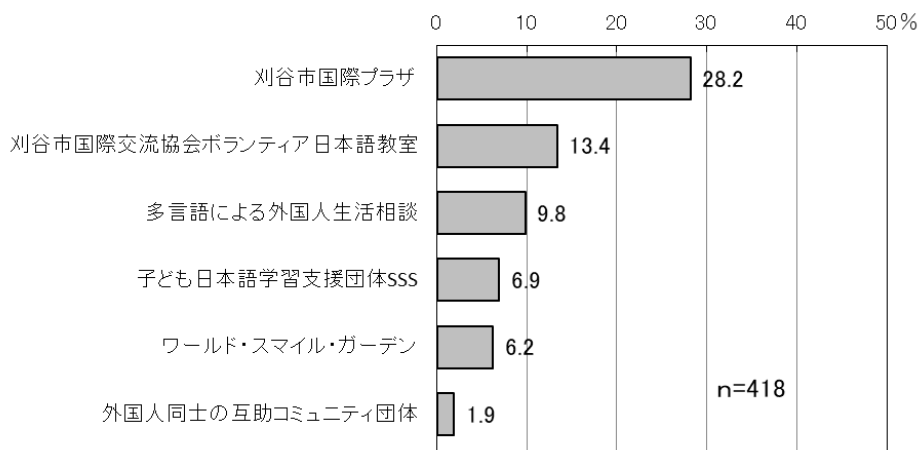
- ◇「多文化共生に関する評価」は、肯定的な評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）の割合が70.6%と否定的な評価（「そう思わない」＋「どちらかといえば思わない」）の割合を上回っている。
- ◇【国籍別】…肯定的な評価の割合は、20歳代以下が79.0%と高く、70歳以上が63.4%と比較的低い。



(3) 外国人市民向けサービスや活動の認知度

設問… あなたは、次の外国人市民向けのサービスや活動を知っていますか。[〇はいくつでも]

- ◇「外国人市民向けサービスや活動の認知度」は、「刈谷市国際プラザ」28.2%と最も高く、次いで「刈谷市国際交流協会ボランティア日本語教室」13.4%、次いで「外国人生活相談」9.8%などとなっている。いずれにしても、外国人市民向けのサービスや活動の日本人市民の認知度は低い。



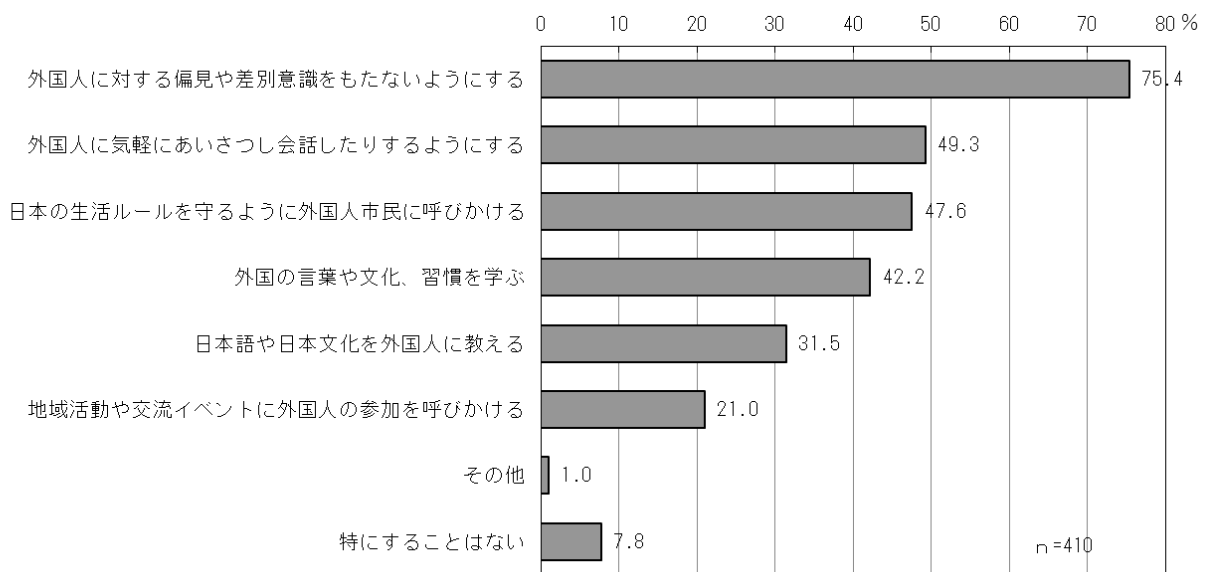
(4) 多文化共生のために日本人市民に必要なこと

設問…

日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、日本人市民に特に必要だと思うことは何ですか。[○は4つまで]

◇「多文化共生のために日本人市民に必要なこと」は、「外国人に対する偏見や差別意識をもたないようにする」が75.4%と最も多く、次いで「外国人に対して、気軽にあいさつしたり、会話したりするようにする」が49.3%、「日本で生活するルールを守るように外国人市民に呼びかける」47.6%、「外国の言葉や文化、習慣を学ぶ」42.2%、などとなっている。

◇【年齢別】…「日本で生活するルールを守るように外国人市民に呼びかける」で、60歳代が66%に対し、20歳代以下は32%と割合が大きく異なるほかは、年代による差はあまり見られない。



年齢別

		多文化共生のために日本人市民に必要なこと								
		合計	外国人に対する偏見や差別意識をもたないようにする	外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	日本語や日本文化を外国人に教える	日本で生活するルールを守るように外国人市民に呼びかける	外国人に対して、気軽にあいさつしたり、会話したりするようにする	地域を良くする活動や交流イベントに外国人が参加するよう呼びかける	その他	特にすることはない
全体	410	309	173	129	195	202	86	4	32	
	100%	75.4%	42.2%	31.5%	47.6%	49.3%	21.0%	1.0%	7.8%	
年齢	20歳代以下	44	34	23	15	14	20	9	1	2
		100%	77%	52%	34%	32%	45%	20%	2%	5%
	30歳代	56	46	30	22	22	28	6	0	1
		100%	82%	54%	39%	39%	50%	11%	0%	2%
	40歳代	79	58	42	27	42	37	14	1	5
		100%	73%	53%	34%	53%	47%	18%	1%	6%
	50歳代	68	51	31	23	31	34	17	0	4
	100%	75%	46%	34%	46%	50%	25%	0%	6%	
60歳代	64	49	28	20	42	34	21	1	1	
	100%	77%	44%	31%	66%	53%	33%	2%	2%	
70歳以上	98	71	19	22	44	49	19	1	18	
	100%	72%	19%	22%	45%	50%	19%	1%	18%	

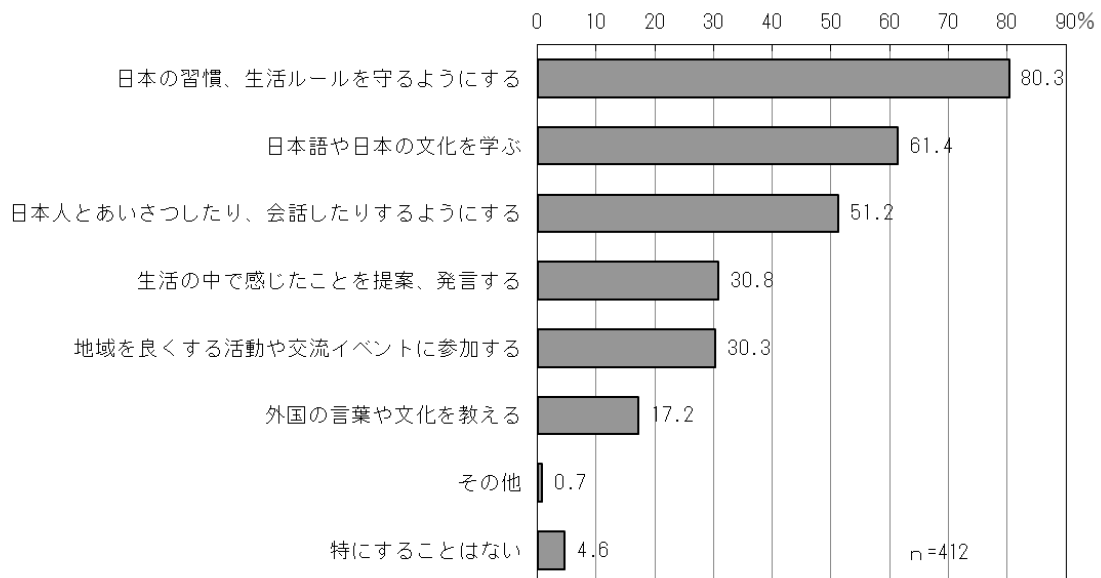
(5) 多文化共生のために外国人市民に必要なこと

設問…

日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、外国人市民に特に必要だと思うことは何ですか。[○は4つまで]

◇「多文化共生のために外国人市民に必要なこと」は、「日本の習慣、生活ルールを守るようにする」が80.3%と最も多く、次いで「日本語や日本の文化を学ぶ」が61.4%、「日本人とあいさつしたり、会話したりするようになる」51.2%などとなっている。

◇【年齢別】…「地域を良くする活動や交流イベントに参加する」で、60歳代以上は39～45%に対し、50歳代以下は20～24%と60歳を境に割合が大きく異なる。同様に「生活の中で感じたことを提案、発言する」でも60歳代以上24～28%に対し、50歳代以下は32～36%となっている。その他は、年代による明らかな差はあまり見られない。



年齢別

	合計	多文化共生のために外国人市民に必要なこと								
		日本の習慣、生活ルールを守るようにする	日本語や日本の文化を学ぶ	外国の言葉や文化を教える	生活の中で感じたことを提案、発言する	日本人とあいさつしたり、会話したりするようになる	地域を良くする活動や交流イベントに参加する	その他	特にすることはない	
全体	412	331	253	71	127	211	125	3	19	
	100%	80.3%	61.4%	17.2%	30.8%	51.2%	30.3%	0.7%	4.6%	
年齢	20歳代以下	44	30	31	5	14	18	9	1	4
		100%	68%	70%	11%	32%	41%	20%	2%	9%
	30歳代	56	46	37	12	20	27	12	0	0
		100%	82%	66%	21%	36%	48%	21%	0%	0%
	40歳代	79	70	47	19	27	40	19	1	2
		100%	89%	59%	24%	34%	51%	24%	1%	3%
	50歳代	68	50	37	15	24	36	16	0	4
	100%	74%	54%	22%	35%	53%	24%	0%	6%	
60歳代	64	54	46	8	18	38	29	1	1	
	100%	84%	72%	13%	28%	59%	45%	2%	2%	
70歳以上	99	80	55	12	24	52	39	0	8	
	100%	81%	56%	12%	24%	53%	39%	0%	8%	

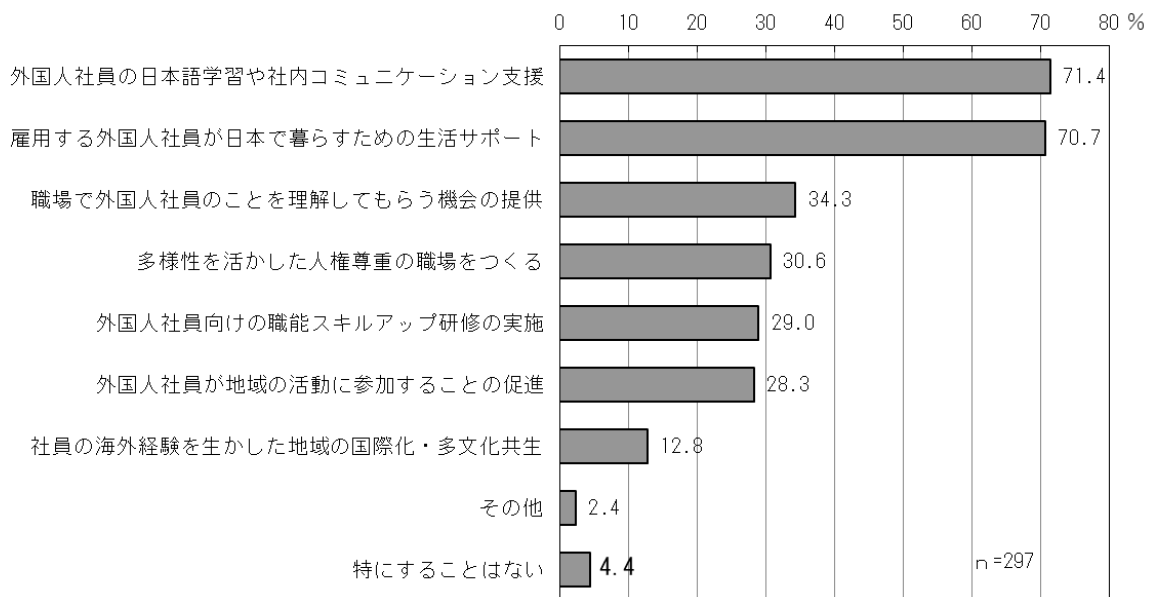
(6) 多文化共生のために企業必要なこと

設問…

日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、企業に特に必要だと思うことは何ですか。[〇は4つまで]

◇「多文化共生のために企業に必要なこと」は、「雇用する外国人社員の日本語学習や社内のコミュニケーション支援」71.4%と「雇用する外国人社員が日本で暮らすための生活サポート」70.7%が、他の選択肢の2倍以上の割合となっている。

◇【年齢別】…50歳代で「多様性を活かした人権尊重の職場をつくる」が45%と比較的高くなっているほかは、年代による明らかな差はあまり見られない。



年齢別

	合計	多文化共生のために企業に必要なこと									
		雇用する外国人社員の日本語学習や社内のコミュニケーション支援	雇用する外国人社員が日本で暮らすための生活サポート	外国人社員向けの職能スキルアップ研修の実施	外国人社員が地域の活動に参加することの促進	職場で外国人社員のことを理解してもらう機会の提供	社員の海外経験を生かした地域の国際化・多文化共生への貢献	多様性を活かした人権尊重の職場をつくる	その他	特にすることはない	
全体	297 100%	212 71.4%	210 70.7%	86 29.0%	84 28.3%	102 34.3%	38 12.8%	91 30.6%	7 2.4%	13 4.4%	
年齢	20歳代以下	20 100%	14 70%	16 80%	7 35%	5 25%	7 35%	3 15%	5 25%	0 0%	0 0%
	30歳代	35 100%	29 83%	26 74%	10 29%	5 14%	17 49%	8 23%	8 23%	0 0%	0 0%
	40歳代	56 100%	40 71%	37 66%	16 29%	11 20%	24 43%	7 13%	18 32%	2 4%	1 2%
	50歳代	47 100%	37 79%	28 60%	14 30%	8 17%	13 28%	8 17%	21 45%	2 4%	2 4%
	60歳代	52 100%	41 79%	41 79%	17 33%	19 37%	16 31%	3 6%	18 35%	1 2%	1 2%
	70歳以上	86 100%	51 59%	62 72%	22 26%	36 42%	25 29%	9 10%	21 24%	2 2%	8 9%

(7) 多文化共生のために刈谷市役所（行政）に必要なこと

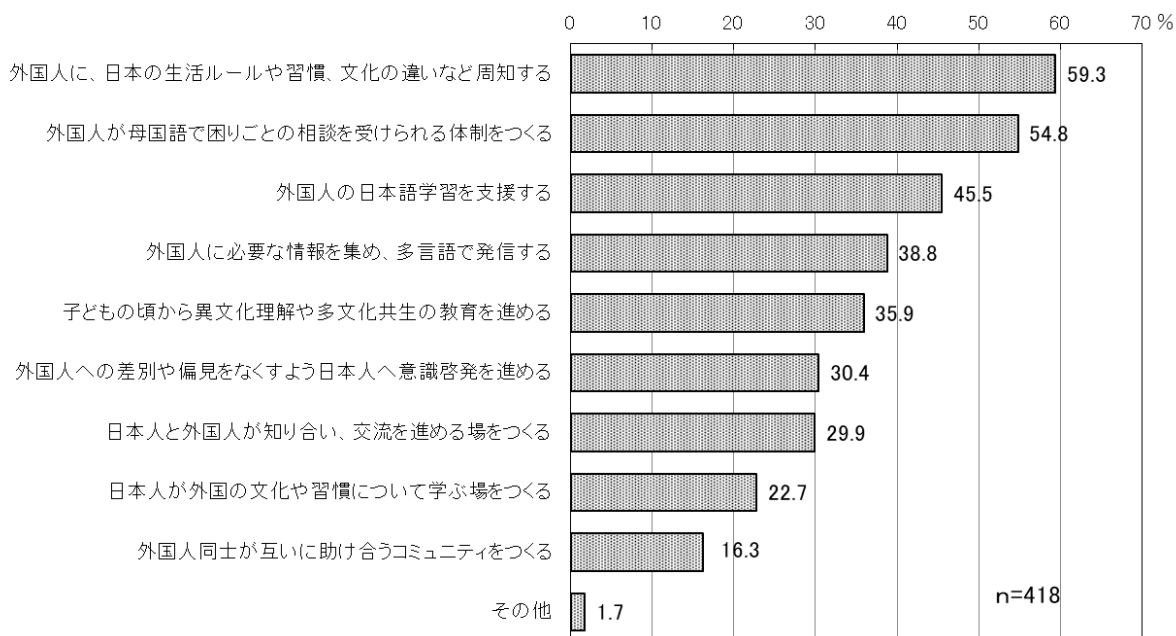
設問…

日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、多様性と活力のある地域社会にしていくために、刈谷市役所（行政）が実施する必要があることは何だと思いませんか。

[〇は5つまで]

◇「多文化共生のために刈谷市役所（行政）に必要なこと」は、「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が59.3%と最も多く、次いで「外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる」が54.8%、「外国人の日本語学習を支援する」45.5%などとなっている。

◇【年齢別】…年代による大きな差はあまり見られない。



年齢別

	合計	多文化共生のために刈谷市役所に必要なこと										
		外国人に必要な情報を集め、多言語で発信する	外国人が母国語で困りごとの相談を受けられる体制をつくる	外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	外国人の日本語学習を支援する	日本人が外国の文化や習慣について学ぶ場をつくる	日本人と外国人が知り合い、交流を進める場をつくる	外国人同士が互いに助け合うコミュニティをつくる	外国人への差別や偏見をなくすよう、日本人へ意識啓発を進める	日本人、外国人双方に、子どもの頃から異文化理解や多文化共生の教育を進める	その他	
全体	418	162	229	248	190	95	125	68	127	150	7	
	100%	38.8%	54.8%	59.3%	45.5%	22.7%	29.9%	16.3%	30.4%	35.9%	1.7%	
年齢	20歳代以下	44	15	18	25	17	11	11	12	9	16	0
		100%	34%	41%	57%	39%	25%	25%	27%	20%	36%	0%
	30歳代	57	24	31	33	31	12	16	10	13	19	1
		100%	42%	54%	58%	54%	21%	28%	18%	23%	33%	2%
	40歳代	79	32	41	46	31	25	24	14	20	39	3
		100%	41%	52%	58%	39%	32%	30%	18%	25%	49%	4%
	50歳代	68	30	37	44	36	19	21	12	28	20	0
	100%	44%	54%	65%	53%	28%	31%	18%	41%	29%	0%	
60歳代	64	29	44	46	28	13	22	9	26	25	0	
	100%	45%	69%	72%	44%	20%	34%	14%	41%	39%	0%	
70歳以上	104	32	58	53	47	15	31	11	31	31	3	
	100%	31%	56%	51%	45%	14%	30%	11%	30%	30%	3%	

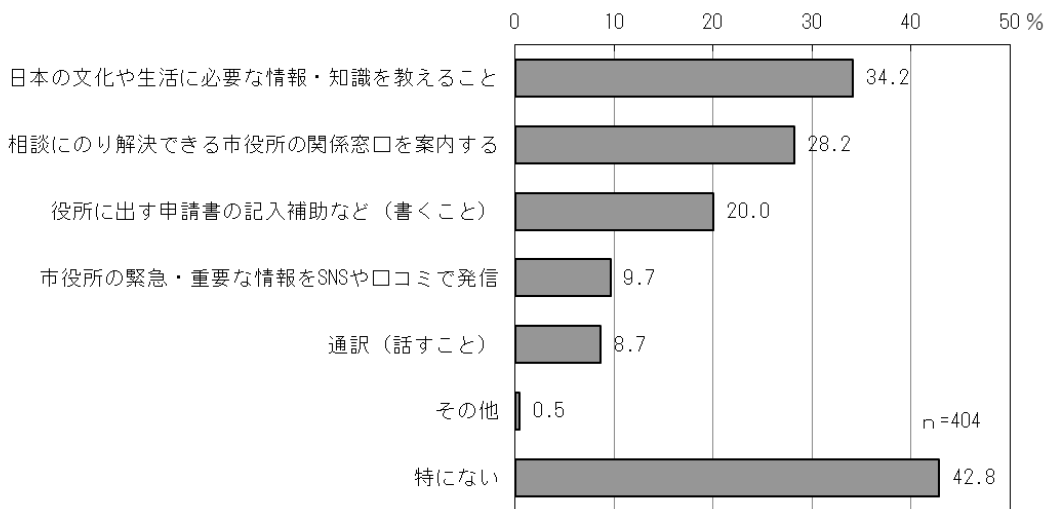
(8) 外国人の支援者として行政に協力できること

設問…

あなた自身が、外国人への支援者として行政に協力できるとしたら、どのようなことで協力できると思いますか（日本語を話せる外国人への支援も含む）。[〇はいくつでも]

◇「外国人の支援者として行政に協力できること」は、「特にない」42.8%と多いが、できることでは「日本の文化や生活に必要な情報・知識を教えること」が34.2%と最も多く、次いで「困りごとの相談にのって、解決できる市役所の関係窓口を案内すること」が28.2%、「役所に出す申請書の記入補助など（書くこと）」20.0%などとなっている。

◇【年齢別】…70歳以上で「特にない」が59%と比較的高くなってきているほかは、年代による明らかな差はあまり見られない。



年齢別

	合計	外国人の支援者として行政に協力できること							
		通訳（話すこと）	役所に出す申請書の記入補助など（書くこと）	市役所からの緊急・重要な情報をSNSや口コミで発信すること	日本の文化や生活に必要な情報・知識を教えること	困りごとの相談にのって、解決できる市役所の関係窓口を案内すること	その他	特にない	
全体	404	35 8.7%	81 20.0%	39 9.7%	138 34.2%	114 28.2%	2 0.5%	173 42.8%	
年齢	20歳代以下	44 100%	4 9%	11 25%	4 9%	20 45%	12 27%	0 0%	14 32%
	30歳代	56 100%	5 9%	15 27%	6 11%	22 39%	14 25%	0 0%	22 39%
	40歳代	79 100%	6 8%	21 27%	4 5%	25 32%	24 30%	1 1%	29 37%
	50歳代	67 100%	12 18%	15 22%	9 13%	19 28%	21 31%	1 1%	24 36%
	60歳代	62 100%	4 6%	9 15%	4 6%	19 31%	18 29%	0 0%	27 44%
	70歳以上	95 100%	4 4%	10 11%	12 13%	33 35%	25 26%	0 0%	56 59%

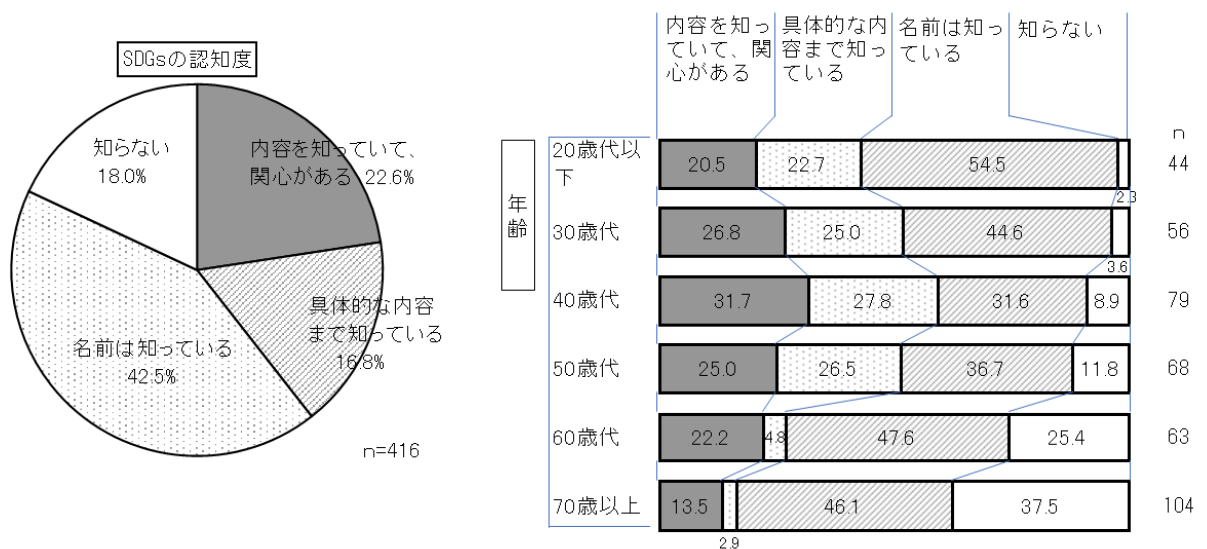
3-5. 地球規模の共生

(1) SDGs の認知度

設問… あなたは、SDGs（持続可能な開発目標）について知っていますか。[〇は1つ]

◇「SDGs の認知度」は、「内容を知っていて関心がある」が22.6%、「具体的な内容まで知っている」が16.8%、「名前は知っている」が42.5%であり、知っているレベル以上の割合は合わせて81.9%となっている。

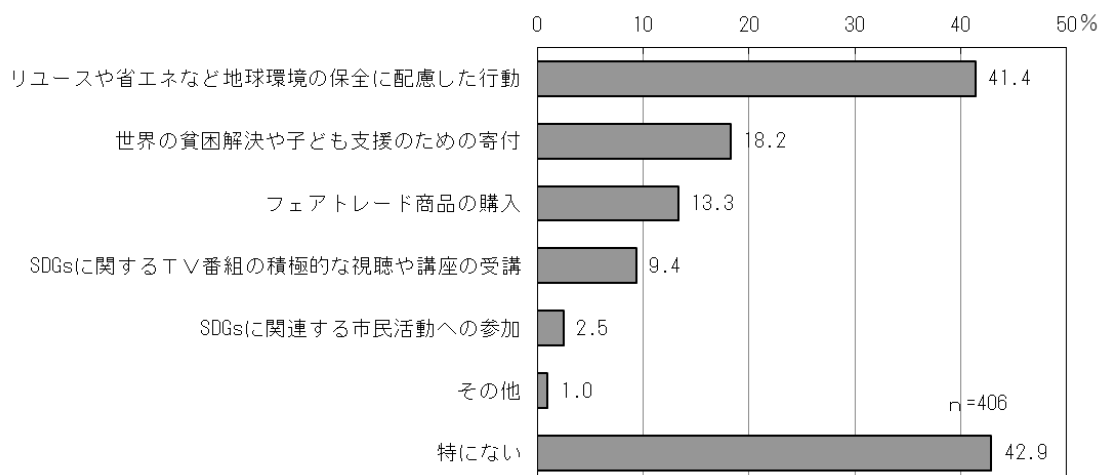
◇【年齢別】…知っているレベル以上の割合は、20歳代以下が97.7%と最も高く、年代が上がるにつれて減る傾向にあり、70歳以上では62.5%となっている。



(2) SDGs の達成に向けた行動実行度

設問… SDGsの達成に向けた次の行動をしたことがありますか。[〇はいくつでも]

◇「SDGsの達成に向けた行動実行」は、「特にない」42.9%と多いが、実行していることでは「リユースや省エネなど地球環境の保全に配慮した行動」が41.4%と最も多く、次いで「世界の貧困解決や子ども支援のための寄付」が18.2%、「フェアトレード商品の購入」13.3%などとなっている。



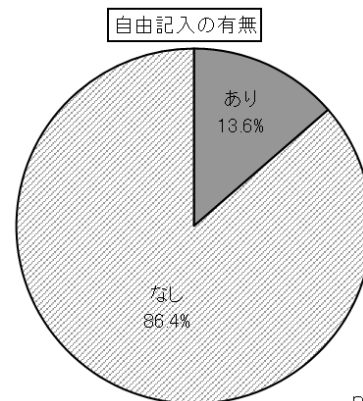
(3) 多文化共生のための具体的提案、心温まるエピソードの有無

設問…

川谷市を多文化共生のまちにするために、あなたの具体的な提案、やりたいこと、貢献できそうなことがありましたら、ご記入ください。[自由記入]
 あるいは、あなたの市内の外国人市民との関わりの中で心温まるエピソードなど「いい～話」や「面白い話」がありましたら、教えてください。[自由記入]

◇「多文化共生のための具体的提案、心温まるエピソードの有無」

の記入の有無は、「あり」が13.6%となっている。



多文化共生のための具体的提案の内容 ※内容は取捨選択して整理予定

- ◇私は海外からの人たちに会うとできるだけ話をするように心掛けている。話し掛けられた外国人に拒絶されたことは、ほとんどない。皆、話しかけてもらいたいんだと思う。これからもできるだけ海外の人と話をして行きたい。もう少し深く関わっていきたいと思う。
- ◇外国人の母国の料理を教えてもらえる料理教室等があれば嬉しい。
- ◇私自身が消費生活アドバイザーの資格を保有しているので、消費者トラブルなどの問題解決にあたっていると、外国人がどうしても弱い立場になりがちな課題の解決に貢献できると思う。
- ◇各地で交流会があるとよい。◇外国人との共同イベントに参加したい。
- ◇仕事が休みの時（土日祝日）に外国の方との交流の場があれば参加してみたい。
- ◇川谷市は、すでに一部の情報発信は多言語で実施しているが、その翻訳レベルに疑問を感じている。中国語訳は、グーグル翻訳機能を使用したような不自然さで正確な中国語ではないと思う。国際化・多文化共生を掲げるならば、多言語ボランティアに頼るだけでなく、語学に堪能な職員を常駐させることを提案する。民間企業での翻訳作業は、外国語が分かる日本人と外国人でダブルチェック後、正式に案内している。“翻訳レベル＝企業の信頼度”と考えられているためである。今後の川谷市の国際化・多文化共生に非常に期待している。
- ◇川谷市に在住されている人の母国の食品を売っている店舗の増設などが必要ではないか（特定の国に偏らない）。
- ◇小学校、中学校で SDGs の勉強を今はよく学んでいると聞いたことがある。ただ、住んでいる地域の外国人との交流というのはいらないと思う。子どもの頃から教えるのは大切だと思う。子どもから大人（親）も学べるかと。
- ◇英語が苦手なのでコミュニティやイベントに参加しづらい。気軽に立ち寄れるような集まり、イベントがあればいいと思う。外国人が開くお店、屋台など。
- ◇仕事と家事に追われている生活なので、“多文化共生”の視点を持って少しずつ言語や文化に興味を持ったり、イベントに参加したりしてみようと思う。子どもが小さい頃、何のためらいもなくスーパーで外国人の男性に声をかけていたのに、自分の中に偏見みたいなものがある事を感じた。幼い頃から交流していれば、自然と共生できるのかなと思う。
- ◇様々な国々の祭り、行事、食べ物などの催しを、年1回など定期的に開催し、有名なイベントにしていく。
- ◇貢献できるとしたら、道案内ぐらいと思う。
- ◇中2の息子のクラスにはアジア系の男の子が2人いるそう。息子本人が無口であり発言をしない子ではあるが、時々は交流があるようである。子どもの頃からもっともっとうろんな交流があるといいなと思う。
- ◇子ども同士が遊んだり、学べる場があると良い（子どもを通して親同士の交流にもつながるため）。外国人の子と日本人の子が交流できるのが、インターナショナルスクールなどしか思い浮かばないので、ほかにもあったらいいと思う。子育て支援センターに遊びに来ている子も日本人しか見かけないので、外国人の子もいるといいと思う。

◇外国人、日本人に関わらず、子どもたちの学校生活のサポートにおいて、先生以外のサポート人員が必要と感じる（先生は もちろん関わりますが、足りない所の補助）。きめ細かく生活全般を教えてくれる人が必要では？有償・無償ボランティアに関わらず、親身に相談に乗ってくれる人がもっと増えるとよい。

◇文化交流の身近な場として、各地区にある「市民館」の利用状況が少ない。市民館利用規約のハードルをもっと下げる（外国人市民も含め）。防災、防犯等および社会福祉活動の観点からも、地域住民同士の交流活動の中に市民館利用の頻度を高くした方がよい。

◇多文化共生とか SDGs とか一般人にとって難解な言葉が先に立っているように思え、外国人との付き合いに国際感覚など身構えが必要な感覚がある。普通に困っている事など身構えずに話し合える題目にして、分かり易い内容で交流した方がいいのではないか。

<外国人や多文化共生に否定的な意見>

◆若者にも言えることだが、昔の「道徳」が身につけていない。これも文化なのかもしれないので、ルール以上にモラルを教える場を必要としている気がする

◆相互主義としての多文化共生は理解できるが、現実として例えばイスラム国家に、仏教寺院、日本の神社は建設しているのか？女性の人権が著しく制限されている文化も、多文化共生の名のもと、認めるのか疑問がある。一方的な「多文化を認める」だけの多文化共生には明確に反対。

◆今の住んでいる地域は外国の方も見かけない、落ち着いた場所である。市民の質を落とさないようにしてほしい。

◆外国人が多い地域の治安やトラブルについて十分に情報収集をしてほしいと思う。割合が増えれば、発言力が高まり、地元住人の考えがくつがえされることも想定される。いい意味で日本人は大人しいので。

◆日本の若者の雇用を守る為に外国人は増やさない方がいい。賃金が上がらない原因の一つでもある。

◆ごみの分類とかもグチャグチャに出しているのを見ると他の面もそういう目で見てしまう。

◆多文化共生の町にする必要はない。ここは日本である。外国の文化を無理に持ちこまれては困る。日本が好きで日本の文化や習慣が好きでそれに染まりたい外国人だけを受け入れてください。

◆多文化共生ありきの意見には反対（治安&文化の違い）⇒少数程度で良いと思う。

◆私の周りの外国人の方々は生きるために昼夜働いている。だから、住宅のルール等々を丁寧に教えても、マイペースで守ってもらえなくて大変である。そうすると日本人住民とのギクシャクが始まる。私は、外国人は外国人ばかりのコミュニティを作ってあげた方が親切かなと思う。

心温まるエピソード ※内容は取捨選択して整理予定

◇ミドルネームは日本人にないので覚えられず、職場で、ニックネームで名前を呼んでいること。外国人が大人になり、学ぶ事が多い（文化など）。

◇ブラジル人達が我が家の近くの休田を借り、畑として種々の野菜類を作っていて、その精悍な動作に驚かされたものだった。ある時、ブラジルで「蚊よけの草花」という苗をいただき、それが今も我が家の庭の隅に生きております。

◇子どもの友達ファミリーが中国の方で、「餃子の作り方を教えて」と話していたら、餃子パーティーをしてくれて、手作り餃子や中国の料理をたくさん作ってごちそうしてくれた。おもてなしがすごくてびっくりした。うれしくて楽しかった思い出である。

◇気難しそうだが、お話するようになると、やさしい人が多い。

◇近所で仕事の様子である外国人の男性とたまに話す。他市に住んでいたが、外国人が多く治安が悪いので、家族のために治安の良い刈谷市に家を持ったとのこと。日本人も外国人も思うところは同じと感じる。

◇職場に今年の秋からタタルスタンの方がパートに入った（旧ソビエト地域の国）。日本の在住年数が20年以上あり、日本語も漢字もある程度できるが、やはり色々と習慣の違いはあるようだ。仕事の合間にいろいろな話をして、感覚や仕事の段取りなどすり合わせている。イスラム教徒なので、お昼休憩時に礼拝をされる。3月には断食（ラマダン）もあるようである。宗教のことなので、知らないと理解が難しいが、可能な限り本人の希望に添うように対応したりしている。この間はボルシチをごちそうになった。本当に真っ赤だった。日本人だと、しば漬け色に感じるのに、味はビーフコンソメ風。色覚と味覚が日本と違って面白。

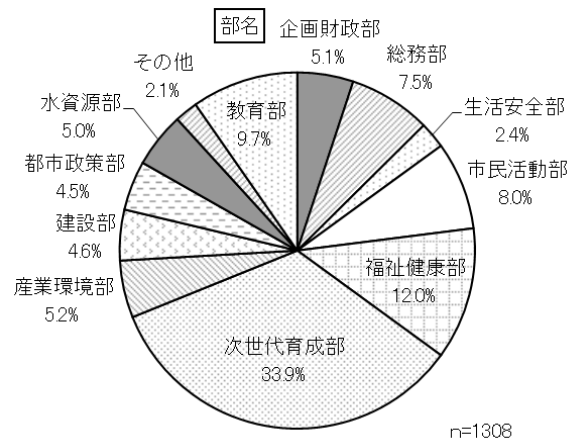
◇海外駐在のため家族と外国で生活していた。子どもは異文化のコミュニケーションスキルを学んでおり、中学3年間、外国人と一緒に毎朝、通学した。外国の生活は子どもに苦労させたが、良い点もあったと思う。

第4章 市職員・市各部署等アンケートの結果

4-1. 回答者の属性

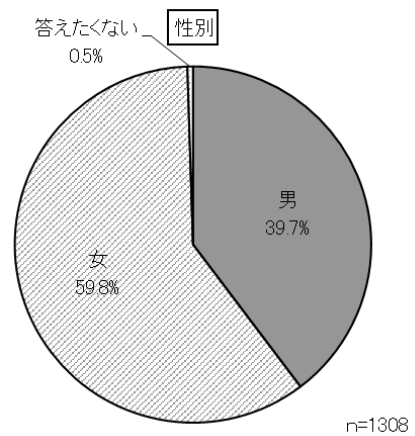
1) 所属部署等

◇所属部署は、次世代育成部が33.9%と最も多く、次いで福祉健康部12.0%、教育部9.7%、市民活動部8.0%となっている。



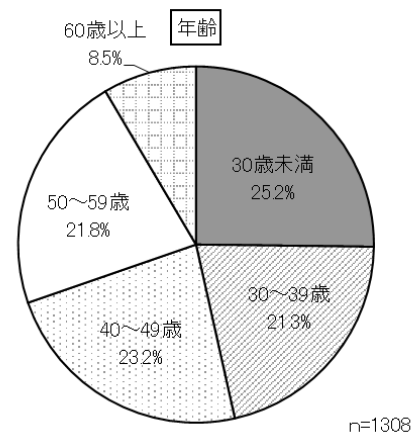
2) 性別

◇性別は、女性が59.8%、男性が39.7%とやや女性の割合が高くなっている。



3) 年齢

◇年齢は、30歳未満が25.2%と最も多く、次いで40歳代23.2%、50歳代21.8%、30歳代21.3%と、各世代概ね同割合の構成となっている。



4-2. 職務での外国人との関わりと課題

1) 外国人市民との関わりの有無

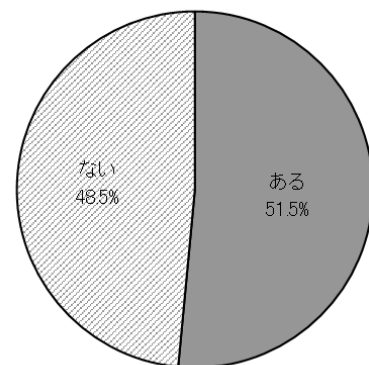
設問… 令和4年4月以降これまでの間で、職務で外国人市民と関わったことはありますか。
[1つ選択]

◇職務における「外国人市民との関わり」は、「ある」が51.5%、「ない」が48.5%となっている。

◇【部署別】…「ある」の割合は、次世代育成部が81.3%と最も高く、次いで福祉健康部 58.6%、市民活動部 53.8%、生活安全全部 48.4%となっている。

◇【年齢別】…「ある」の割合は、30歳未満で63.3%と最も高く、年代が上がるにつれて割合は減る傾向にあり、60歳以上では34.2%となっている。

外国人市民との関わりの有無



部署別

	合計	外国人市民との関わりの有無	
		ある	ない
全体	1,308	674 51.5%	634 48.5%
企画財政部	67	5 7.5%	62 92.5%
総務部	98	43 43.9%	55 56.1%
生活安全部	31	15 48.4%	16 51.6%
市民活動部	104	56 53.8%	48 46.2%
福祉健康部	157	92 58.6%	65 41.4%
次世代育成部	445	362 81.3%	83 18.7%
産業環境部	68	13 19.1%	55 80.9%
建設部	60	14 23.3%	46 76.7%
都市政策部	59	7 11.9%	52 88.1%
水資源部	65	9 13.8%	56 86.2%
その他	27	3 11.1%	24 88.9%
教育部	127	55 43.3%	72 56.7%

年齢別

	合計	外国人市民との関わりの有無	
		ある	ない
全体	1,308	674 51.5%	634 48.5%
30歳未満	330	209 63.3%	121 36.7%
30～39歳	278	155 55.8%	123 44.2%
40～49歳	304	149 49.0%	155 51.0%
50～59歳	285	123 43.2%	162 56.8%
60歳以上	111	38 34.2%	73 65.8%

2) 関わった外国人市民の国籍

設問… [前問の選択肢1を回答した方へ] どの国の外国人市民でしたか。わかる範囲でお答えください。【複数選択可】

◇関わった外国人市民の国籍は、「フィリピン」が68.5%と最も多く、次いで「ベトナム」が49.7%、「中国」49.3%、「ブラジル」46.0%となっている。以降の国籍も含めて、刈谷市の外国人市民の構成比と概ね同様な順位の国籍となっている。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	フィリピン	462	68.5%
2	ベトナム	335	49.7%
3	中国	332	49.3%
4	ブラジル	310	46.0%
5	韓国・朝鮮	102	15.1%
6	ネパール	79	11.7%
7	スリランカ	69	10.2%
8	インドネシア	59	8.8%
9	タイ	58	8.6%
10	ミャンマー	47	7.0%
11	ペルー	42	6.2%
12	その他	90	13.4%

※その他…アメリカ7、ニュージーランド5、トンガ4、パキスタン4、スペイン3、オーストラリア2、カナダ2、ポルトガル2、インド2、ロシア2、ドイツ、ガーナ、バングラデシュ

3) 関わった外国人市民との意思疎通の方法

設問… [前々問の選択肢 1 を回答した方へ] 外国人市民との意思疎通をどのようにしましたか。【複数選択可】

◇関わった外国人市民との意思疎通の方法は、「日本語をやさしくして会話した」が 80.9%と最も多く、次いで「身振り・手振りや表情で」が 52.1%、「外国人生活相談員（通訳）を介して」が 33.1%、「日本人と同様に日本語で会話した」が 30.6%、「文字や絵を描きながら」が 23.3%となっている。

◇「スマホの通訳アプリ」や「ポケトーク」を使って意思疎通をしたという割合は、それぞれ 18.8%、13.2%であった。

◇「その他」のケースとして多いのは、生活相談員以外に通訳として、友人、家族、英語が話せる職員、委託している電話通訳（ワクチン接種用）などに依頼するものであった。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	日本語をやさしく(わかりやすく)して会話した	545	80.9%
2	身振り・手振りや表情で	351	52.1%
3	外国人生活相談員(通訳)を介して	223	33.1%
4	日本人との会話と同じように日本語で会話した	206	30.6%
5	文字や絵を描きながら	157	23.3%
6	スマートフォンなどの通訳アプリ等を使って	127	18.8%
7	ポケトークを使って	89	13.2%
8	英語で会話した	79	11.7%
9	相手の外国人の母語で会話した	6	0.9%
10	その他	32	4.7%

※その他：

- ◇外国人市民に同行していた通訳（友人含む）を介して
- ◇外国人が電話した先の通訳の人を介して
- ◇外国人が持っている端末に入っている通訳アプリを使って
- ◇日本語のわかる人に電話してもらい、通訳してもらう。
- ◇やさしい日本語は知らないが、丁寧な言葉はわかりにくいので、単語や日常会話の言葉使いで話すようにしている。
- ◇英語の話せる職員を通じて
- ◇中学生の見学の際に引率の先生がポケトークを使用
- ◇外国人市民の親族（通訳替わり）を介して
- ◇多言語電話通訳（ワクチン接種用に契約）
- ◇委託している多言語通訳コールセンターを介して
- ◇日本語を話せる外国人市民を連れて一緒に来庁していたため、その友人等に通訳してもらった。
- ◇日本語の分かる兄弟を介して
- ◇語学指導員に通訳や文章を翻訳してもらい伝えた
- ◇保護者の家族に日本語を理解できる方がいたため、日本語のメモを渡して、家で通訳してもらった。
- ◇幼稚園・語学指導員の先生がいっしょやる日があるので、日本語で伝わりにくいことは、通訳をしていただいたり、手紙を翻訳していただいたりして、対応している。
- ◇メールでのやりとりを日本語で行った。
- ◇ご家族の日本人の方に通訳していただいた
- ◇電子メール
- ◇物を見せたり時間を紙に書いたり、子どもから伝えてもらったりした。
- ◇伝わらないため、日本人の父のほうに伝えるようにした。
- ◇ひらがなであれば読めるとのことだったため、文字にして伝えた。
- ◇外国人市民が連れてきた日本語がわかる友人と電話を介して

4) やさしい日本語の認知度・使用度

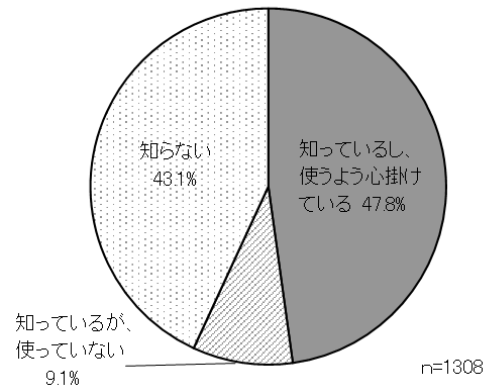
設問… 「やさしい日本語」という言葉を知っていますか、また「やさしい日本語」を使うようにしていますか。 [1つ選択]

◇「やさしい日本語の認知度・使用度」は、「知っているし、使うよう心掛けている」が47.8%、「知っているが、使っていない」が9.1%、「知らない」が43.1%となっている。

◇【部署別】…「知っているし、使うよう心掛けている」の割合は、生活安全部が64.5%と最も高く、次いで次世代育成部が63.6%、福祉健康部52.8%、市民活動部49.0%、教育部46.5%となっている。

◇【年齢別】…「知っているし、使うよう心掛けている」の割合は、30歳未満で55.4%と最も高く、年代が上がるにつれて割合は減る傾向にあり、60歳以上では34.2%となっている。

やさしい日本語の認知度・使用度



部署別

	合計	やさしい日本語の認知度・使用度		
		知っているし、使うよう心掛けている	知っているが、使っていない	知らない
全体	1,308	625 47.8%	119 9.1%	564 43.1%
部署名	企画財政部	67 26.9%	18 11.9%	41 61.2%
	総務部	98 43.9%	43 9.2%	46 46.9%
	生活安全部	31 64.5%	20 9.7%	8 25.8%
	市民活動部	104 49.0%	51 8.7%	44 42.3%
	福祉健康部	157 52.8%	83 8.3%	61 38.9%
	次世代育成部	445 63.6%	283 4.7%	141 31.7%
	産業環境部	68 32.4%	22 16.2%	35 51.4%
	建設部	60 23.3%	14 8.3%	41 68.4%
	都市政策部	59 22.0%	13 8.5%	41 69.5%
	水資源部	65 12.3%	8 15.4%	47 72.3%
	その他	27 40.8%	11 18.5%	11 40.7%
	教育部	127 46.5%	59 15.7%	48 37.8%

年齢別

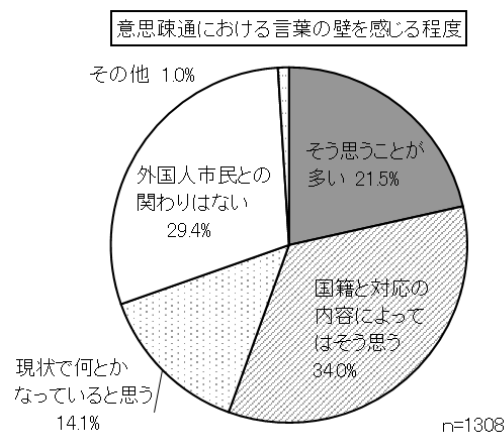
	合計	やさしい日本語の認知度・使用度		
		知っているし、使うよう心掛けている	知っているが、使っていない	知らない
全体	1,308	625 47.8%	119 9.1%	564 43.1%
年齢	30歳未満	330 55.4%	183 5.8%	128 38.8%
	30～39歳	278 48.5%	135 6.5%	125 45.0%
	40～49歳	304 48.7%	148 7.2%	134 44.1%
	50～59歳	285 42.5%	121 12.3%	129 45.2%
	60歳以上	111 34.2%	38 22.5%	48 43.3%

5) 意思疎通における言葉の壁を感じる程度

設問… 職務として外国人市民と関わる上で、外国人市民の母国語でやり取りしないと十分に意思疎通ができないと感じることがありますか。[1つ選択]

◇「外国人市民の母国語でやり取りしないと十分に意思疎通ができないと感じる程度」は、「そう思うことが多い」が30.4%（「外国人市民との関わりはない」を母数に含めた場合（以下同じ）21.5%）、「国籍と対応の内容によってはそう思う」が48.2%（34.0%）、であり、意思疎通における言葉の壁を感じる割合は合わせて78.6%（55.5%）となっている。

◇【年齢別】…意思疎通における言葉の壁を感じる割合は、40歳代で84.9%とやや高く、50歳代以上でやや低いが、おおむね年代によって大きな差はみられない。



外国人市民との関わりはない」を母数に含めた場合

No.	選択肢	回答者数	割合	割合 (関わりない除く)
1	そう思うことが多い	281	21.5%	30.4%
2	国籍と対応の内容によってはそう思う	445	34.0%	48.2%
3	現状で何とかなっていると思う	184	14.1%	19.9%
4	外国人市民との関わりはない	385	29.4%	-
5	その他	13	1.0%	1.4%
	全体	1,308	100.0	100.0

※その他（主なもの）：

- ◇その人によるところが大きい。
- ◇必要最低限のやりとりはできているが、聞き取り内容など日本人との差があるため、十分とは言えない
- ◇外国人通訳の人を紹介すると、こちらの思いや相手の思いが通訳の人のフィルターを通すことになるので、かえって伝わらないことがある。
- ◇最大限かみ砕いて話しても相手が理解しているかわからないことがあった。
- ◇会話としては成立しているが、本当の意味でお互いが理解ができているのかは不明。

年齢別

	合計 (関わりないを除く)	意思疎通における言葉の壁を感じる程度				意思疎通における言葉の壁を感じる割合
		そう思うことが多い	国籍と対応の内容によってはそう思う	現状で何とかなっていると思う	その他	
全体	923	281 30.4%	445 48.2%	184 19.9%	13 1.4%	726 78.7%
年齢	30歳未満	256 69 27.0%	132 51.6%	53 20.7%	2 0.8%	256 78.5%
	30～39歳	205 63 30.7%	111 54.1%	30 14.6%	1 0.5%	205 84.9%
	40～49歳	220 66 30.0%	107 48.6%	42 19.1%	5 2.3%	220 78.6%
	50～59歳	188 64 34.0%	75 39.9%	44 23.4%	5 2.7%	188 73.9%
	60歳以上	54 19 35.2%	20 37.0%	15 27.8%	0 0.0%	54 72.2%

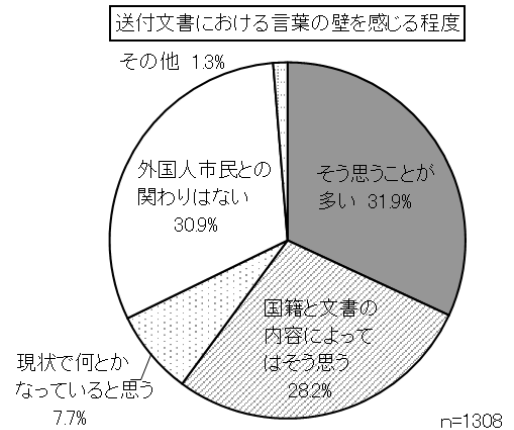
6) 送付文書における言葉の壁を感じる程度

設問…

職務として外国人市民と関わる上で、外国人市民に送付する文書が日本語だと、内容が伝わらないと感じることがありますか。[1つ選択]

◇「外国人市民に送付する文書が日本語だと、内容が伝わらないと感じる程度」は、「そう思うことが多い」が46.1%（「外国人市民との関わりはない」を母数に含めた場合（以下同じ）31.9%）、「国籍と文書の内容によってはそう思う」が40.8%（28.2%）、であり、送付文書における言葉の壁を感じる割合は合わせて86.9%（60.1%）となっている。

◇【年齢別】…送付文書における言葉の壁を感じる割合は、年代によって大きな差はみられない。



外国人市民との関わりはない」を母数に含めた場合

No.	選択肢	回答者数	割合	割合 (関わりない除く)
1	そう思うことが多い	417	31.9%	46.1%
2	国籍と文書の内容によってはそう思う	369	28.2%	40.8%
3	現状で何とかなっていると思う	101	7.7%	11.2%
4	外国人市民との関わりはない	404	30.9%	-
5	その他	17	1.3%	1.9%
	全体	1,308	100.0	100.0

※その他（主なもの）：

- ◇外国人の日本語の理解力によるが、理解していないまま放置している人が多数いる可能性もあり、把握が難しい状況と思われる。
- ◇その方（とその家族）の日本語力と内容による。
- ◇母語でも伝わらないことがある。連絡が取れないことも多々ある。ただし、日本人でも同じことがいえるので、こちらも相手も慣れていくしかない。
- ◇日本語（話す、聞き理解する、読む、書く）能力の当事者の状況によると思う。
- ◇送付文書で当日消印有効という文面があったが、中国国籍の市民の方はこの意味が分からなかったと言っていた。家族に聞いて解決したとのことでした。

年齢別

	合計 (関わりないを除く)	送付文書における言葉の壁を感じる程度				送付文書における言葉の壁を感じる割合	
		そう思うことが多い	国籍と文書の内容によってはそう思う	現状で何とかなっていると思う	その他		
全体	904	417 46.1%	369 40.8%	101 11.2%	17 1.9%	786 86.9%	
年齢	30歳未満	250	110 44.0%	110 44.0%	29 11.6%	1 0.4%	256 88.0%
	30～39歳	197	89 45.2%	88 44.7%	17 8.6%	3 1.5%	205 89.8%
	40～49歳	216	94 43.5%	96 44.4%	20 9.3%	6 2.8%	220 88.0%
	50～59歳	186	93 50.0%	59 31.7%	28 15.1%	6 3.2%	188 81.7%
	60歳以上	55	31 56.4%	16 29.1%	7 12.7%	1 1.8%	54 85.5%

7) 伝達時に制度や習慣の壁を感じる程度

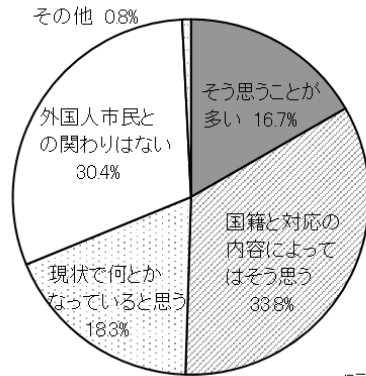
設問…

職務として外国人市民と関わる上で、外国人市民の母国と日本の制度や習慣が違い、理解してもらるのが難しいと感じることがありますか。[1つ選択]

◇「外国人市民の母国と日本の制度や習慣が違い、理解してもらのが難しいと感じる程度」は、「そう思うことが多い」が24.1%（「外国人市民との関わりはない」を母数に含めた場合（以下同じ）16.7%）、「国籍と対応の内容によってはそう思う」が48.4%（33.8%）、であり、伝達時に制度や習慣の壁を感じる割合は合わせて72.5%（50.5%）となっている。

◇【年齢別】…伝達時に制度や習慣の壁を感じる割合は、60歳以上で81.1%とやや高く、うち「そう思うことが多い」が40%近くになっている。30歳未満は「現状で何とかなっている」が30.6%と比較的高くなっている。

伝達時に制度や習慣の壁を感じる程度



外国人市民との関わりはない」を母数に含めた場合

No.	選択肢	回答者数	割合	割合 (関わりない除く)
1	そう思うことが多い	219	16.7%	24.1%
2	国籍と対応の内容によってはそう思う	440	33.8%	48.4%
3	現状で何とかなっていると思う	240	18.3%	26.4%
4	外国人市民との関わりはない	398	30.4%	-
5	その他	11	0.8%	1.2%
	全体	1,308	100.0	100.0

※その他（主なもの）：

◇「外国人市民の母国と日本の制度や習慣の違い」を感じるほど深く関わっていない。
 ◇対応の内容によってはそう思う。また、外国人市民の方の日本の文化などに対する理解や姿勢によってもそう思うことがある。
 ◇対応する外国人市民の状況により異なるものと思います。

年齢別

		合計 (関わりないを除く)	伝達時に制度や習慣の壁を感じる程度				伝達時に制度や習慣の壁を感じる割合
			そう思うことが多い	国籍と対応の内容によってはそう思う	現状で何とかなっていると思う	その他	
全体		910	219 24.1%	440 48.4%	240 26.4%	11 1.2%	659 72.4%
年齢	30歳未満	252	51 20.2%	121 48.0%	77 30.6%	3 1.2%	256 68.3%
	30～39歳	199	52 26.1%	98 49.2%	48 24.1%	1 0.5%	205 75.4%
	40～49歳	216	44 20.4%	112 51.9%	58 26.9%	2 0.9%	220 72.2%
	50～59歳	190	51 26.8%	87 45.8%	47 24.7%	5 2.6%	188 72.6%
	60歳以上	53	21 39.6%	22 41.5%	10 18.9%	0 0.0%	54 81.1%

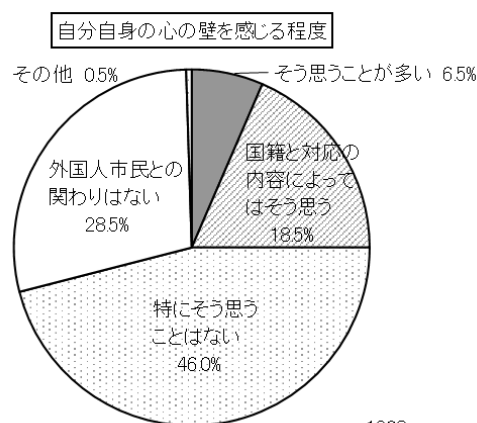
8) 自分自身の心の壁を感じる程度

設問…

職務として外国人市民と関わる上で、外国人市民に苦手意識があり、不安や偏見の気持ちを持ってしまふと感じることがありますか。[1つ選択]

◇「外国人市民に苦手意識があり、不安や偏見の気持ちを持ってしまふと感じる程度」は、「そう思うことが多い」が 9.1%（「外国人市民との関わりはない」を母数に含めた場合（以下同じ）6.5%）、「国籍と対応の内容によってはそう思う」が 25.9%（18.5%）、であり、自分自身の心の壁を感じる割合は合わせて 35.0%（25.0%）となっている。

◇【年齢別】…自分自身の心の壁を感じる割合は、60歳以上で 47.3%と最も高く、年代が下がるにつれで減る傾向があり、30歳未満では 30.1%となっている。



外国人市民との関わりはない」を母数に含めた場合

No.	選択肢	回答者数	割合	割合 (関わりない除く)
1	そう思うことが多い	85	6.5%	9.1%
2	国籍と対応の内容によってはそう思う	242	18.5%	25.9%
3	特にそう思うことはない	601	46.0%	64.3%
4	外国人市民との関わりはない	373	28.5%	-
5	その他	7	0.5%	0.7%
	全体	1,308	100.0%	100.0%

※その他（主なもの）：

- ◇通訳さんがいないと業務の内容を正確に伝えられるか不安があります。
- ◇相手に伝わっているか不安がある。偏見は持っていないつもり。
- ◇偏見はないが、対応することに不安は感じる。

年齢別

	合計 (関わりないを除く)	自分自身の心の壁を感じる程度				自分自身の心の壁を感じる割合
		そう思うことが多い	国籍と対応の内容によってはそう思う	特にそう思うことはない	その他	
全体	935	85 9.1%	242 25.9%	601 64.3%	7 0.7%	327 35.0%
年齢	30歳未満	21 8.1%	57 22.0%	181 69.9%	0 0.0%	256 30.1%
	30～39歳	14 6.8%	56 27.3%	133 64.9%	2 1.0%	205 34.1%
	40～49歳	21 9.4%	60 26.9%	140 62.8%	2 0.9%	220 36.3%
	50～59歳	20 10.4%	52 26.9%	118 61.1%	3 1.6%	188 37.3%
	60歳以上	9 16.4%	17 30.9%	29 52.7%	0 0.0%	54 47.3%

9) 改善すべき課題と解決のための提案の有無

設問…

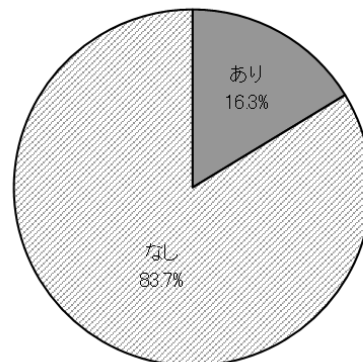
職務として外国人市民と関わる上で、特に改善すべき課題だと思うことと、解決のための提案があったら、自由に記入してください。(自由記述)

◇自由記述の「改善すべき課題と解決のための提案」は、「あり」が16.3%である。

◇【部署別】…「あり」の割合は、総務部が21.4%と最も高く、次いで次世代育成部20.2%、福祉健康部19.1%、市民活動部16.3%、生活安全部16.1%などとなっている。

◇【年齢別】…「あり」は、50歳代で19.6%と高く、年代が下がるにつれて減る傾向があり、30歳未満では10.6%となっている。

改善すべき課題や提案の有無



部署別

	合計	改善すべき課題や提案の有無	
		あり	なし
全体	1,308	213 16.3%	1,095 83.7%
部 名	企画財政部	10 14.9%	57 85.1%
	総務部	21 21.4%	77 78.6%
	生活安全部	5 16.1%	26 83.9%
	市民活動部	17 16.3%	87 83.7%
	福祉健康部	30 19.1%	127 80.9%
	次世代育成部	90 20.2%	355 79.8%
	産業環境部	6 8.8%	62 91.2%
	建設部	4 6.7%	56 93.3%
	都市政策部	5 8.5%	54 91.5%
	水資源部	7 10.8%	58 89.2%
	その他	2 7.4%	25 92.6%
	教育部	16 12.6%	111 87.4%

年齢別

	合計	改善すべき課題や提案の有無	
		あり	なし
全体	1,308	213 16.3%	1,095 83.7%
年 齢	30歳未満	35 10.6%	295 89.4%
	30～39歳	48 17.3%	230 82.7%
	40～49歳	55 18.1%	249 81.9%
	50～59歳	56 19.6%	229 80.4%
	60歳以上	19 17.1%	92 82.9%

4-3. 改善すべき課題と解決のための提案の内容

1) 分類

◇自由記述の「改善すべき課題と解決のための提案」の大きめに下表のとおり分類した。

A. 制度の難解さや関わるスタンスに関するもの	① 気持ちの持ちよう ② 異文化理解 ③ 母国語でのプチ会話 ④ 偏見の解消	⑤ 制度や用語の理解促進 ⑥ 多文化対応マニュアルの用意 ⑦ 職員育成や外国籍採用
B. 窓口等での会話言葉に関するもの	① 通訳・翻訳ツールや先端技術の活用 ② 通訳の人数、対応言語等の拡充 ③ 庁外施設への通訳の派遣・充実 ④ 英語ができる職員化	⑤ やさしい日本語の周知・活用 ⑥ 指さし会話表や絵・図の作成・活用 ⑦ 外国人窓口の一元化 ⑧ 外国人への日本語教育
C. 文書の多言語化や外国人向け情報発信に関するもの	① 各種文書の多言語化 ② 文書の翻訳システムづくり	③ 外国人向けの情報発信 ④ 多言語や図による案内表示

◇A～Cの分類項目ごとに、主な記述内容について、同様な意見は集約（同一意見人数を掲載）し整理した。

A) 制度の難解さや関わるスタンスに関するもの

改善すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆外国人相手に限らず、理解が難しいような用語を使用すると伝わらない。 ◆コミュニケーションにかかる時間を、十分に設けることに制約があることが多い。 ◆文化的な背景の違いや当たり前をすり合わせるのが難しい(時間を守る、ご飯の食べ方など)。 ◆窓口での説明は身振り手振りで何とかありますが、電話対応が特に難しい。 ◆職員が、外国人市民をどこまで理解することができるかが課題。 ◆お互いの理解度が不明確であることが課題。 ◆外国人のみならず、障害者、高齢者などとの関わりの不具合は、差別意識や思い込み、相互理解の欠如から生じることが多いと感じる。 ◆文化の違いや日本人とは異なる容姿が偏見につながることはある(話してみると日本人より紳士)。 ◆税制度や扶養範囲等、日本人にも説明しづらい制度への配慮が必要。 ◆職務上、専門用語を使うこともあり、外国人にはわかりにくいのではないかと思うことが度々ある。 ◆支援内容が複雑(家庭環境等)であるため、個人での対応が難しい。 ◆保育園の申し込みなど、制度が複雑で変化が多い制度に対して理解が浅くなってしまっている。
① 気持ちの持ちよう	<p>◇伝えたい気持ちを強く持って対応することが一番大切。こちらから積極的に話しかけること。</p> <p>◇相手の話したい内容を聞き取り、面倒がらず、根気よく、理解する姿勢で対応する。</p> <p>◇職員が関わるのは外国人だけでなく、いろんな立場の業者や人、障害者など多岐にわたるため、個々の事情で理解しあうことが大切。</p> <p>◇外国人ということで特別視せず、支援が必要ならするという気持ちで接する。</p> <p>◇言葉だけでは伝わりづらい部分があるため、身振り手振りを加えて伝えていく必要がある。</p> <p>◇日本人の代表者であるという心がけて接する。</p> <p>◇自分自身が時間に余裕を持ち、コミュニケーションにかかる時間が十分に設ける。</p>
② 異文化理解	<p>◇その国の文化や習慣の違いを理解した上で、提案をしていくことが大切。</p> <p>◇文化に着目した研修等、職員の意識を変える企画を行う。</p>

③ 母国語でのプチ会話	<p>◇母国語を使って伝えようとする姿勢が伝わると外国人市民の方の対応が変わってくることもある。</p> <p>◇よく使う単語は、相手の母国語が伝えられるとよい</p>
④ 偏見の解消	<p>◇国、民族によって差別的にならないようにする。</p> <p>◇外国人に対する偏見をなくし、フラットな感覚で接することが大切。</p>
⑤ 制度や用語の理解促進	<p>◇手続きに必要な書類が煩雑なことが多いため、目的をわかりやすくして、簡略化できるとよい。</p> <p>◇制度等を説明する用紙は、ほぼ全ての言語で翻訳されていることが望ましい。</p> <p>◇最新の制度を伝えられる手段があるとよい。</p>
⑥ 多文化対応マニュアルの用意	<p>◇国ごとに通じる言葉が把握できるとよい。</p> <p>◇刈谷市に住んでいる外国人の国別人数、比率等のデータがあれば見たい。</p> <p>◇国による文化や習慣の違いをきちんと理解する。</p> <p>◇外国人の方の今まで多かった問い合わせ内容をまとめて、職員全体で共有する。どのように回答したら相手わかりやすいかなど、外国の方へアンケートを取ってみるなど。</p> <p>◇市内の外国人市民の人数や、窓口での対応方法を予め学んでおくと、不安なく対応できる。</p> <p>◇基本的な業務に関する外国語での説明文書を作成し、活用しようとする。</p>
⑦ 職員育成や外国籍採用	<p>◇まずは「知る」ことによる「意識改革」が大切であるが、数時間の研修だけではなく、「福祉」や「市民」の関係部署を、職員の誰もがなるべく若いときに一度は経験するような「年単位の経験」を積む。</p> <p>◇多文化共生について勉強したい。職員向けの研修の実施。</p> <p>◇日常で外国人市民との会話機会が出てくる環境を、意図的に作る事が必要。</p> <p>◇正規職員として、外国籍の方の採用を増やす。</p>

B) 窓口等での会話言葉に関するもの

改善すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆意思疎通のためにも、外国人の方が母国語を使えるような環境が必要。 ◆多国籍のため、それぞれの言語に対応できる職員がいない。 ◆通訳が不在時にコミュニケーションが全くできないような人を取りこぼさないようにすることが課題。 ◆相手の日本語理解力に委ねてしまっていて、その結果、支援につながらないケースがある。 ◆簡単なやり取りはポケットクで補えるが、複雑な各種手続きのニュアンスを伝える難しい(3人)。 ◆通訳の人数が不足し窓口で待たせてしまう、庁時に通訳をお願いできないことがある。 ◆ベトナム人は英語も日本語が得意でない方が多く、翻訳機を使用しても意思疎通が難しい。 ◆ベトナム語の案内などのサービスが不足している。 ◆本庁だけでなく出先機関においても外国人市民に関わる場合があるがあまり意識されていない。 ◆庁外での仕事のときに通訳を派遣できない。 ◆幼児園・保育園では保護者対応となり、怪我、体調などの細かな事を伝える日々の対応が難しい。 ◆やさしい日本語の使用については本市ではまだ取り組みが不足している。 ◆内容や言い回しによっては、日本語の敬語が伝わりづらいつらと感じることがある。
① 通訳・翻訳ツールや先端技術の活用	<p>◇各部署もしくは外国人対応が多い課にポケットクなどの通訳・翻訳機が配置されるとよい(29人)。</p> <p>◇訪問面談を行う際に、ポケットクを持ち出せるようにする。</p> <p>◇通訳者がいなくてもポケットクレベルの機器で概ね目的が理解できる程度に慣れる。</p> <p>◇携帯の変換機能などを使うなど、柔軟に機器の使用が認められると良い。</p> <p>◇保育園にWi-Fiをつなぎ、園側も保護者側も安心してネット通訳が使えるようにする。</p> <p>◇日本語ができる外国人市民を通訳等で採用し、各部署で情報共有する。</p> <p>◇日本語を話せない外国人来庁者に翻訳機を貸し出しできると窓口も安心して対応できる。</p> <p>◇相手方のスマホに翻訳アプリを読み込んでもらうなどできると円滑に進む。</p> <p>◇最新の ICT 技術を積極的に取り入れ、外国語を話せない職員でもコミュニケーションが可能となる環境(庁舎内外)を整備する。</p> <p>◇スマートシティ関連で実証実験をうまく活用できないか検討するのも良い。</p>

<p>② 通訳の人数、対応言語等の拡充</p>	<p>◇通訳の数を増やしてほしい(9人)。 ◇外国人生活相談員(通訳)に助けられていることが多いので、不在の時間が少なくなるとよい。 ◇通訳が対応できる言語を追加してほしい(2人)。 ◇特にベトナム人の対応が多くなっているため、ベトナム語の通訳がいるとよい(12人)。 ◇常時、通訳が必要な部署には専門の職員を設けた方がよい。 ◇深い話をするときのために、通訳との関係を普段から築くことが大切。</p>
<p>③ 庁外施設への通訳の派遣・充実</p>	<p>◇通訳を庁外の施設(しげはら園、保育園、幼稚園、子ども相談センター)にも派遣してほしい(16人)。 ◇地区別に通訳の人がいると別の施設でも継続的にサポートしてもらえる。 ◇巡回ではなく、直接対応のため、日本語が理解できない子どものために常駐してほしい。 ◇園だと、語学指導員が充実していると、伝達だけでなく、外国籍の方の心のケアもできる(2人)。 ◇保育園にベトナム語、中国語、タガログ語の通訳できる人、手紙の翻訳ができる人に来てほしい。 ◇通訳が病院の定期受診などについてきてもらえるようにしてほしい。 ◇幼稚園でのフィリピンの保護者をお願いしている通訳の回数と時間を増やしてほしい。 ◇日本のことを理解して通訳ができる人をボランティアできてくれるといい。 ◇教育・保育現場の実情、発達障害を理解している方に通訳してほしい。</p>
<p>④ 英語ができる職員化</p>	<p>◇英語なら話せる職員等をピックアップして横断的に対応できるような体制づくりが必要(2人)。 ◇職員は、最低限、英語は話せるようにする(母国語以外に英語を話せる人は多い)。</p>
<p>⑤ やさしい日本語の周知・活用</p>	<p>◇「やさしい日本語」の周知・普及(5人)。 ◇やさしい日本語に関する研修や翻訳ソフトの導入(2人)。 ◇やさしい日本語の言い換え表のようなものがあると、慌てずに対応できる。</p>
<p>⑥ 指差し会話表や絵・図の作成・活用</p>	<p>◇担当業務ごとに指差し会話表を作っておく。 ◇予約の仕方など口頭での説明では難しいものは絵や図などを用いた表を作成しておく。</p>
<p>⑦ 外国人窓口の一元化</p>	<p>◇外国人専用窓口の設置(全ての課の受付業務を集約する) ◇多言語に対応した電話相談窓口があるとよい。</p>
<p>⑧ 外国人への日本語教育</p>	<p>◇外国人市民への日本語教育の推進(2人) ◇日本語を勉強する機会をより多く設けるため、必要に応じて公費による日本語教室の設置をする。</p>

C) 文書の多言語化や外国人向け情報発信に関するもの

<p>改善すべき課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆書いてある言葉が難しく、外国人の方が理解できるような各書類や案内がない(5人)。 ◆提出期限がある重要な手続きでも、文書が日本語だと理解できずに、手続きしないままの外国人市民が少なくない(3人)。 ◆制度やサービス等の冊子やチラシ、パンフレットが外国語に対応していないため、必要なサービスが行き届いていない(3人)。 ◆市民に渡す書類で翻訳しているものはあるが、対応できていない言語も多くある。 ◆幼稚園、保育園の入園手続きなど提出書類の記入例などに外国語に翻訳した文書がないのは、不親切。それらの対応を園に任されていることにも負担を感じる。 ◆専門的な言い回しや、日本人でも難しいと思うような言葉が入園書類や申請用紙に使われており、通訳が翻訳に困ったり、現場でも説明に困ったりすることがある。 ◆国が用意する外国語訳が、刈谷市在住の外国人市民の外国語とそぐわない。 ◆案内文を翻訳言語の種類を増やしたいが、どこに依頼していいか、依頼できるのかが不明。 ◆配布文書の外国語翻訳版がなく、残業申請をしてまで直接説明している状況である。 ◆外国人市民がその情報を欲して、なんとかしようとして市側に問合せしたり、日本語ができる知人を頼ったりがあればよいが、そうでない場合は、日本人市民と比べ圧倒的に情報が伝わっていない。 ◆庁舎内で、行き先が分からず迷子になっている外国人を案内する機会が何度かある。
----------------	--

① 各種文書の多言語化	<p>◇対象者の母国語に応じた内容に翻訳した文書を送付することを検討すべき(4人)。</p> <p>◇すべての書類が、せめて日本語と英語表記を標準にすべき(2人)。</p> <p>◇通知文書が入った封筒に「内容のわからない方はこちらへ」と外国語表記、QRコードを付けて、メールなどで問い合わせせしてもらい、通訳者を介して外国語で返信できるといい(2人)。</p> <p>◇窓口で説明する最低限の内容のレジュメを言語ごとに翻訳して準備すると良い。</p> <p>◇一般的に生活するすべての案内等について、多言語でまとめて作成し、転入者に渡す。</p> <p>◇ホームページに添付されている園の手紙(行事予定)が翻訳されるようになるとよい(2人)。</p>
② 文書の翻訳システムづくり	<p>◇気軽に、スピーディーに使える言語翻訳に関するシステムを導入する(10人)。</p> <p>◇各部署で翻訳を依頼するのではなく、市役所で一括契約するなど、手間とコストが抑えられ、突発の依頼も簡単にできるような仕組みがあると頼みやすい。</p> <p>◇書面をスクショなどすると翻訳でき、保存・プリントできるようなものがあつたらいい。</p> <p>◇専門的な用語を含む文書が多いので、そうした翻訳に関わる職員がいると心強い。</p>
③ 外国人向けの情報発信	<p>◇外国人向けの情報発信の手法を考える。</p> <p>◇ホームページに外国人市民用のサイトを作り、お手紙や連絡事項をここで確認してもらう。</p> <p>◇日本の生活に必要なことを教えてもらえるような場所があるとよい。</p> <p>◇外国人市民の情報ネットワークのようなものが構築できれば、各部署が必要な時にそのネットワークを使って必要な情報を対象者に伝えられる。</p>
④ 多言語や図による案内表示	<p>◇正面玄関、エレベーター、モニター等入って分かりやすい位置に外国人向けの多言語案内を設置する(2人)。</p> <p>◇AIコンシェルジュの「エディア」を入口での利用。</p> <p>◇施設の部屋や案内図の表記、図書館の本の分類などに、外国語を追加した方がよい。</p> <p>◇ユニバーサルデザインで言葉だけでなく視覚的にわかりやすい表示を取り入れるとよい(2人)。</p>

4-4. 市各部署等単位の回答

※下記質問についての回答の内容は、別表にまとめた。

1) 外国人市民との関わりの内容

設問… 貴課等において、外国人市民との関わりにはどんなことがありますか。具体的にお書きください。

2) 令和4年4月からの問題点や課題

設問… 貴課等において、外国人市民との関わりの中で、令和4年4月からこれまでにあった問題点、今後、想定される課題がありますか。具体的にお書きください。複数ある場合は、冒頭に通し番号(①～)を付けて箇条書きにしてください。

3) 今後取り組むとよいと考える手立てや対策

設問… 前問で挙げた問題点や課題に対して、今後取り組むとよいと考える手立てや対策などがありましたら、具体的にお書きください。問2の通し番号(①～)を付けて問2で回答したどの問題点や課題に対応するものか分かるようにしてください。